

伊勢市バリアフリーマスタープラン 資料編

令和3年2月



【 目 次 】

ページ

第1編 伊勢市の現況整理

1. 伊勢市のバリアフリーに関する現況（まとめ）	1-1
1-1. 現況整理	1-1
2. 人口・障がい者数	1-3
2-1. 人口	1-3
2-2. 年齢別人口	1-4
2-3. 地区別人口	1-5
2-4. 地区別高齢化率	1-6
2-5. 障がい者種別手帳所持者の推移	1-7
2-6. 等級別身体障害者手帳所持者の推移	1-8
2-7. 部位別身体障害者手帳所持者の推移	1-9
3. 都市施設の立地状況	1-10
3-1. 生活関連施設候補の状況	1-10
3-2. 駅別立地状況	1-12
4. 観光動態	1-24
4-1. 市内観光客数の推移	1-24
4-2. 宿泊容量	1-25
4-3. 主要施設の観光客入込数	1-26
4-4. 観光客実態調査	1-27
5. 公共交通	1-30
5-1. 鉄道・駅	1-30
5-2. バス	1-34
6. 道路	1-39
6-1. 広域道路ネットワーク	1-39
6-2. 都市計画道路	1-40

第2編 市民アンケート

1. 市民アンケート調査の概要	2-1
1-1. 市民アンケート	2-2
2. 市民アンケート結果	2-3
2-1. 普段の外出（過去1年程度）	2-3
2-2. 今後の外出意向	2-13
2-3. バリアフリーのまちづくりに向けた意向	2-15
2-4. 市が実施しているバリアフリーに関する取り組み	2-17
2-5. あなたご自身（宛名のご本人）について	2-18

第3編 事業者・関係団体ヒアリング調査

1. 事業者・関係団体ヒアリング調査の概要	3-1
2. 事業者ヒアリング	3-2
2-1. 鉄道事業者ヒアリング（近鉄）	3-2
2-2. 鉄道事業者ヒアリング（JR）	3-3
2-3. バス事業者	3-4
2-4. タクシー協会（三交タクシー）	3-5
3. 関係団体ヒアリング	3-6

第4編 移動等円滑化促進地区の抽出

1. 移動等円滑化促進地区の要件	4-1
1-1. 伊勢市の移動等円滑化促進地区の選定基準	4-1
2. 評価指標による評価	4-3
2-1. 生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区（要件1） ..	4-3
2-2. 生活関連施設および生活関連経路についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区（要件2）	4-4
2-3. バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区 （要件3）	4-5
3. 評価の整理と移動等円滑化促進地区（案）の抽出	4-7
3-1. 基準値の整理	4-7
3-2. 移動等円滑化促進地区の選定	4-8

第5編 まち歩き（現地確認）の実施

1. まち歩き（現地確認）の実施	5-1
1-1. まち歩き（現地確認）の概要	5-1
2. まち歩き（現地確認）の結果	5-3
2-1. 伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区	5-3
2-2. 二見浦駅周辺地区	5-13

第6編 移動等円滑化促進地区の選定

1. 促進地区の区域および生活関連施設に関する考え方	6-1
1-1. 促進地区の区域	6-1
1-2. 生活関連施設	6-7

第7編 協議会・庁内検討会

1. 伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会.....	7-1
1-1. 策定経緯.....	7-1
1-2. 委員名簿.....	7-2
1-3. 設置要綱.....	7-4
2. 庁内検討会.....	7-5

第8編 用語集

第1編 伊勢市の現況整理

1. 伊勢市のバリアフリーに関する現況（まとめ）

1-1. 現況整理

伊勢市のバリアフリーに関する現況について以下の表にまとめた。また、各項目のデータについては、1-3 ページ以降に整理した。

表 現況整理のまとめ（1/2）

項目		まとめ
人口・ 障がい者数	人口	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は 1985（昭和 60）年以降減少傾向にあり、2015（平成 27）年時点では約 13 万人を下回っている。 ・2045（令和 27）年には約 9 万人まで減少する。 ・地区別人口は有絹地区と小俣地区で最も多い。 ・地区別高齢化率は早修地区が最も多い。
	年齢別人口	<ul style="list-style-type: none"> ・15 歳未満（年少人口）、15～64 歳（生産年齢人口）が 1985（昭和 60）年以降減少傾向にある。 ・65 歳以上（老年人口）は減少傾向にあるが、総人口の内、65 歳以上が占める割合は増加していくため、高齢化率は増加傾向にある。
	障害者等手帳 所持者の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者等手帳の所持者は年々増加傾向にある。 ・身体障害者手帳の所持者は減少傾向にある。 ・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者は増加傾向にある。 ・等級別では 1 級で増加傾向にあり、その他の等級は横ばいもしくは減少傾向にある。また、所持者数は 1 級が最も多く、次いで 4 級と 3 級が多い。 ・部位別では内部障がいが増加傾向にあり、その他の部位は減少傾向にある。また、肢体障がいが最も多く、次いで内部障がいが多い。
都市施設の 立地状況	駅別立地状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市内の生活関連施設候補の立地状況として、市内の中心地である「伊勢市駅周辺」「宇治山田駅周辺」に官公庁や商業施設が集中している。 ・観光に関連する施設は「伊勢市駅周辺」「宇治山田駅周辺」「二見浦駅周辺」などに集積している。
観光動態	伊勢市観光客 数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・2005（平成 17）年から増加傾向にあり、神宮（外宮・内宮）の参拝者はおおむね 800 万人以上で推移しており、式年遷宮のあった 2013（平成 25）年、その次年の 2014（平成 26）年では 1,000 万人を超えている。 ・神宮の車いす利用台数は 2010（平成 22）年から微増傾向にある。
	宿泊容量 メッシュ	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（外宮）を最寄りとする伊勢市駅（JR・近鉄）並びに二見興玉神社を最寄りとする二見浦駅周辺において、宿泊容量が大きい。
	主要施設の 観光客入込数	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（外宮・内宮）およびその周辺が最も多い。 ・その他に観光客の多い地域として、二見浦駅周辺がある。

表 現況整理のまとめ (2/2)

項目		まとめ	
観光動態	観光客実態調査	<ul style="list-style-type: none"> ・現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便だと感じる場所について、「特に不便はない」が最多だが、次いで「徒歩・車いすでの移動経路（歩道の段差、幅、視覚障害者誘導用ブロックなど）」「多機能トイレの数・場所」という回答が多かった。 ・市の観光バリアフリー等に関する取り組みの認知度について、「該当なし」を除くと、「手荷物預かり・配送【有料】」が12.6%（48人）、「車いすのレンタル」が12.1%（46人）となっている。 	
公共交通	鉄道・駅	乗客数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・JR線の鉄道乗客数は伊勢市駅が最も多く、増加傾向にある。次いで多い駅は五十鈴ヶ丘駅、宮川駅、二見浦駅である。また、近鉄線の鉄道乗客数は宇治山田駅が最も多く、2013（平成25）年をピークに減少傾向にある。次いで多い駅は伊勢市駅で増加傾向にある。
		乗降客数	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市駅（JR・近鉄）が最も多く、次いで宇治山田駅である。また、その他の駅では明野駅、五十鈴川駅で1日あたりの平均乗降客数が2,000人を超えている。
		鉄道駅のバリアフリー状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅、明野駅に駅員が常駐している。 ・車いすが利用可能な通路は伊勢市駅、小俣駅、宮町駅、宇治山田駅、五十鈴川駅が該当する。
	バス	路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスで最も利用の多い路線は外宮内宮線で、次いで御座線、サンアリーナ線、CANバスが多い。
		コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ・おかげバスの辻久留・藤里ルートの利用者数が最も多く、次いで東大淀・日赤ルート、二見ルートが多くなっている。 ・おかげバスデマンドでは粟野ルート、小木・田尻ルートで約1,000人以上の利用があり、沼木バスは買い物用が最も多い。
		1日あたりのバス停別乗降客数	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（内宮）の最寄りバス停である「内宮前」が最も多く、約2,000人/日以上である。 ・次いで、伊勢市駅・宇治山田駅の最寄りバス停である「宇治山田駅前」「伊勢市駅前」が1,600～1,800人/日である。
道路	広域道路ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の道路の83.4%が市道となっており、そのうち約6.0%にあたる約62,000mが未舗装である。 	
	都市計画道路	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路は、29路線、計81,304mが計画されており、76.9%（62,553m）が整備済みである。 	

2. 人口・障がい者数

2-1. 人口

本市の人口は1985年（昭和60年）以降減少傾向にあり、2015年（平成27年）時点では130,000人を下回っている。伊勢市人口ビジョンの平成25年推計値では、今後も人口減少が続くと推計されており、2025年（令和7年）は約110,000人、2045年（令和27年）は約90,000人まで減少する。

一方、1985年（昭和60年）以降、世帯数は増加傾向にあり、2015年（平成27年）時点では約50,000世帯となっている。

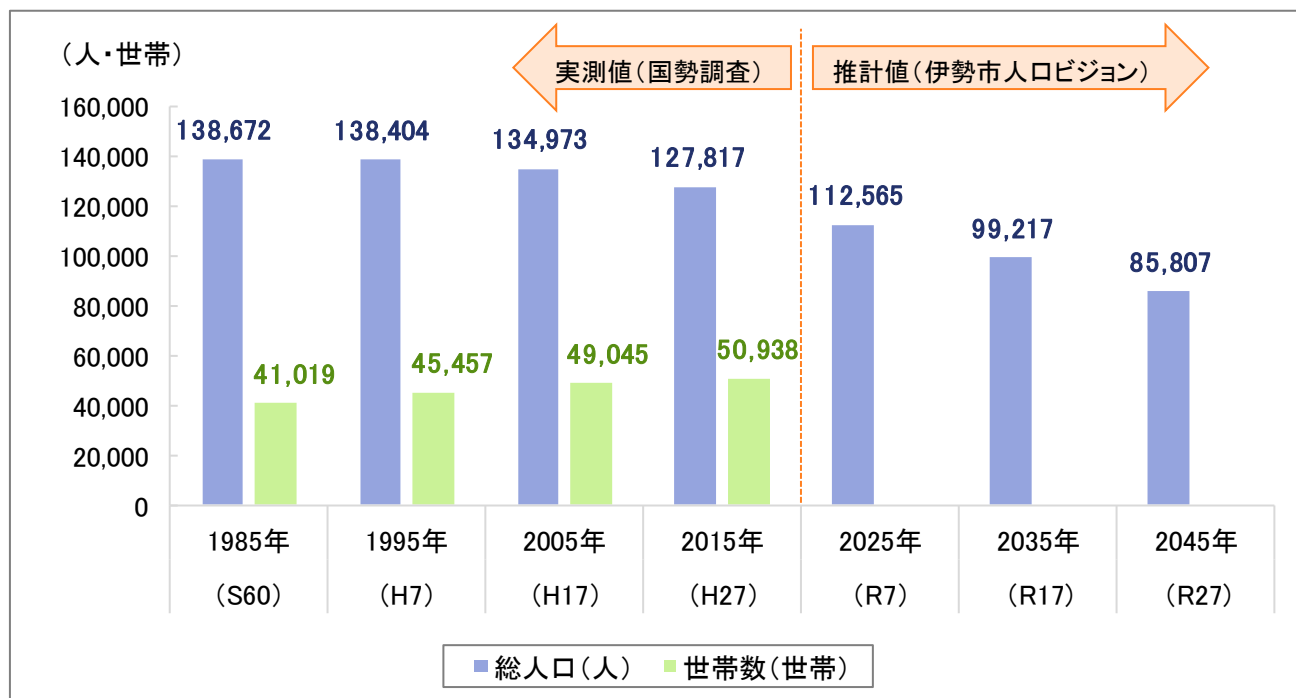


図 人口・世帯数

資料：国勢調査（1985年～2015年）

資料：伊勢市人口ビジョン（平成25年推計値）（2015年～）

2-2. 年齢別人口

本市の年齢別人口は15歳未満（年少人口）および15～64歳（生産年齢人口）が1985年（昭和60年）以降減少傾向にあり、2015年（平成27年）時点では15歳未満（年少人口）が約16,000人、15～64歳（生産年齢人口）が約74,000人である。今後も15歳未満（年少人口）および15～64歳（生産年齢人口）は減少傾向が継続すると推計されており、2025年（令和7年）には15歳未満（年少人口）は約12,000人、15～64歳（生産年齢人口）は約63,000人まで減少し、2045年（令和27年）には15歳未満（年少人口）は約8,000人、15～64歳（生産年齢人口）は約43,000人まで減少する。

一方、65歳以上（老年人口）も減少傾向にあるが、総人口の内、65歳以上（老年人口）が占める割合は増加していくため、高齢化率は上昇傾向にある。65歳以上（老年人口）は2015年（平成27年）時点で約37,000人、2045年（令和27年）には約34,500人に減少するが、高齢化率は2015年（平成27年）時点の約29%から、2045年（令和27年）には約40%まで上昇する。

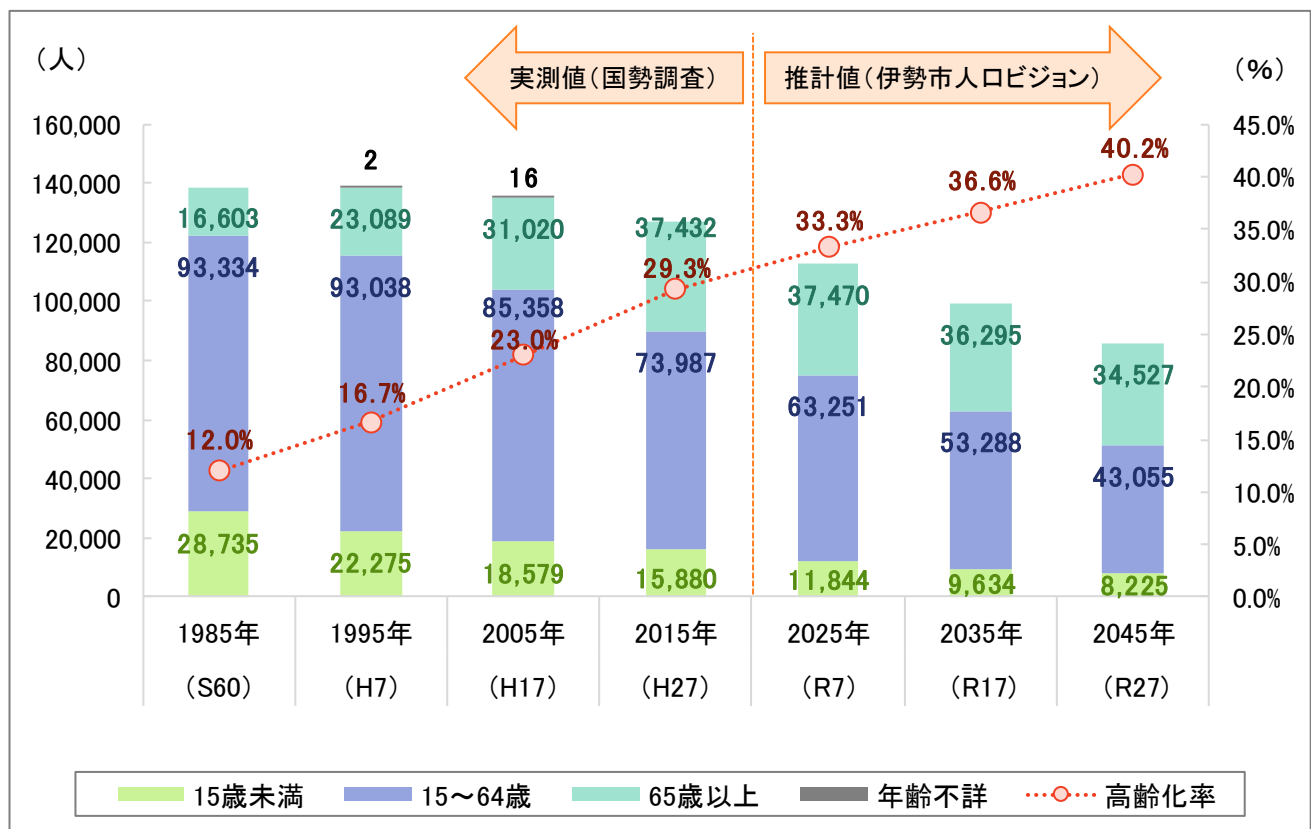


図 年齢別人口と高齢化率

資料：国勢調査（1985年～2015年）

資料：伊勢市人口ビジョン（平成25年推計値）（2015年～）

2-3. 地区別人口

本市の地区別人口は、伊勢市駅および宇治山田駅北側に位置する有絹地区と、宮川駅および小俣駅が最寄り駅となる小俣地区で人口が最も多く、10,000人以上となっており、次いで、御菌地区および二見浦地区で8,000人以上～10,000人未満となっている。一方、人口の少ない地区は東大淀地区、豊浜東地区、佐八地区、上野地区で2,000人未満となっている。

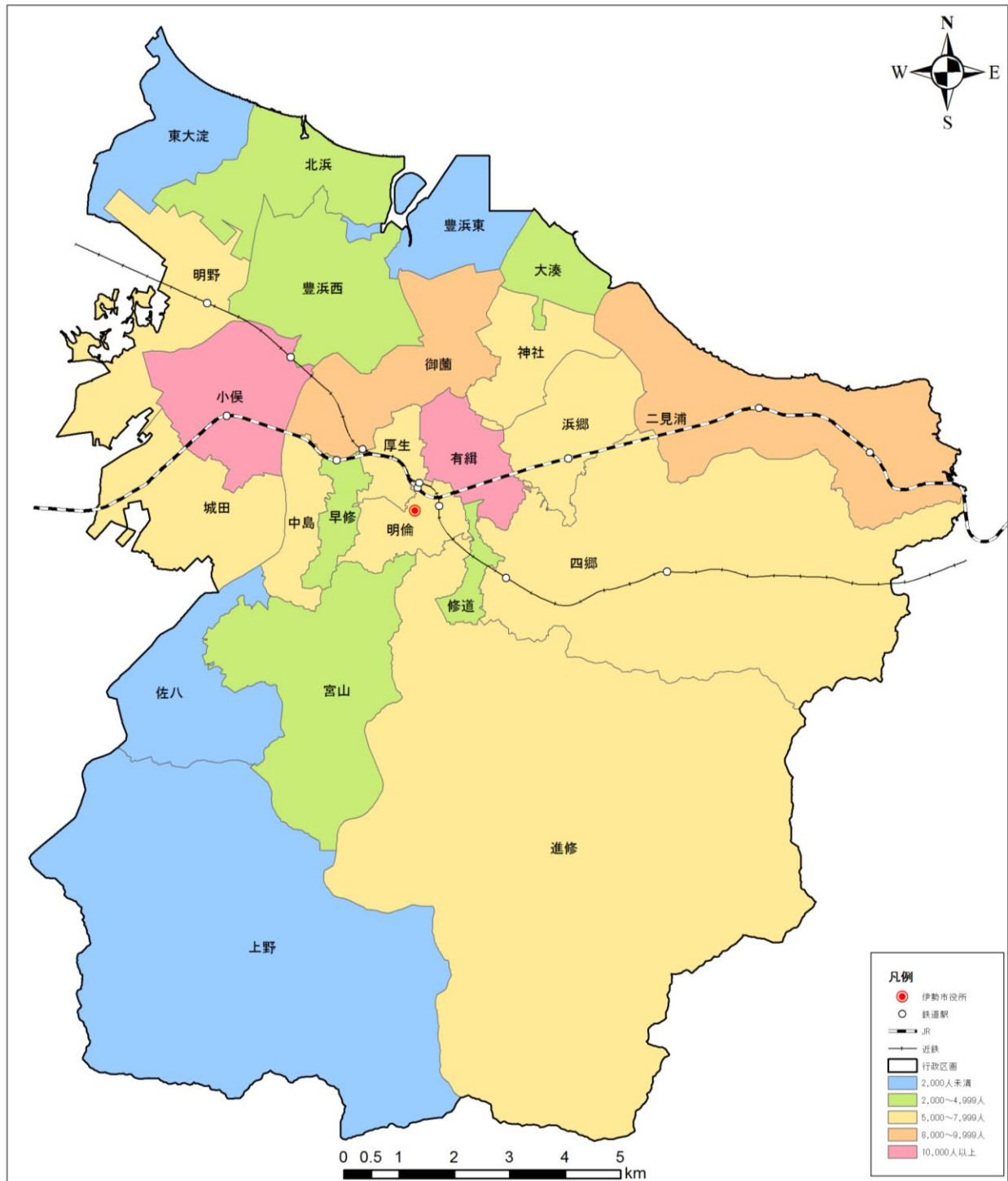


図 伊勢市の地区別人口

資料：国勢調査（2015年）

2-4. 地区別高齢化率

本市の地区別高齢化率は、山田上り駅の南に位置する早修地区で最も多く40%となっており、次いで、早修地区周辺の中島地区、明倫地区、厚生地区で35%以上40%未満となっている。一方、高齢化率の低い地区は宮山地区、明野地区、神社地区、浜郷地区、御園地区で25%未満となっている。

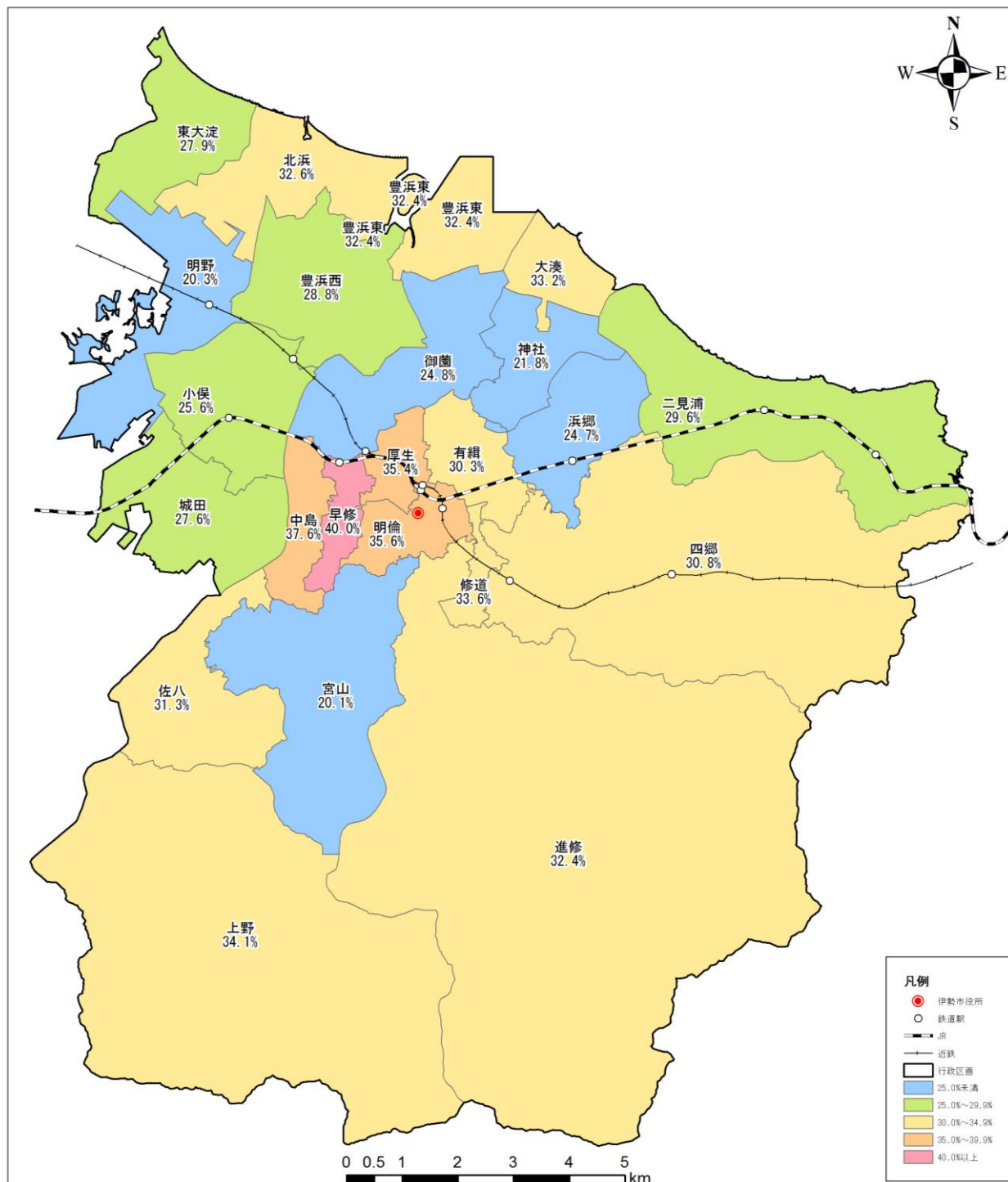


図 伊勢市の地区別人口

資料：国勢調査（2015年）

2-5. 障がい者種別手帳所持者の推移

本市の障がい者種別手帳の所持者は年々増加傾向にあり、2018年（平成30年）時点の所持者は約7,000人である。また、障がい者種別に見ると、身体障害者手帳の所持者は2013年（平成25年）以降減少傾向にあり、2018年（平成30年）には約5,100人である。療育手帳および精神障害者保健福祉手帳の所持者は2012年（平成24年）以降増加傾向にあり、2018年（平成30年）で療育手帳の所持者が約950人、精神障害者保健福祉手帳の所持者が約910人である。

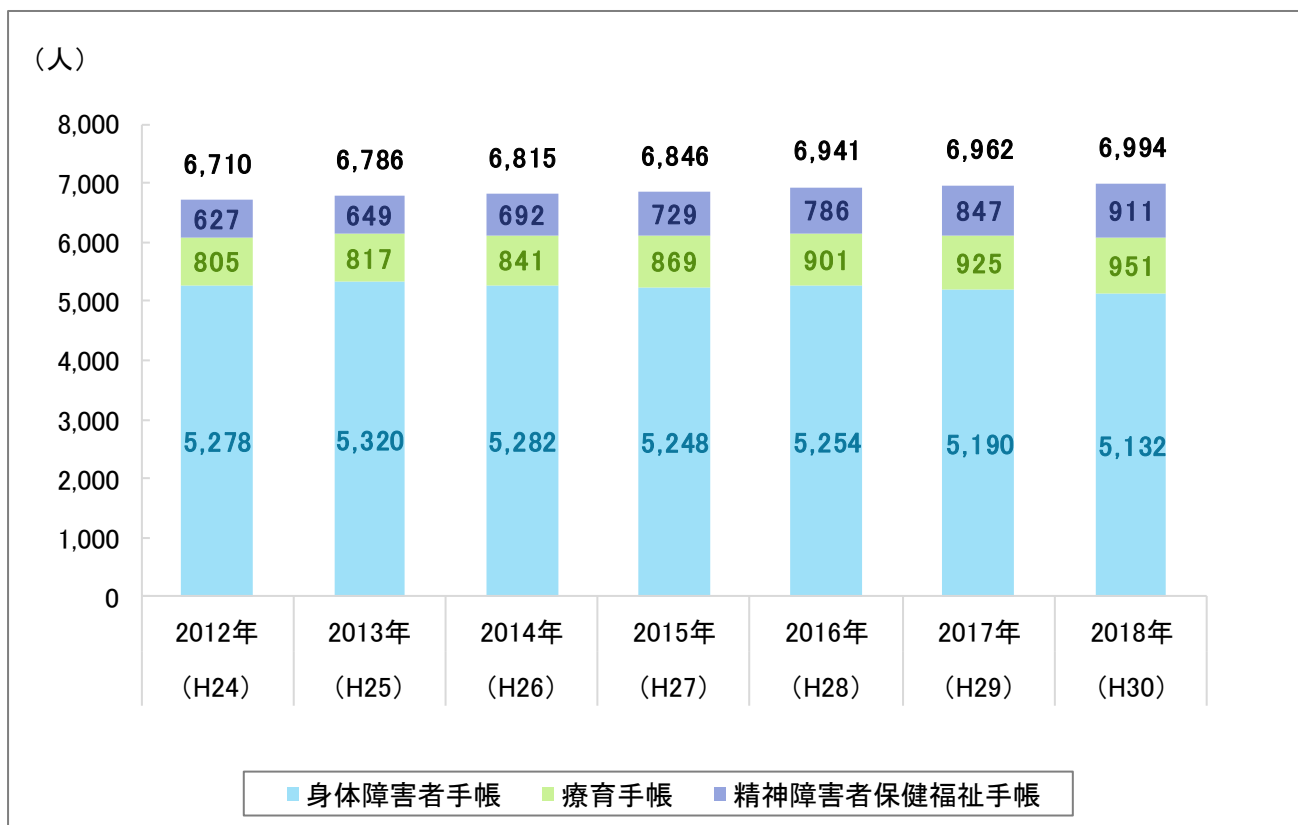


図 障がい者種別手帳所持者数

資料：伊勢市

2-6. 等級別身体障害者手帳所持者の推移

等級別身体障害者手帳所持者の推移は、1級が2012年（平成24年）に約1,600人であったのに対して、2018年（平成30年）には約1,700人に増加している。その他の等級では、4級が約1,200人、5級が約250人と大きな変化はなく、2級、3級、6級は2012年（平成24年）と比較して、2018年（平成30年）の所持者数は減少傾向にある。

また、等級別に見ると1級が最も多く、次いで4級と3級が多くなっている。

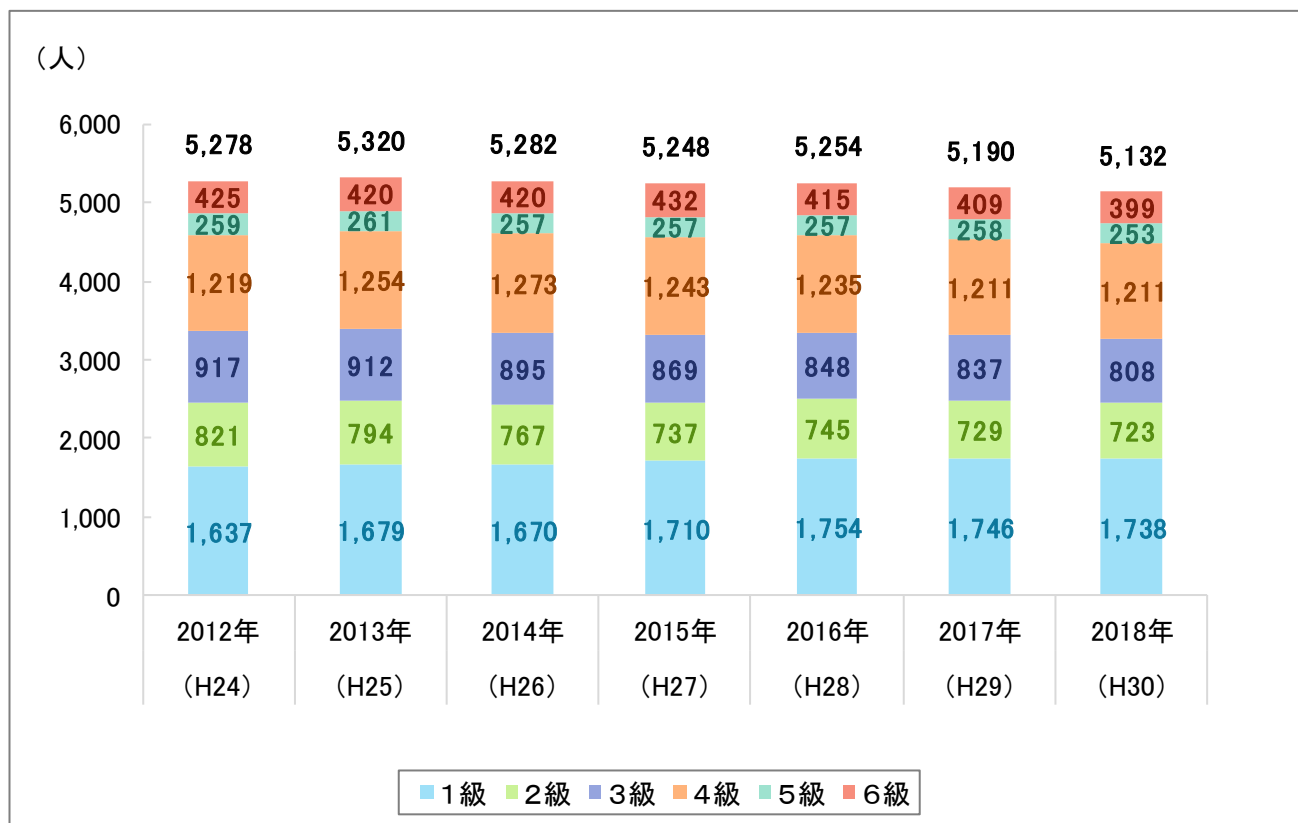


図 等級別身体障害者手帳所持者数

資料：伊勢市

2-7. 部位別身体障害者手帳所持者の推移

本市の部位別身体障害者手帳所持者の推移は、内部障がい者が2012年（平成24年）に約1,500人であったのに対し、2018年（平成30年）には約1,600人に増加している。肢体障がいは2012年（平成24年）と比較して約2,800人から約2,500人に減少しており、視覚障がいは2012年（平成24年）と比較して約340人から約320人に減少している。また、聴覚障がいは2012年（平成24年）と比較して約650人から約610人に減少しており、言語障がいは2012年（平成24年）と比較して約70人から約60人に減少している。

また、部位別に見ると肢体障がい者が最も多く、次いで内部障がい者が多くなっている。

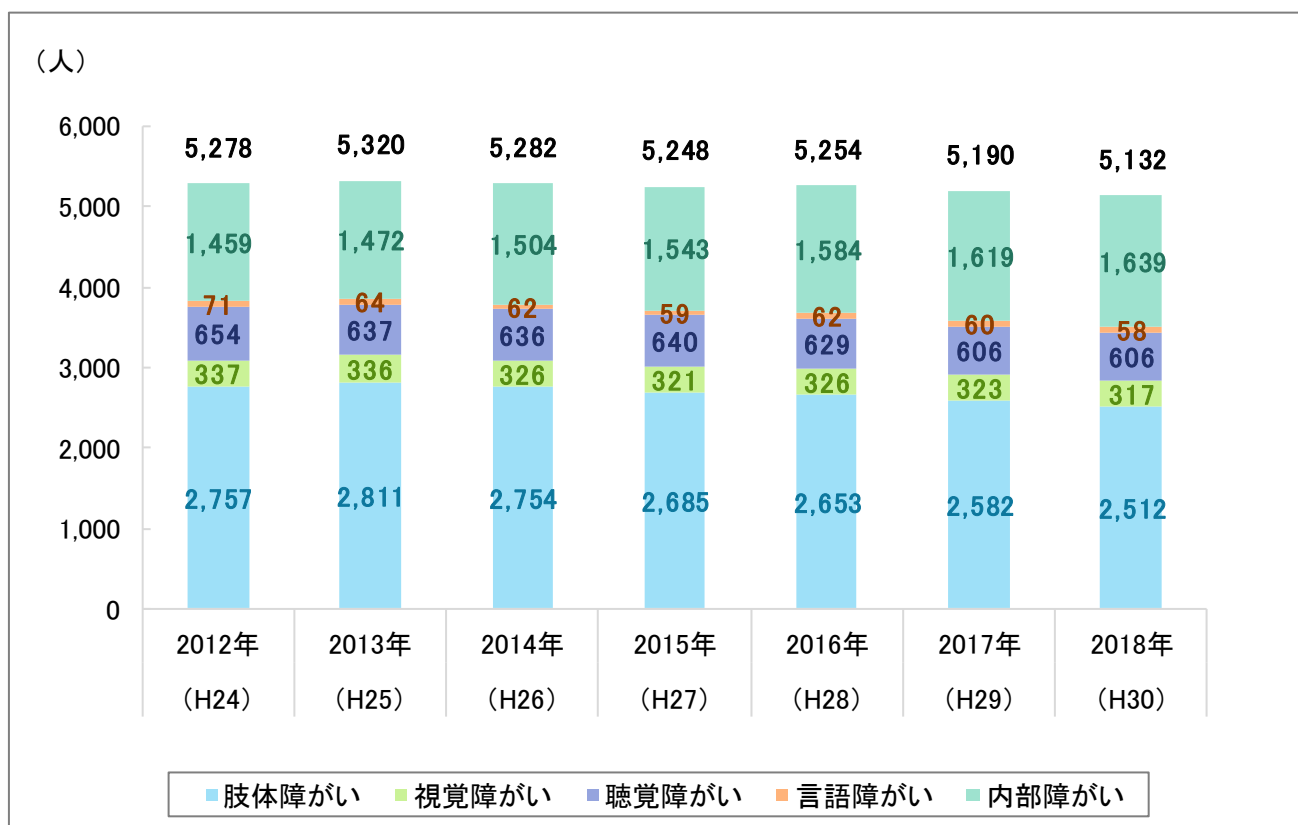


図 部位別身体障害者手帳所持者数

資料：伊勢市

3. 都市施設の立地状況

3-1. 生活関連施設候補の状況

伊勢市バリアフリーマスタープラン（以下「本マスタープラン」という。）においては、基本構想の内容を考慮しつつ、下記に該当するものを生活関連施設候補とした。生活関連施設候補については、2016年度（平成28年度）策定の伊勢市交通バリアフリー基本構想と整合を図りつつ、市内の高齢者・障がい者等だけでなく、広く来訪者にも配慮するものとして生活関連施設を設定した。

表 生活関連施設候補の考え方

施設の分類	基本的な考え方
旅客施設	伊勢市の移動等円滑化促進地区選定の考え方に基づき抽出された地区を形成する中心的な鉄道駅
官公庁	市関連施設（市役所等）、県事務所、税務署、法務局、裁判所、警察署など
金融機関等	銀行、郵便局など
医療施設	病院又は診療所で、用途面積が2,000㎡以上のもの
商業施設	娯楽施設（劇場、観覧場、映画館、演芸場など）、展示施設、物品販売施設、飲食施設、サービス施設、宿泊施設（ホテル・旅館など）などで、用途面積が2,000㎡以上のもの
子育て支援施設	保育所、認定こども園など
教育文化施設	スポーツ施設（体育館、プールなどで、一般開放されているもの）、美術館、博物館、図書館など
社会福祉施設	老人福祉センター、身体障害者福祉センターなど、公共施設であるもの
観光施設	市内の観光施設の中でも市内・市外から多くの利用者が見込まれる施設（観光統計記載の施設）
都市公園	都市公園のうち、街区公園を除くもの（地区住民だけでなく、多くの市民や市外からの来訪者が利用する公園）
路外駐車場	バリアフリー法に基づく特定路外駐車場（500㎡以上かつ料金を徴収している路外駐車場のうち、道路付属物・公園施設・建築物・建築物に付随しているものを除く）。

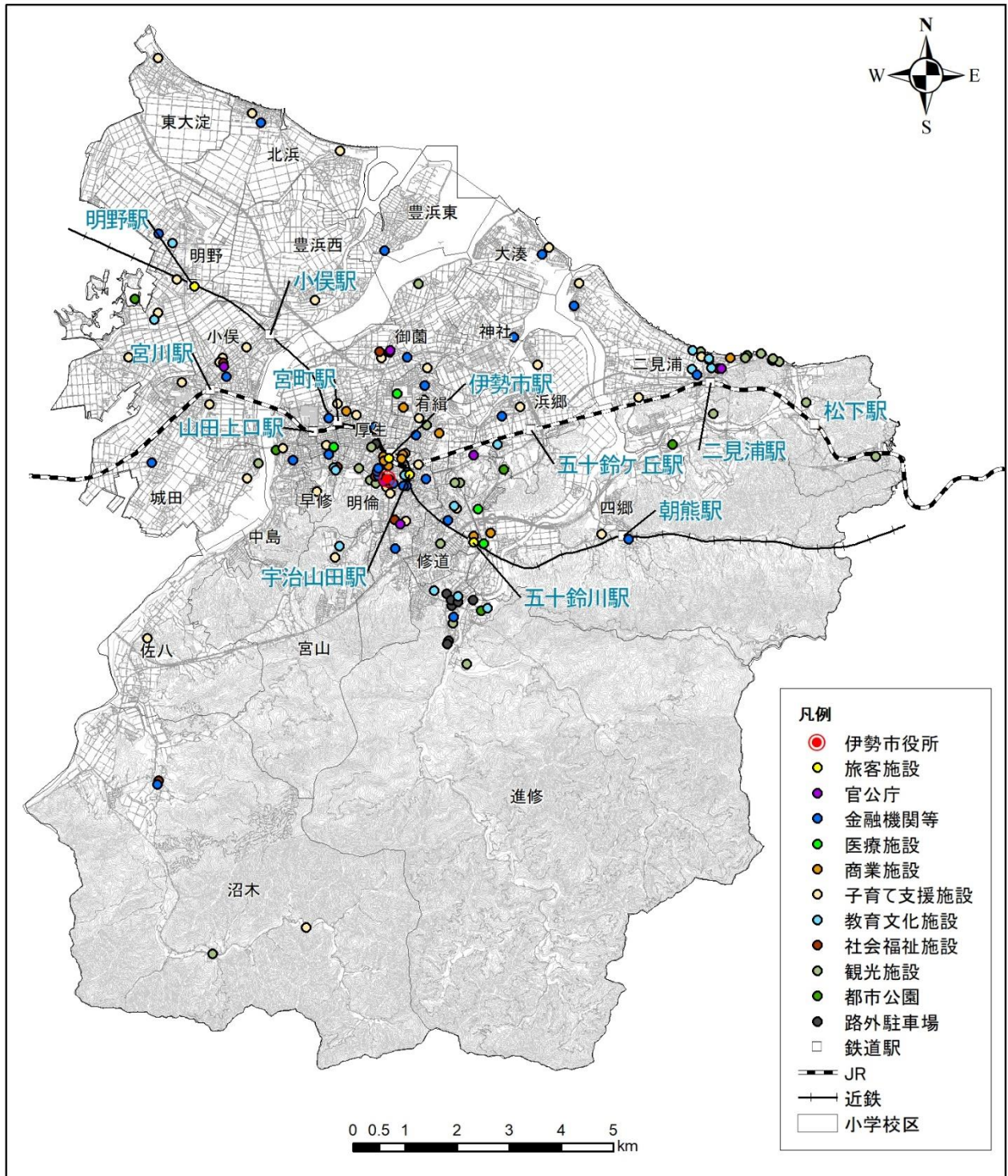


図 生活関連施設候補の立地状況（市全体）

3-2. 駅別立地状況

本市における駅から徒歩圏内（駅起点に半径 1.4km の円内※）の生活関連施設候補の立地状況は、中心市街地である伊勢市駅および宇治山田駅周辺に生活関連施設候補が多く集積している。その他には宮町駅や山田上り駅など、伊勢市駅および宇治山田駅に隣接する駅の周辺や二見浦駅周辺などに生活関連施設候補が多く集積している。

表 各鉄道駅周辺の生活関連施設候補数

	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上り駅	松下駅	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
総数	6	8	21	19	3	59	54	7	30	7	2
旅客施設	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0
官公庁	1	1	1	0	0	6	7	0	1	1	0
金融機関等	1	1	2	4	0	13	13	1	5	1	1
医療施設	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0
商業施設	0	0	3	1	0	9	8	0	5	0	0
教育文化施設	1	0	4	2	0	5	4	2	4	0	0
社会福祉施設	0	1	1	2	0	3	2	0	2	1	0
子育て支援施設	2	5	1	5	0	8	6	2	4	4	1
観光施設	0	0	4	2	3	5	6	0	3	0	0
路外駐車場	0	0	2	1	0	6	6	0	2	0	0
都市公園	1	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0

※国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、徒歩圏内の地域として、地区全体の面積が概ね 400ha 未満の地区とされている。2km×2km の正方形に外接する円の半径は 1.4km であることから、半径 1.4km の円を促進地区検討段階での徒歩圏と設定し、2km×2km の正方形の内接する円で示される範囲（半径 1km の円内）の周辺地域における施設の立地状況についても分析を行った。（なお、促進地区設定の際は、半径 800m の円内を徒歩圏として設定している。その考え方については、6-1 ページ参照。）

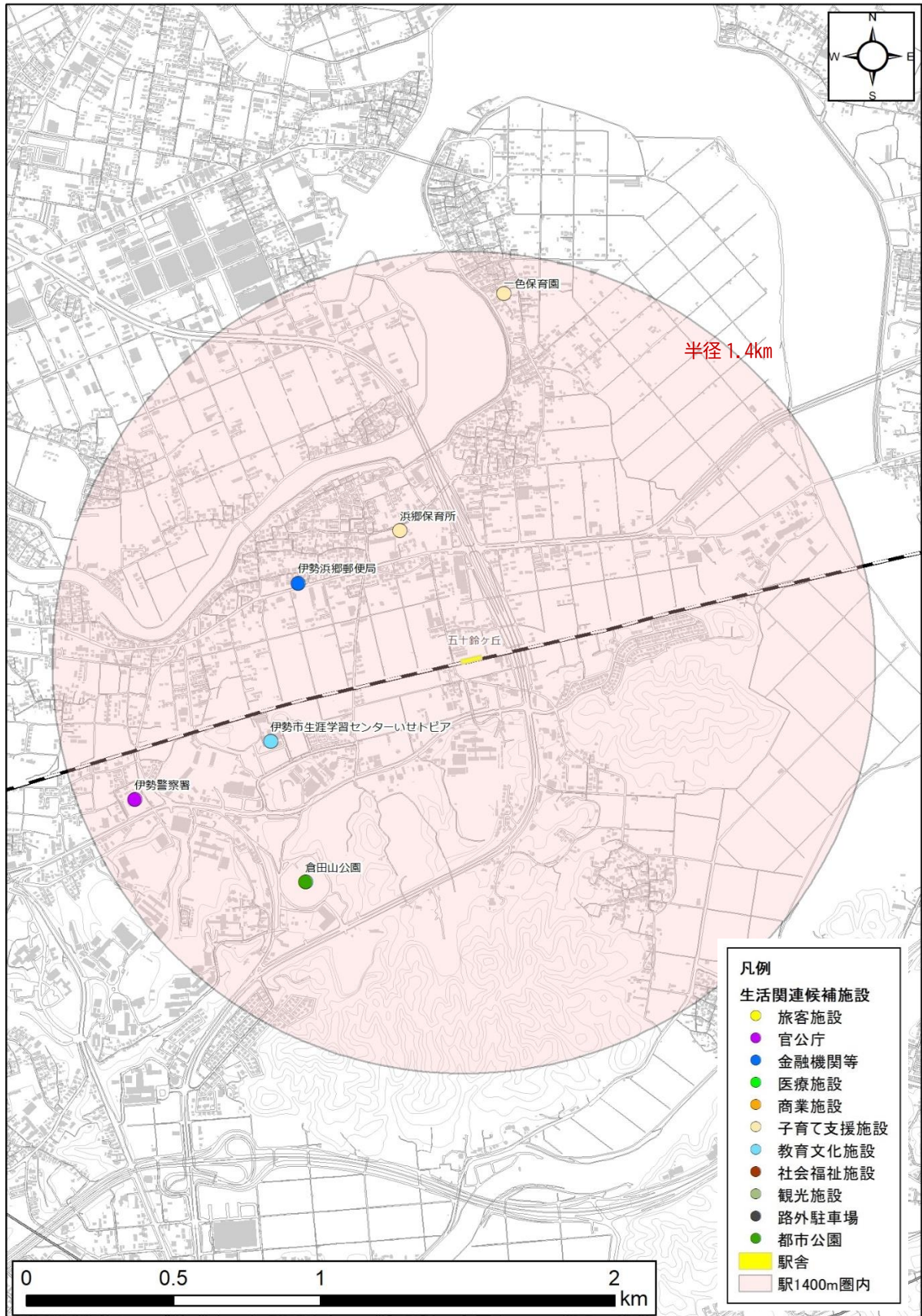


図 五十鈴ヶ丘駅周辺の生活関連施設候補

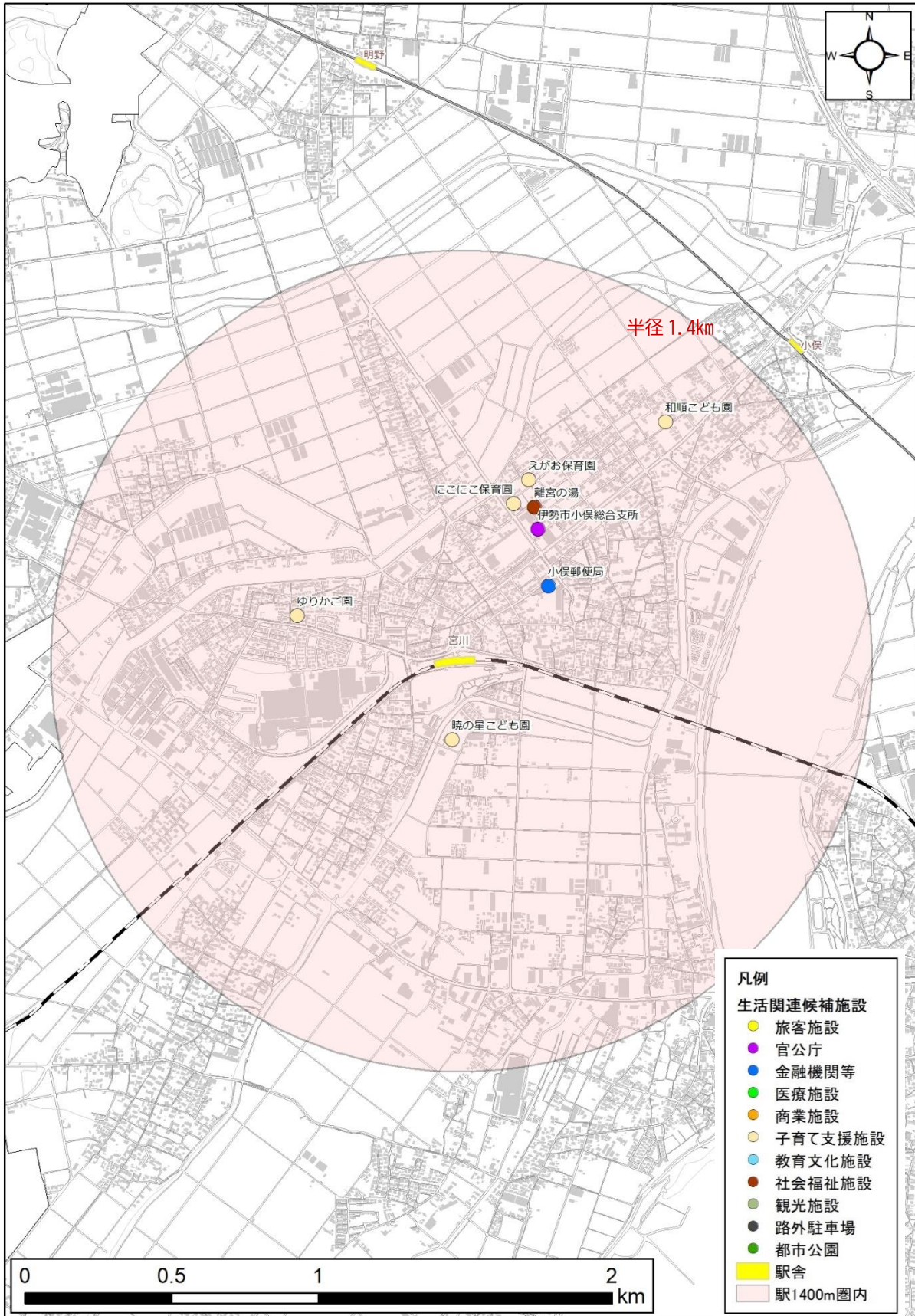


図 宮川駅周辺の生活関連施設候補

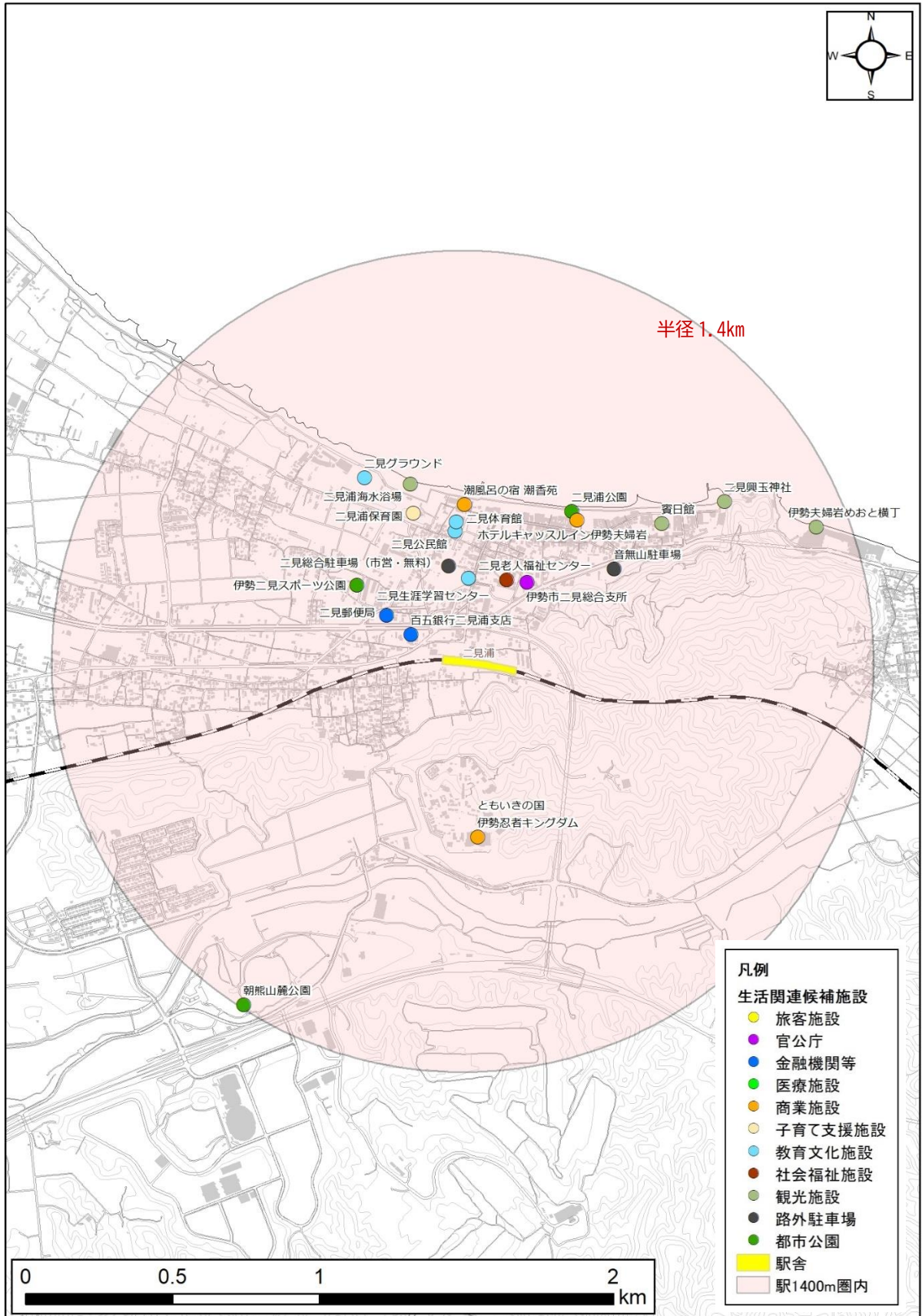


図 二見浦駅周辺の生活関連施設候補

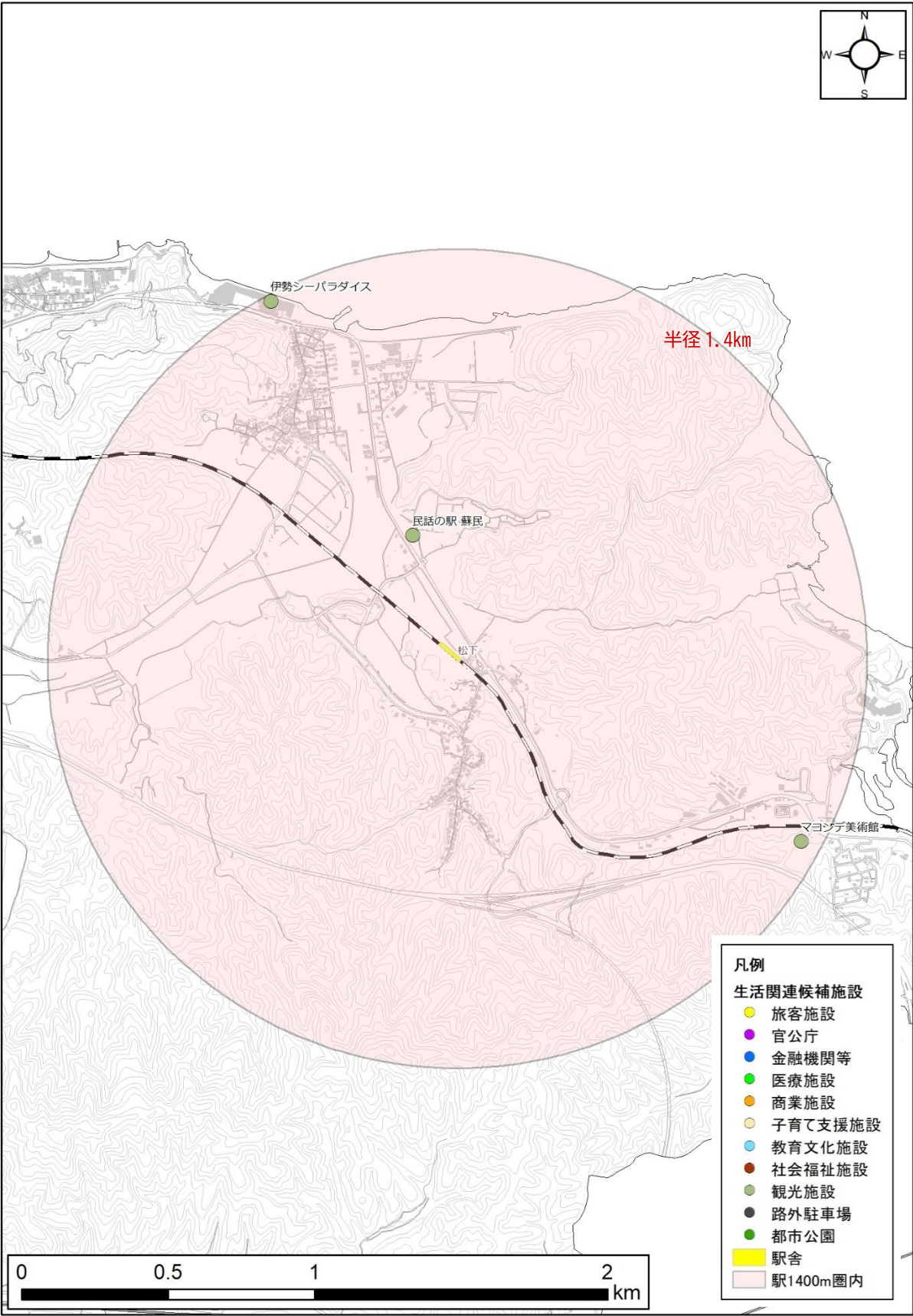


図 松下駅周辺の生活関連施設候補

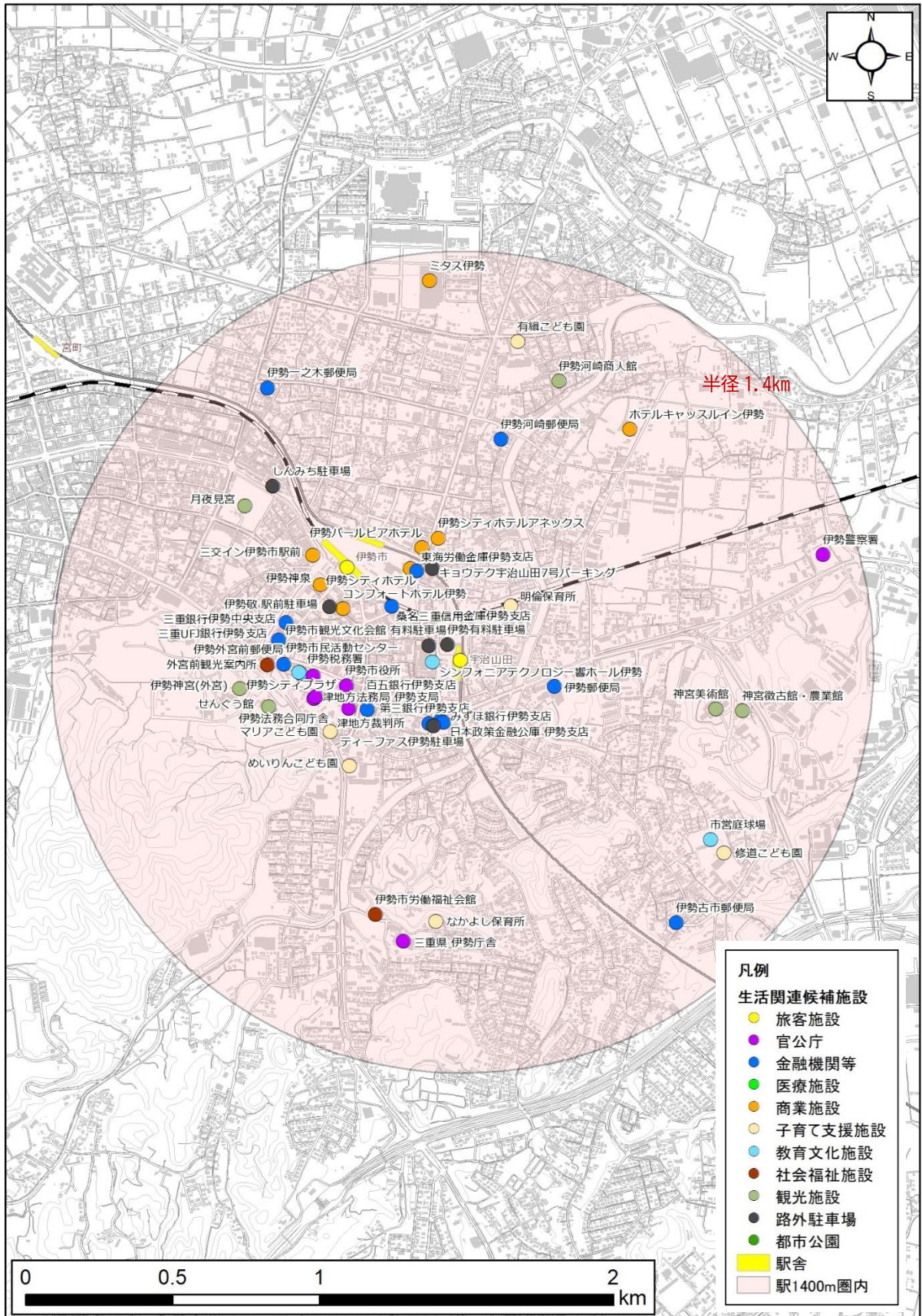


図 宇治山田駅周辺の生活関連施設候補

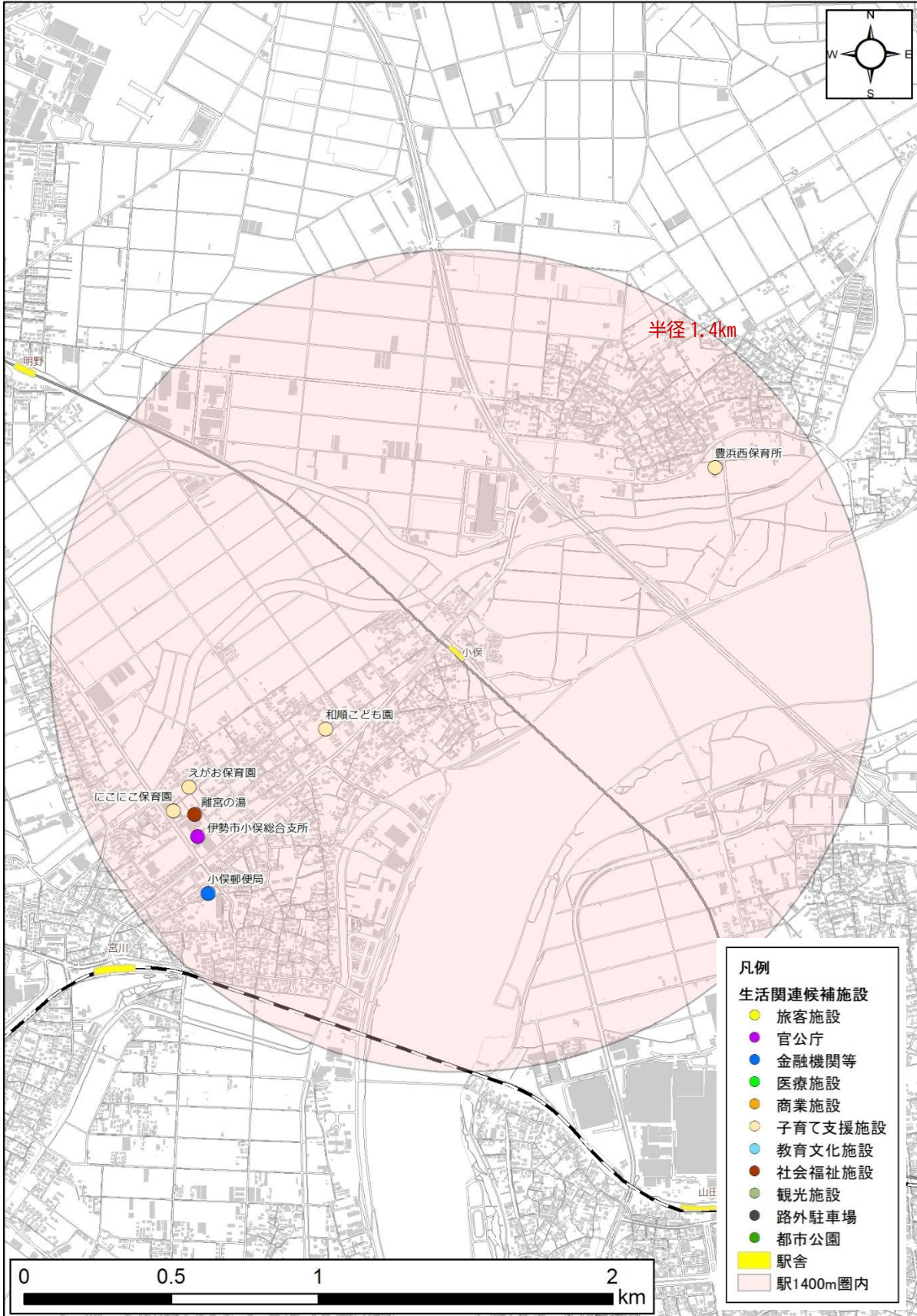


図 小俣駅周辺の生活関連施設候補

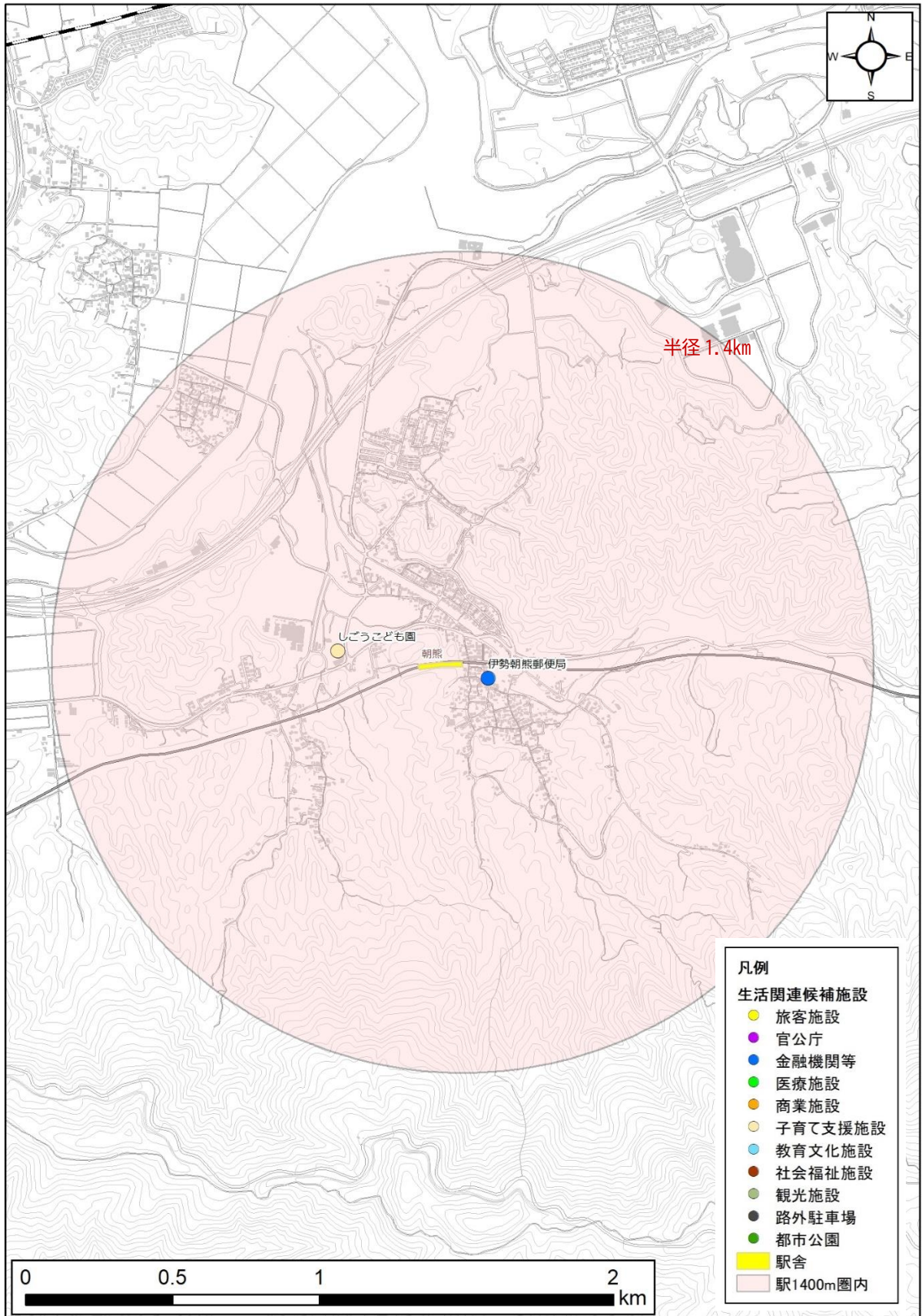


図 朝熊駅周辺の生活関連施設候補

4. 観光動態

4-1. 市内観光客数の推移

本市の観光客数は2005年（平成17年）の約1,000万人から増加傾向にあり、式年遷宮のあった2013年（平成25年）と、その次年の2014年（平成26年）で2,000万人を上回っている。それ以降も1,700万人以上で推移しており、2017年（平成29年）時点の観光客数は約1,900万人である。

また、神宮（外宮・内宮）の参拝者はおおむね800万人以上で推移しており、式年遷宮のあった2013年（平成25年）と、その次年の2014年（平成26年）は1,000万人を超えている。神宮の車いす利用台数は2010年（平成22年）から微増傾向にあり、2018年（平成30年）は約17,000台が利用されている。

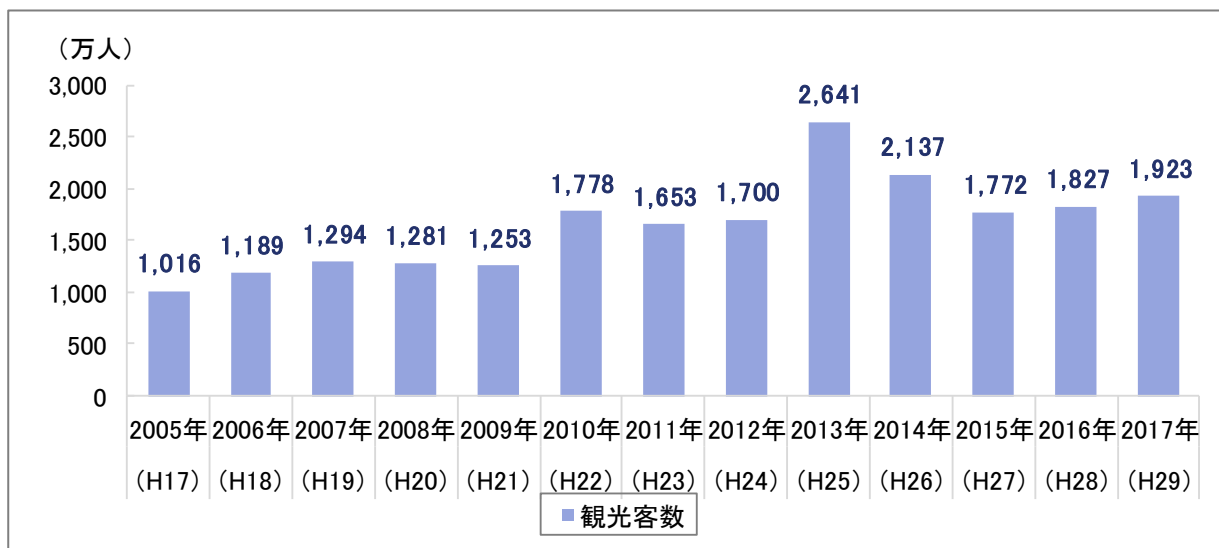


図 市内観光客数の推移

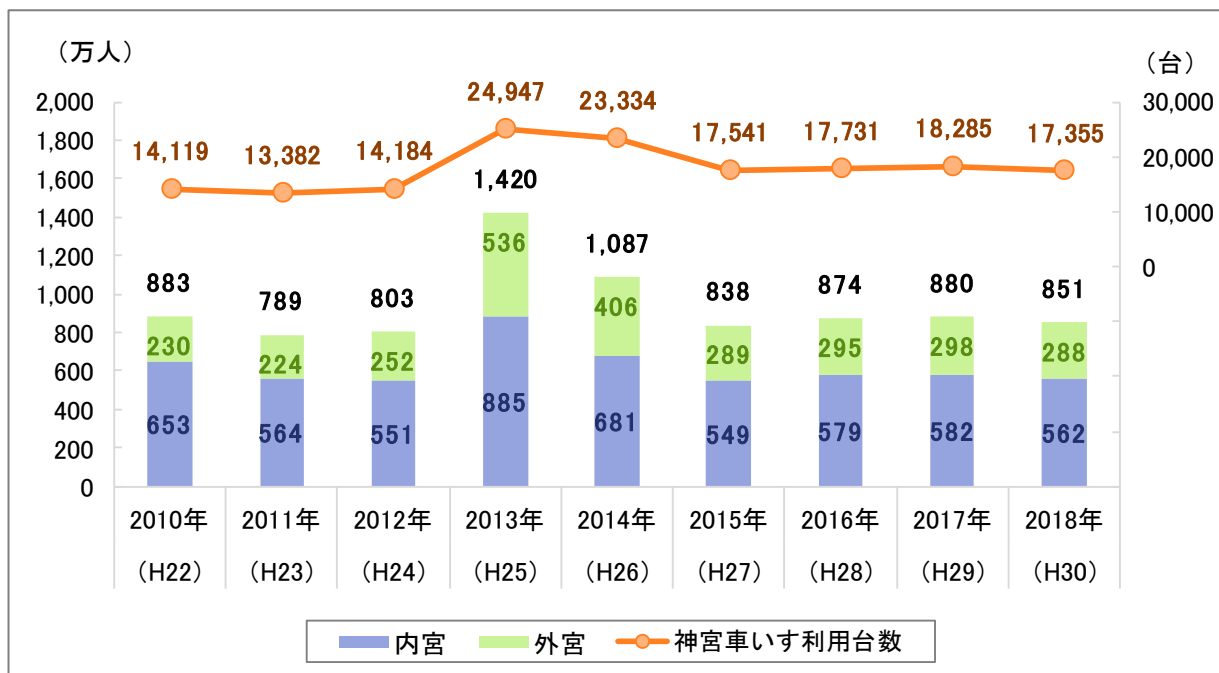


図 神宮参拝者数の推移

資料：伊勢市観光統計

4-2. 宿泊容量

本市の宿泊容量は官公庁や神宮（外宮）の最寄り駅である伊勢市駅（JR・近鉄）で200室以上の宿泊容量を有しているエリアが多く、次いで二見興玉神社や夫婦岩など主要な観光地の最寄り駅である二見浦駅周辺において、宿泊容量の大きいエリアがある。

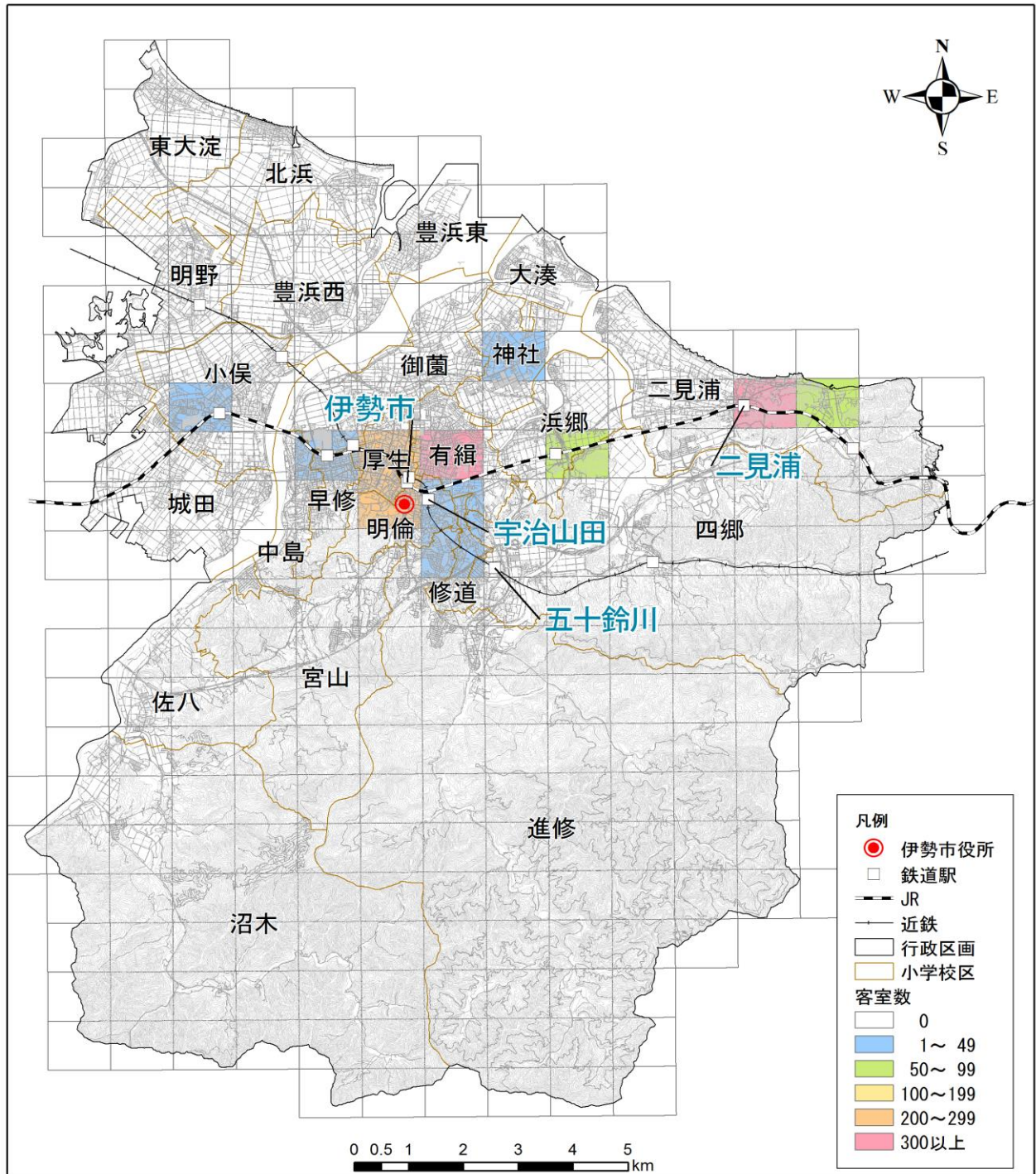


図 ブロック（1km×1km）の宿泊容量

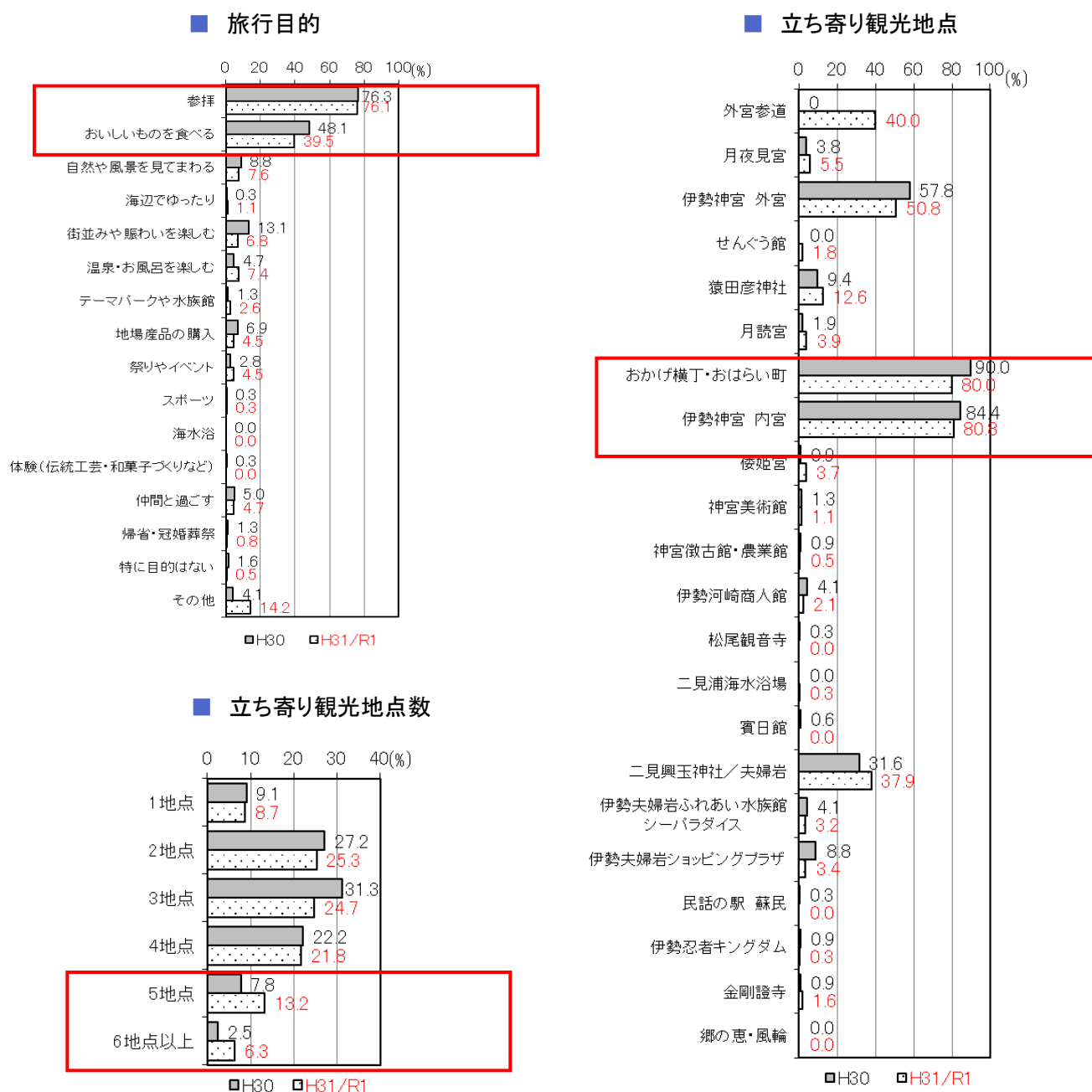
資料：国土数値情報（平成22年）

4-4. 観光客実態調査

(1) 観光地目的

旅行目的については、「参拝」が76.1%で前年と同様最も高く、次いで「おいしいものを食べる」が39.5%となっている。立ち寄り観光地点については、「伊勢神宮 内宮」が80.8%と最も高くなっているが、前年に比べ3.6ポイント減少している。「おかげ横丁・おはらい町」については、80.0%と、前年に比べ10.0ポイント減少している一方で、「二見興玉神社／夫婦岩」は37.9%と、前年に比べて6.3ポイント増加している。

また、立ち寄り観光地点数は、「5地点以上」（「5地点」「6地点以上の合計」）が19.5%と、前年に比べ9.2ポイント増加している。



資料：観光実態調査

※平成31年度調査では立ち寄り観光地点の選択肢に「外宮参道」を追加した

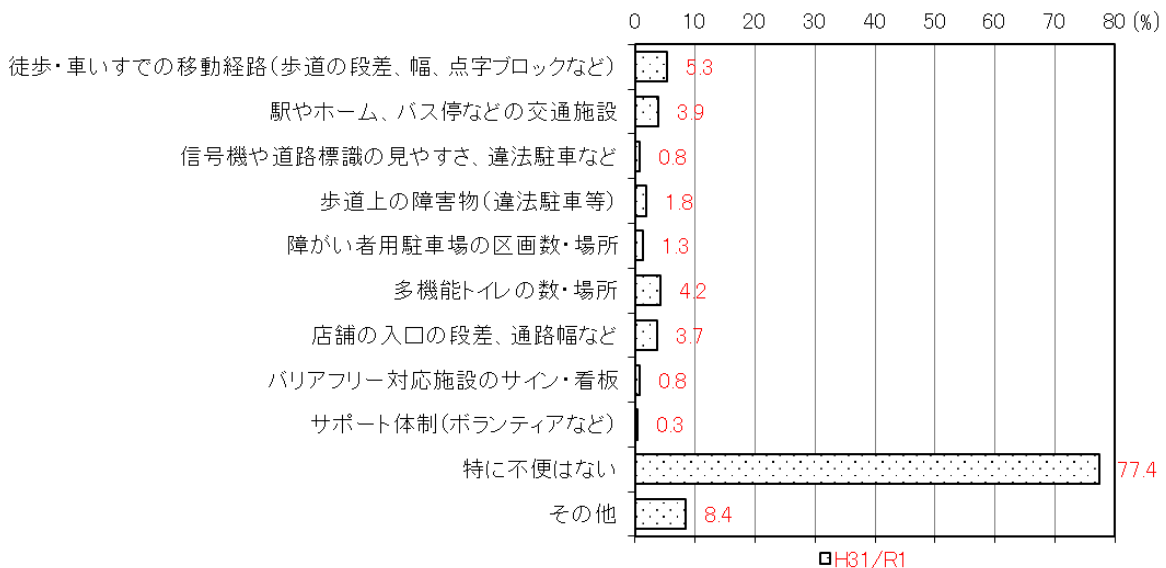
(2) バリアフリーについて

「現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便だと感じるところ」については、「特に不便はない」が77.4%（294人）で最も高く、次いで「徒歩・車いすでの移動経路（歩道の段差、幅、視覚障害者誘導用ブロックなど）」が5.3%（20人）、「多機能トイレの数・場所」が4.2%（16人）と続いている。

また、本市の観光バリアフリー等に関する取り組みの認知度について、「該当なし」が73.7%（280人）で最も高く、次いで「手荷物預かり・配送【有料】」が12.6%（48人）、「車いすのレンタル」が12.1%（46人）となっている。

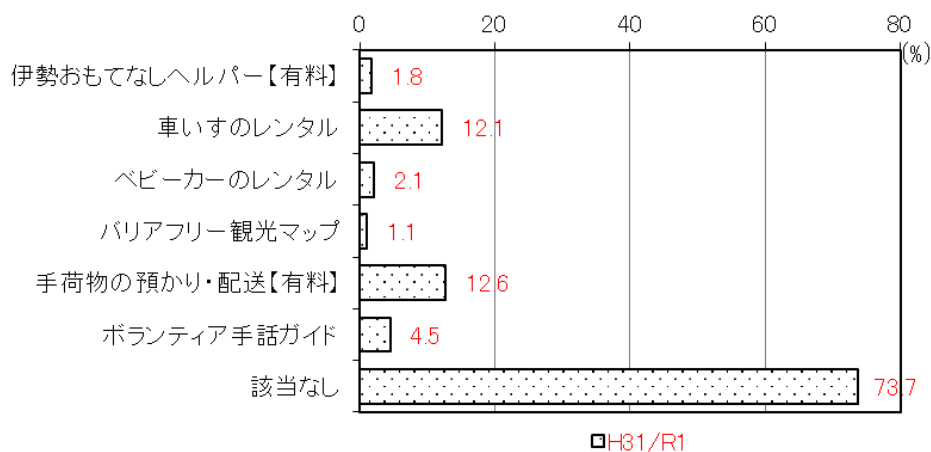
■ 現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便と感じるところはあるか(問 12、複数回答)

項目	実数(人)	構成比(%)
	H31/R1	H31/R1
1 徒歩・車いすでの移動経路(歩道の段差、幅、点字ブロックなど)	20	5.3
2 駅やホーム、バス停などの交通施設	15	3.9
3 信号機や道路標識の見やすさ、違法駐車など	3	0.8
4 歩道上の障害物(違法駐車等)	7	1.8
5 障がい者用駐車場の区画数・場所	5	1.3
6 多機能トイレの数・場所	16	4.2
7 店舗の入口の段差、通路幅など	14	3.7
8 バリアフリー対応施設のサイン・看板	3	0.8
9 サポート体制(ボランティアなど)	1	0.3
10 特に不便はない	294	77.4
11 その他	32	8.4
合計	380	100.0



■ 伊勢市の観光バリアフリー等について知っているサービスはあるか(問12、複数回答)

項目		実数(人)	構成比(%)
		H31/R1	H31/R1
1	伊勢おもてなしヘルパー【有料】	7	1.8
2	車いすのレンタル	46	12.1
3	ベビーカーのレンタル	8	2.1
4	バリアフリー観光マップ	4	1.1
5	手荷物の預かり・配送【有料】	48	12.6
6	ボランティア手話ガイド	17	4.5
7	該当なし	280	73.7
合計		380	100.0



5. 公共交通

5-1. 鉄道・駅

(1) JR線の年間乗客数の推移

JR線の年間乗客数は伊勢市駅が最も多く、2018年度（平成30年度）は約449千人となっており2005年度（平成17年度）以降増加傾向にある。次いで五十鈴ヶ丘駅、宮川駅、二見浦駅で約100千人となっており、五十鈴ヶ丘駅は2005年度（平成17年度）以降増加傾向にあるが、宮川駅はほぼ横ばい、二見浦駅は減少傾向となっている。

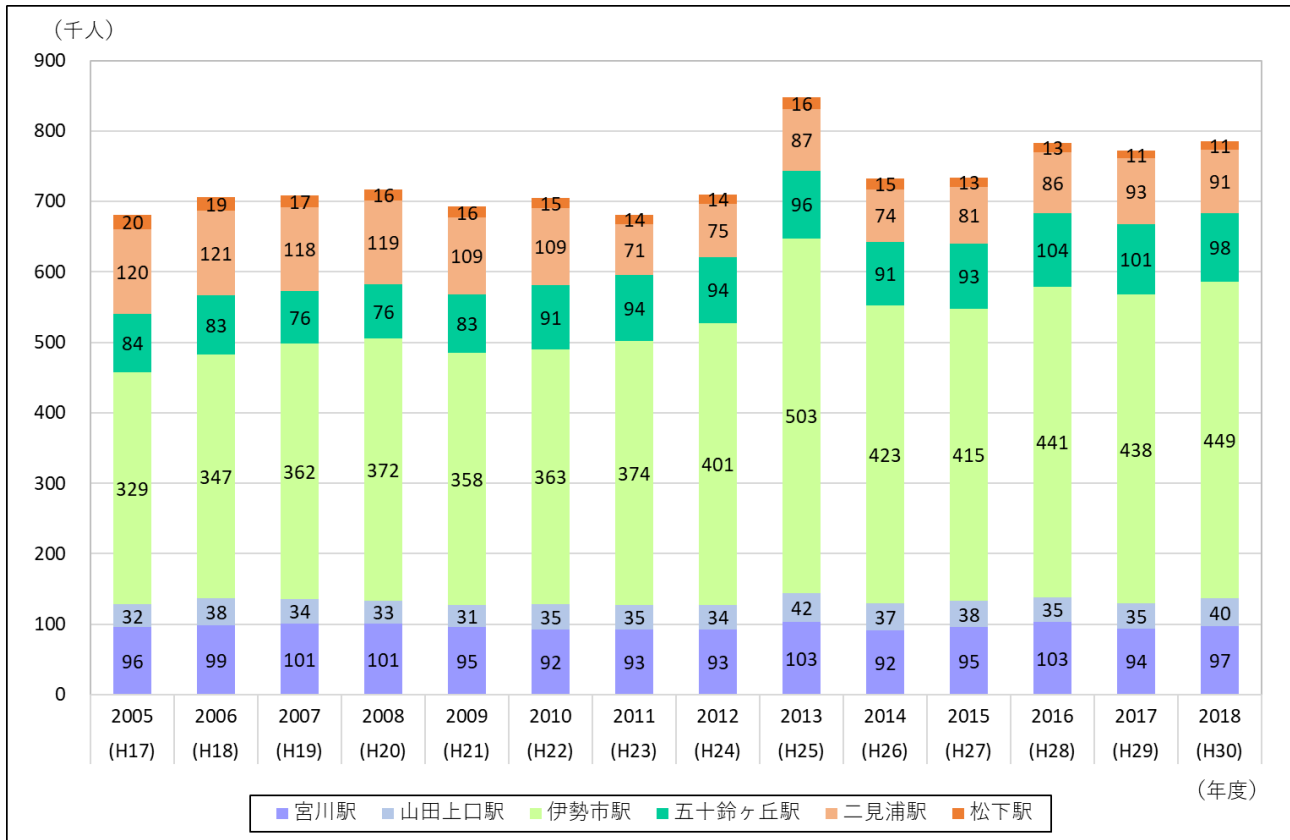


図 年間鉄道乗客数（JR）

資料：三重県統計書

(2) 近鉄線の年間乗客数の推移

近鉄線の年間乗客数は宇治山田駅が最も多く、2018年度（平成30年度）は約2,000千人で、式年遷宮のあった2013年度（平成25年度）の約2,450千人をピークにやや減少傾向にある。伊勢市駅は2015年度（平成27年度）の約1,530千人以降増加傾向にあり、2018年度（平成30年度）は約1,570千人である。この他、2018年度（平成30年度）は、五十鈴川駅は約670千人、明野駅は約430千人で、両駅とも前年度からやや減少している。

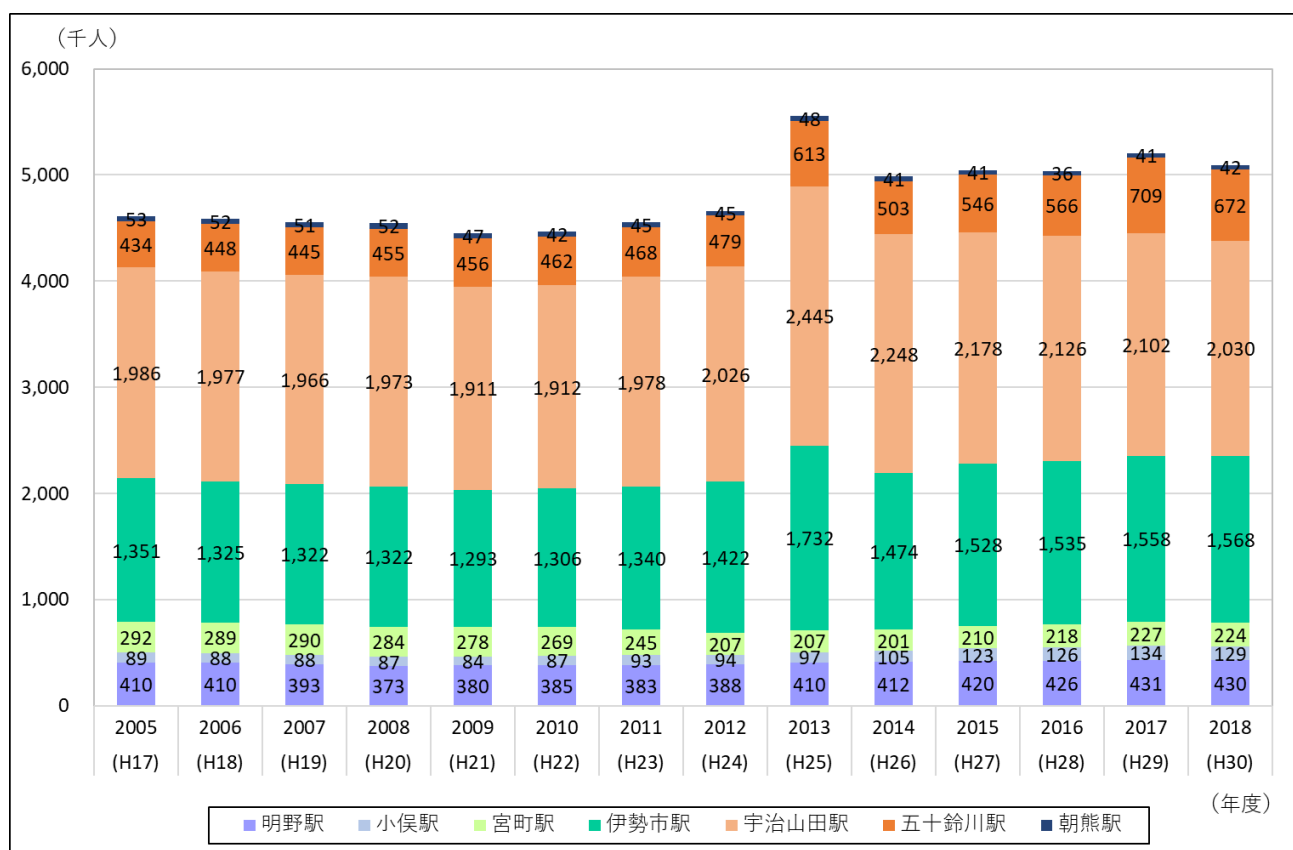


図 年間鉄道乗客数（近鉄）

資料：三重県統計書

(3) 市内各駅の1日あたり平均乗降客数

本市の鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数は伊勢市駅（JR・近鉄）が最も多く、JR線で約2,500人/日、近鉄線で約7,700人/日が利用しており、1日あたりの平均乗降客数は合計で約11,000人/日である。次いで多い駅は、宇治山田駅（近鉄）で約8,600人/日となっている。

この他の駅では明野駅（近鉄）、五十鈴川駅（近鉄）で1日あたりの平均乗降客数が2,000人/日を超えている。

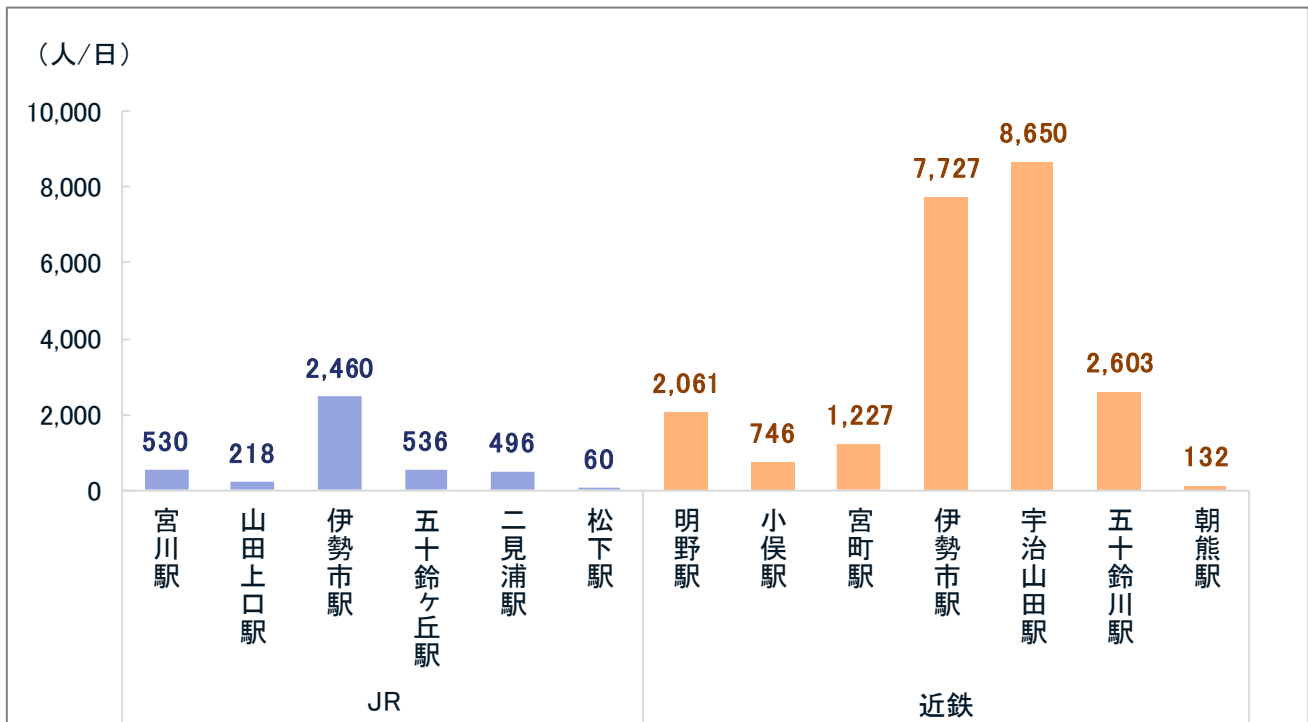


図 1日あたりの平均乗降客数

資料：JR 東海、近畿日本鉄道

JR：提供資料の1日平均乗客数を2倍して算出

近鉄：交通量調査（平成 30. 11. 13）

(4) 鉄道駅のバリアフリー状況

市内の各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅、明野駅には駅員が常駐しているが、それ以外の駅は常駐していない状況である。また、車いすが利用可能な通路が整備されている駅は伊勢市駅、小俣駅、宮町駅、宇治山田駅、五十鈴川駅であり、その内、伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅にはエレベーターが設置されている。

また構内の施設について、市内の全駅で視覚障害者誘導用ブロックが設置されており、その他、トイレの車いす対応や触知案内図は伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅に設置されており、JR 伊勢市駅や五十鈴川駅には車いすでの利用が容易な券売機が設置されている。

路線		JR						近鉄						
駅名		宮川駅	山田上り駅	伊勢市駅	五十鈴ヶ丘	二見浦駅	松下駅	明野駅	小俣駅	宮町駅	伊勢市駅	宇治山田駅	五十鈴川駅	朝熊駅
駅員の常駐		×	×	○	×	×	×	○	×	×	○	○	○	×
段差の 解消	車いす可 (道路～改札)			○				△	○	○	○	○	○	△
	エレベーター (改札～ホーム)			○				-	-	-	○	○	○	-
改札口	幅の広さ ※80cm以上の拡幅改札口を 1か所以上設置しているか												○	
視覚障害者誘導用ブロック		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トイレ	車いす対応			○				×	-	-	○	○	○	-
	音声案内								-	-				-
券売機	車いすでの利用が 容易な高さ・形状			○									○	
構内 案内	触知案内図			○				×	×	×	○	○	○	×

資料：JR 東海、近畿日本鉄道

※-：エレベーターおよびトイレの設置なし

○：対応

△：一部対応

×：未対応

空白：不明（非公開）

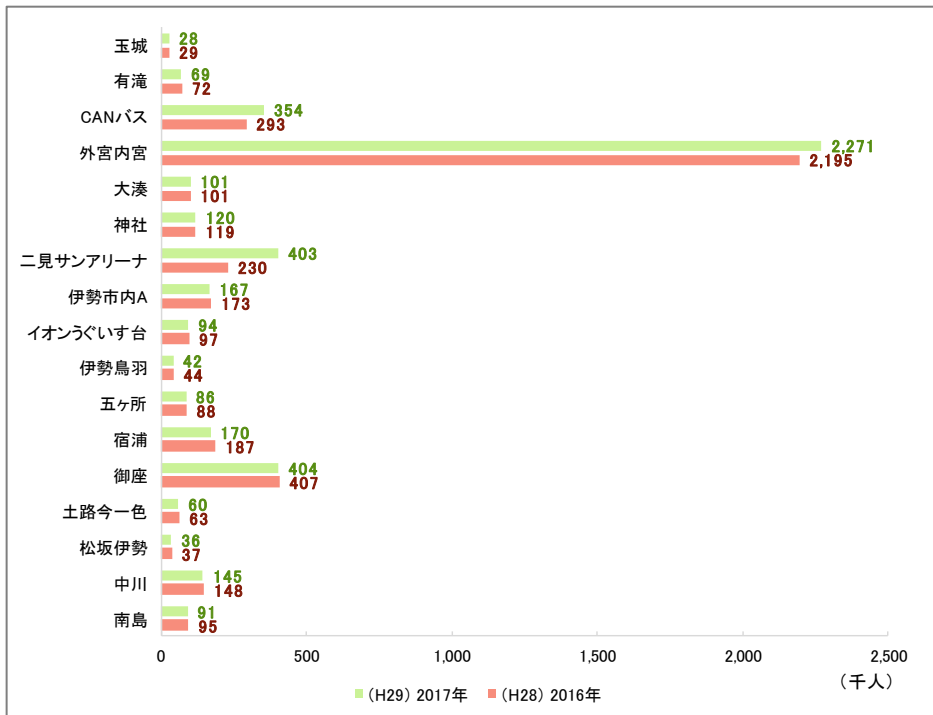
5-2. バス

(1) 路線バスの年間利用者数

本市の路線バスで最も利用者の多い路線は外宮内宮線で約2,270千人が利用している。この他には、御座線や二見サンアリーナ線で約400千人、CANバスで約350千人が利用しており、2016年（平成28年）と2017年（平成29年）の増減を比較すると、二見サンアリーナ線、神社線、外宮内宮線、CANバスで利用者が増加している。また、路線バス全体で約4,600千人が利用しており、利用者も全体として2016年（平成28年）と比較して増加している。

区間別の利用者では伊勢市駅前から宇治山田駅前間で最も多く、2017年（平成29年）には年間4,000千人以上の人利用しており、伊勢市駅から外宮、宇治山田駅、猿田彦神社や内宮など、主要な観光地を結ぶ区間の利用が非常に多くなっている。その他の郊外を結ぶ路線の利用者は全体的に少ない傾向がある。

路線名	主な停車バス停	(H28)	(H29)	増減
		2016年	2017年	
南島	伊勢病院前～伊勢市駅前～道方	94,600	90,900	-3,700
中川	山商前～伊勢市駅前～注連指・中村・田間	147,900	144,800	-3,100
松坂伊勢	伊勢市駅前～早馬瀬口	37,100	36,000	-1,100
土路今一色	土路～今一色	63,300	59,900	-3,400
御座	御座港～磯部バスセンター～伊勢赤十字病院	406,800	403,700	-3,100
宿浦	宿浦～伊勢市駅前～伊勢赤十字病院	187,300	169,800	-17,500
五ヶ所	磯部バスセンター～五ヶ所 五ヶ所～宇治山田駅	88,400	85,900	-2,500
伊勢鳥羽	伊勢市駅前～鳥羽バスセンター	43,900	41,700	-2,200
イオンうぐいす台	大蔵うぐいす台～イオン伊勢店	97,000	94,400	-2,600
伊勢市内A	浦田町～宮川中学校・伊勢赤十字病院	172,900	166,700	-6,200
二見サンアリーナ	二見～サンアリーナ 五十鈴川駅～サンアリーナ	230,100	402,500	172,400
神社	伊勢市駅前～一色町	119,000	119,700	700
大湊	伊勢市駅前～大湊	101,300	100,900	-400
外宮内宮	内宮前～外宮前～内宮前(庁舎または徴古館経由)	2,195,300	2,271,200	75,900
CANバス	宇治山田駅～内宮前～鳥羽水族館	293,000	353,800	60,800
有滝	有滝～イオン伊勢店	72,400	69,400	-3,000
玉城	伊勢市駅前～玉城町役場	28,500	28,200	-300
合計		4,378,800	4,639,500	260,700



図(表) 路線別年間利用者数の比較

資料：伊勢市

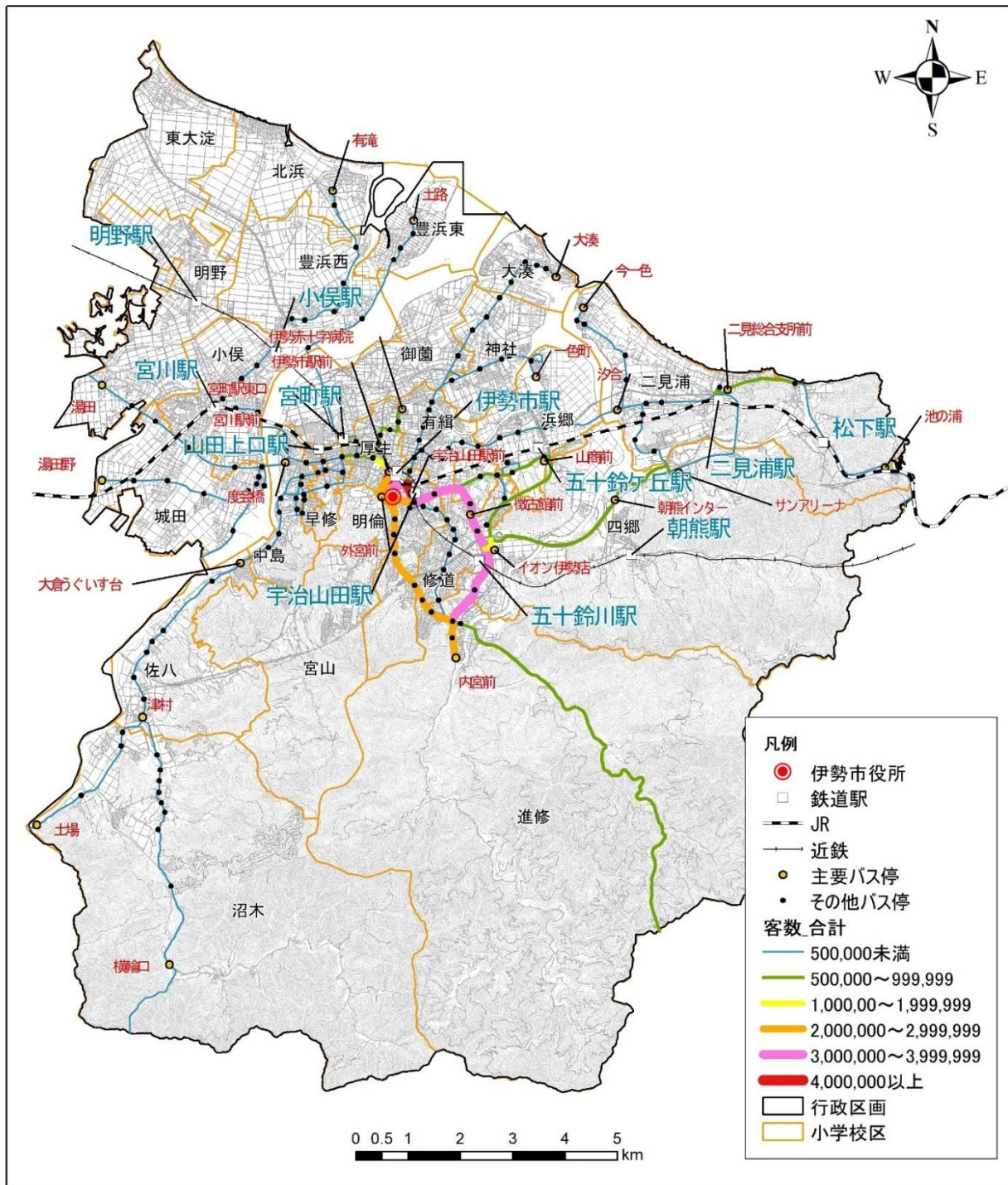


図 路線別年間利用者数（2017年（平成29年）実績）

資料：伊勢市

(2) コミュニティバスの年間利用者数

2018年(平成30年)の路線別の利用者数は、おかげバスの辻久留・藤里ルートの利用者数が約18,000人と最も多く、次いで東大淀・日赤ルート、二見ルートが多くなっている。辻久留・藤里ルートは2014年(平成26年)以降17,000～19,000人と横ばいで推移しており、東大淀・日赤ルート、二見ルートは増加傾向にある。

また、おかげバスデマンドでは粟野ルート、小木・田尻ルートで約1,000人以上の利用があり、沼木バスは買い物用が多い傾向がある。

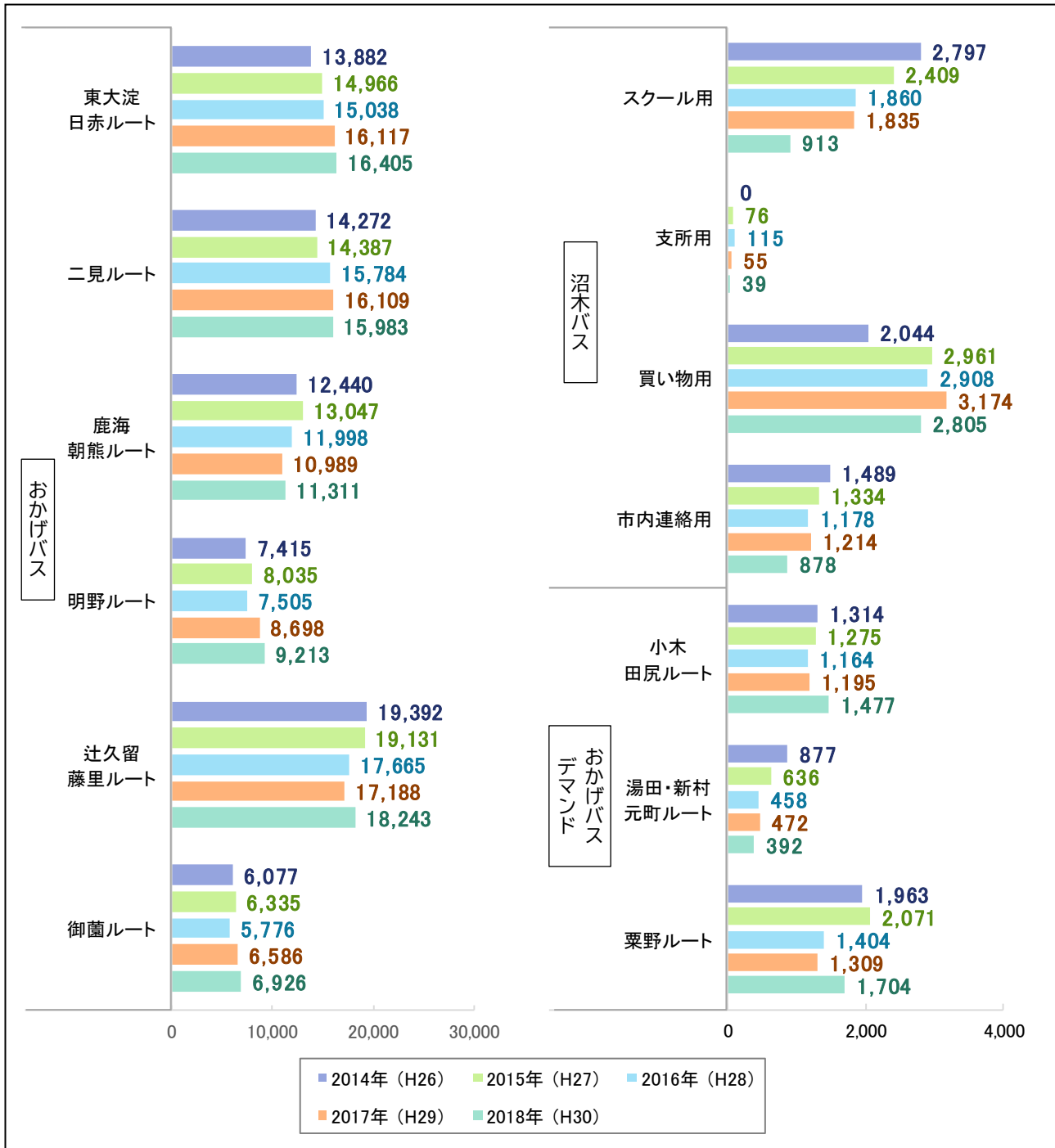


図 路線別年間利用者数の推移

資料：伊勢市

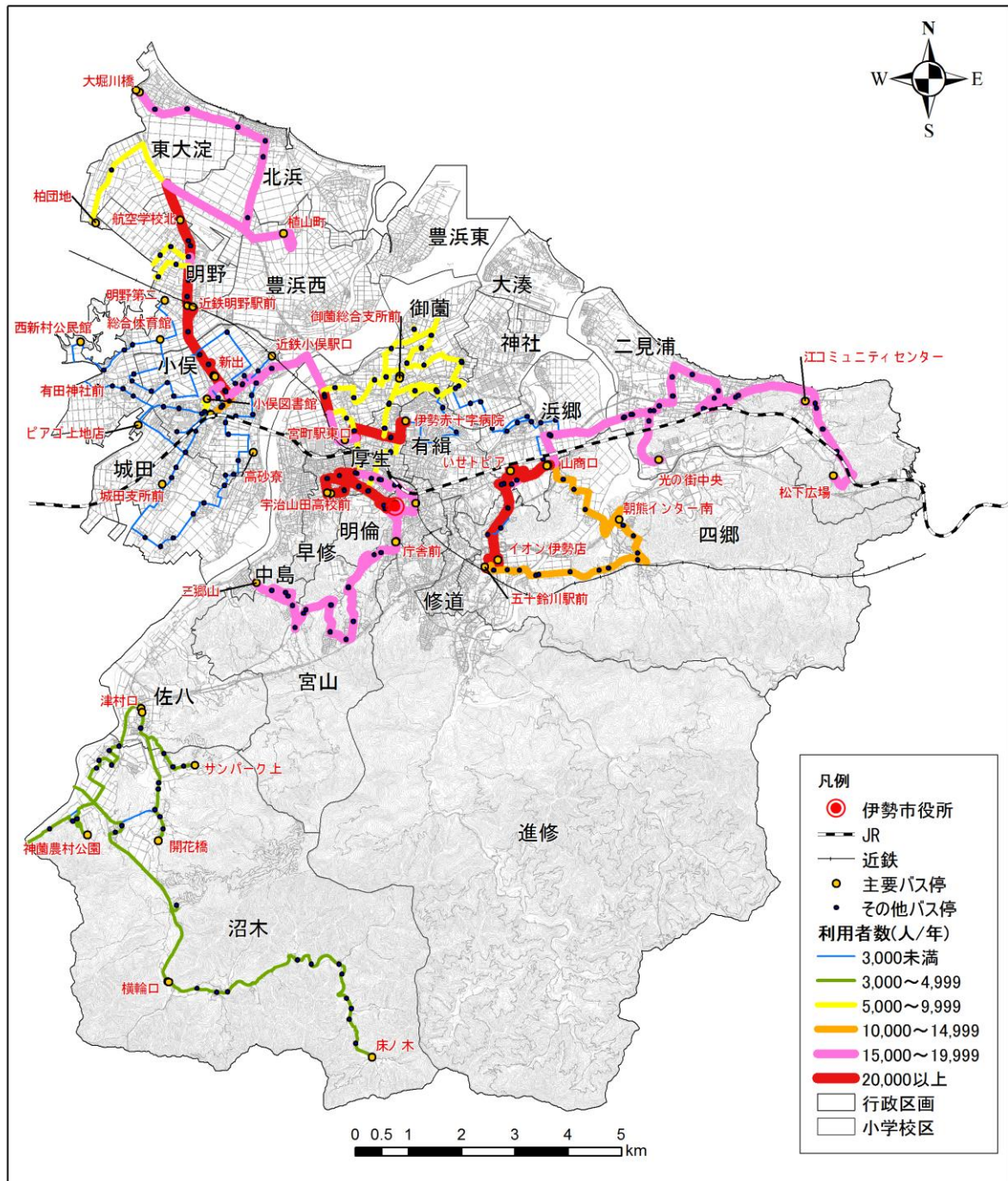


図 コミュニティバス区別年間利用者数（2018年（平成30年）実績）

資料：伊勢市

(3) 1日あたりのバス停別乗降客数

市内のバス停のうち、1日あたりの乗降客数の多いバス停としては、2018年（平成30年）は神宮（内宮）の最寄りバス停である「内宮前」が最も多く約2,000人/日以上が利用している。次いで、「宇治山田駅前」「伊勢市駅前」で約1,600～1,800人/日の利用がある。この他には、「外宮前」「五十鈴川駅前」「神宮会館前」などで利用者が多い。

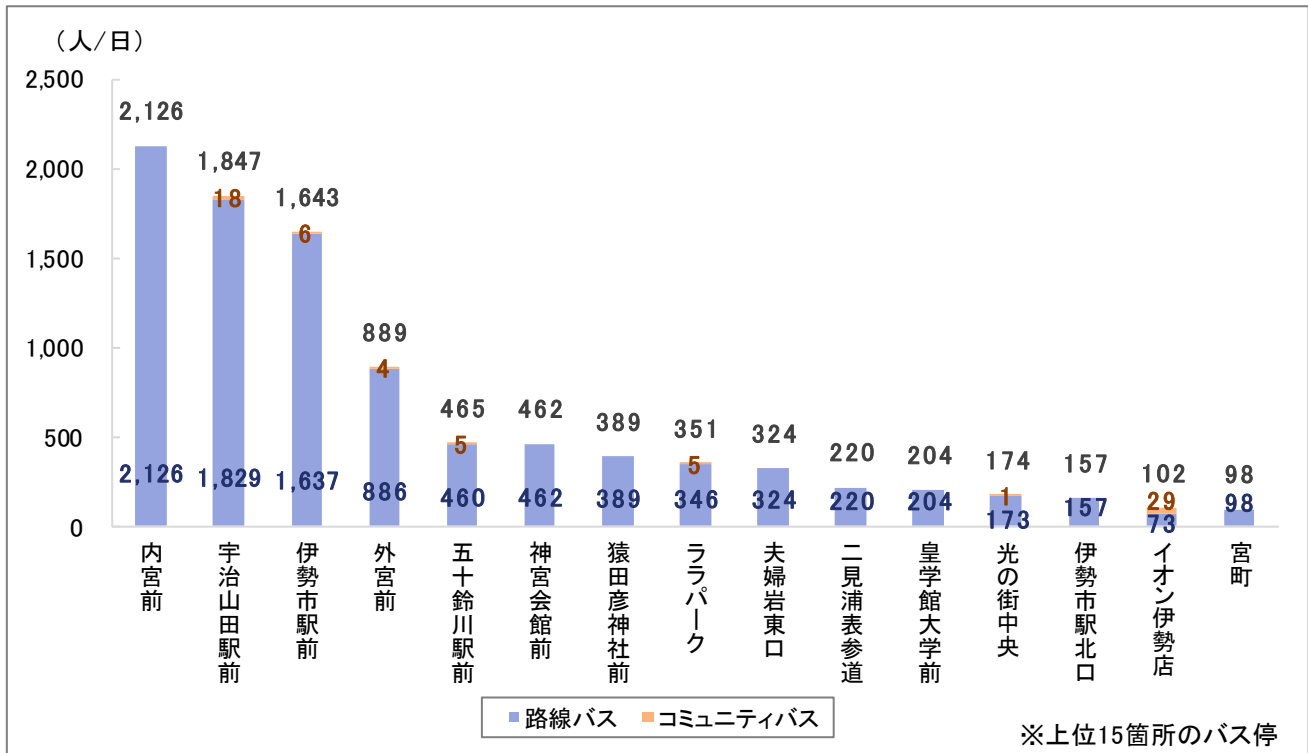


図 主要バス停の乗降客数

路線バス：2018年（平成30年）6月の日平均
 コミュニティバス：2017年（平成29年）6月の日平均
 資料：伊勢市

6. 道路

6-1. 広域道路ネットワーク

市内の道路の83.4%が市道となっており、そのうち約6.0%にあたる約62,000mが未舗装となっている。

表 道路の延長・橋梁箇所延長（2018年（平成30年））

区分	道路実延長	うち舗装道		うち未舗装道	橋梁		
	(m)	延長(m)	舗装率(%)	延長(m)	箇所	延長(m)	
市道	883,102.10	821,024.00	92.97	62,078.10	443	4,641.00	
県道	144,390.80	132,606.50	91.84	11,784.30	160	4,684.00	
国道	総数	32,038.40	32,038.40	100.00	—	58	2,585.10
	国管理	16,018.00	16,018.00	100.00	—	30*	1,233.00
	県管理	16,020.40	16,020.40	100.00	—	28	1,352.10

資料：伊勢市

※橋長2m以上かつ土かぶり1m未満の溝橋（カルバート）を橋梁として取り扱う。

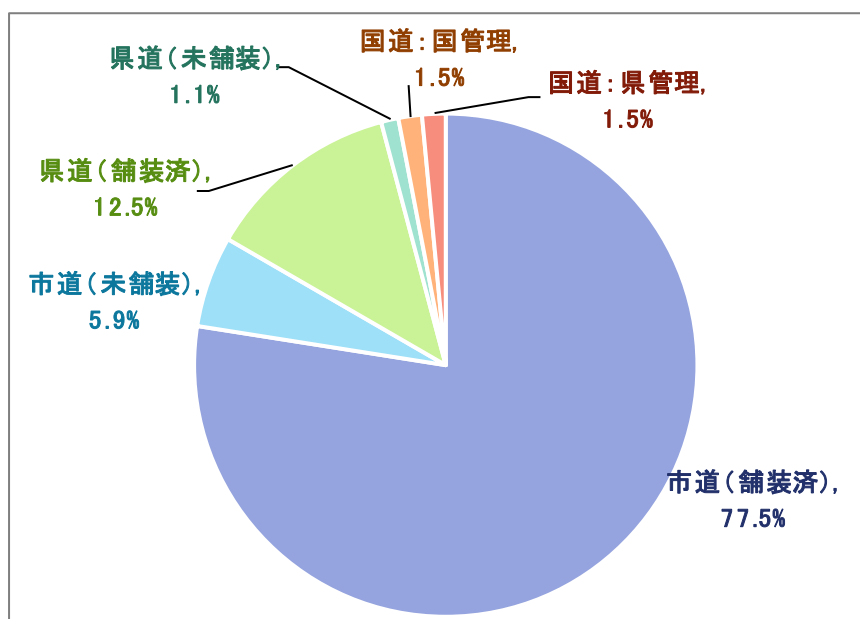


図 道路の舗装状況

資料：伊勢市（市道）

三重県伊勢建設事務所（県道）

国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・三重県伊勢建設事務所（国道）

6-2. 都市計画道路

都市計画道路は、29路線、計81,304mが計画されており、2020年（令和2年）4月1日現在で76.9%（62,553m）が改良済みとなっている。

表 伊勢都市計画道路一覧（2020年（令和2年）4月1日時点）

名称		当初決定 年月日	直近の変更 年月日	延長 (m)	幅員 (m)	改良状況 (m)				
番号	道路名					延長	改良済	改良中	概成済	未改良
1・3・1	伊勢線	1982/1/19	2008/4/25	8,100	22.5	8,100	8,100		0	0
3・2・1	外宮度会橋線	1946/6/13	2011/8/19	4,230	36	4,230	3,270		960	0
3・2・2	南勢バイパス	1971/3/31	2008/4/25	14,820	30	14,820	14,820		0	0
3・3・3	山田二見線	1946/6/13	2011/8/19	6,460	22.5	6,460	5,050		150	1,260
3・4・4	外宮常磐線	1946/6/13	2008/4/25	1,130	18	1,130	1,130		0	0
3・3・5	坂社豊浜線	1946/6/13	2008/4/25	2,320	22	2,320	1,150		0	1,170
3・4・6	本町大湊線	1946/6/13	2011/8/19	4,970	16	4,970	740		1,340	2,890
3・4・7	下卯起宮川駅野依橋線	1962/3/27	2011/8/19	3,600	16	3,600	3,600		0	0
3・4・9	高向神田線	1950/3/31	2011/8/19	4,000	16	4,000	1,693	47	0	2,260
3・4・11	伊勢市駅北口線	1946/6/13	2011/8/19	400	16	400	0		100	300
3・5・14	御幸道路	1946/6/13	2008/4/25	5,120	15	5,120	4,460		80	580
3・3・15	豊川浦田線	1946/6/13	2008/4/25	3,110	22	3,110	1,350		1,760	0
3・4・16	秋葉山高向線	1946/6/13	2008/4/25	2,470	18	2,470	2,470		0	0
3・4・17	藤社御園線	1946/6/13	2008/4/25	1,840	16	1,840	1,840		0	0
3・5・18	前田小木線	1946/6/13	2008/4/25	2,150	12	2,150	0		1,020	1,130
3・5・19	前田黒瀬線	1946/6/13	2008/4/25	1,960	14	1,960	1,960		0	0
3・4・21	勢田楠部線	1982/1/19	2008/4/25	1,550	19.5	1,550	1,550		0	0
3・6・22	高向小俣線	1959/3/27	2019/2/20	2,870	9.5	2,870	1,280		0	1,590
3・5・50	本町宮川堤線	1946/6/13	2008/4/25	2,264	15	2,264	2,040		224	0
3・5・51	一之木神田線	1946/6/13	2011/8/19	1,940	15	1,940	740		330	870
3・3・52	岡本吹上線	1946/6/13	2008/4/25	350	22	350	280		70	0
3・5・53	八日市場宮川堤線	1946/6/13	2008/4/25	1,510	12	1,510	1,300		210	0
3・5・54	上口駅前線	1946/6/13	2008/4/25	650	12	650	650		0	0
3・5・55	一之木常磐線	1946/6/13	2013/4/19	1,350	12	1,350	1,350		0	0
3・5・56	宮後東紡線	1946/6/13	2011/8/19	250	12	250	250		0	0
3・5・57	宮後根起松線	1946/6/13	2008/4/25	150	12	150	150		0	0
3・5・58	世木社文庫線	1946/6/13	2008/4/25	580	12	580	580		0	0
3・5・59	八日市場高向線	1946/6/13	2008/4/25	1,100	15	1,100	690	183	0	227
3・5・60	二見浦交通広場アクセス線	2011/7/25	-	60	13	60	60		0	0
路線数	29	延長合計		81,304	-	81,304	62,553	230	6,244	12,277
							76.9%	0.3%	7.7%	15.1%

資料：伊勢市

※概成済：改良済以外の区間のうち、都市計画道路と同程度の機能を果たしうる現道（おおむね計画幅員の2/3又は4車線以上の幅員を有する道路）

第2編 市民アンケート

1. 市民アンケート調査の概要

移動等円滑化促進方針の策定にあたり、障がい者・高齢者・子育て世代・一般を対象とした市民アンケート調査を実施した。アンケート結果により、個人属性や外出の頻度、目的地、移動手段などの交通行動、そして実際に駅周辺で移動する際に困ったことなどについて把握した。

表 市民アンケート調査の概要

	合計	障がい者アンケート	高齢者アンケート	子育て世代アンケート	一般アンケート
対象者	—	障害者等手帳保持者※1	65歳以上	5歳以下の子どもを持つ世帯※1	左記以外※1
配布数※2	4,600通	1,150通	1,150通	1,150通	1,150通
回収率	1,862通 (40.5%)	415通 (36.1%)	567通 (49.3%)	484通 (42.1%)	396通 (34.4%)
配布 返信期間	2019年9月1日～2019年9月14日 ※地域によって配布日時異なる場合がある				
主な設問	普段の外出（過去1年程度）について				
	今後の外出意向について				
	バリアフリーのまちづくりに向けた意向について				
	市が実施しているバリアフリーに関する取り組みについて				
	回答者自身について				

※1：いずれも16歳以上の市民が対象

※2：住所不明・不在により返信されたものを含む

1-1. 市民アンケート

アンケート結果全体について、以下の表にまとめた。各項目については、次ページ以降に整理した。

表 市民アンケートのまとめ

項目	まとめ
外出の頻度と 主な外出先	<ul style="list-style-type: none"> 外出の頻度はいずれも高く、週1日以上外出する人が大半を占めており、主な外出先の最寄り駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」周辺が多くなっているが、駅周辺以外の場所の利用も多い。
主な交通手段	<ul style="list-style-type: none"> 自動車による移動が主な交通手段ではあるが、徒歩や自転車等による移動も多い。鉄道の主な乗降駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」「五十鈴川駅」など市内の主要駅が多い。
主な外出の目的	<ul style="list-style-type: none"> 主な外出の目的としては、買い物や通院、公共機関や銀行、郵便局などへ外出することが多くなっている。障がい者と高齢者は通院のために外出する人の割合が全体の5割強と高く、子育て世代は、上記に加えて子育て施設への外出が多い。
移動する際に 不便だと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 移動をする際に不便だと感じたことについて、「通路がせまい」「凸凹や段差がある」「ベンチ等の休憩施設が少ない」が共通して多く、加えて障がい者と子育て世代からは「バス停やタクシー乗り場・駐車場まで通路に屋根がない」が多い。
外出時に手助けが 必要だと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 外出時に手助けが必要だと感じたことについて、障がい者、高齢者は「見た目では分からない障がいを理解してほしい」が最も多く、「乗り物などで席を譲ってほしい」「移動で困っているときに声をかけてほしい」「障がい衝動からくる行動を見守ってほしい」などが多くなっている。一方で高齢者については、上記に加えて「手助けが必要だと感じたことはない」も多い。子育て世代については、「乳幼児を連れている際には配慮してほしい」が突出して多くなっている。
バリアフリーに 関する行動	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーに関する行動（一般向けアンケートのみの質問項目）について、「扉を開けるのを手伝う」「乗り物などで席を譲る」「エレベーターを譲る」が多くなっている。
バリアフリーの まちづくりに向けて 必要だと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーのまちづくりに向けて必要だと思うこととして、「バリアフリーへの教育や意識向上」「自転車利用のマナー向上」「店舗等の意識向上」「職員等の対応スキルの向上」「情報提供」が共通して多くなっている。加えて、高齢者は「地域での声掛け運動」、子育て世代は「交流の機会をつくる」も多くなっている。
市が実施している バリアフリーに関する 取り組みの認知度	<ul style="list-style-type: none"> 市が実施しているバリアフリーに関する取り組みの認知度としては、いずれも約半数が質問にある4つの取り組みのうち少なくとも一つは知っていると回答しており、中でも伊勢おもてなしヘルパーと障がい者サポーター制度は知っているとの回答が比較的多くなっている。

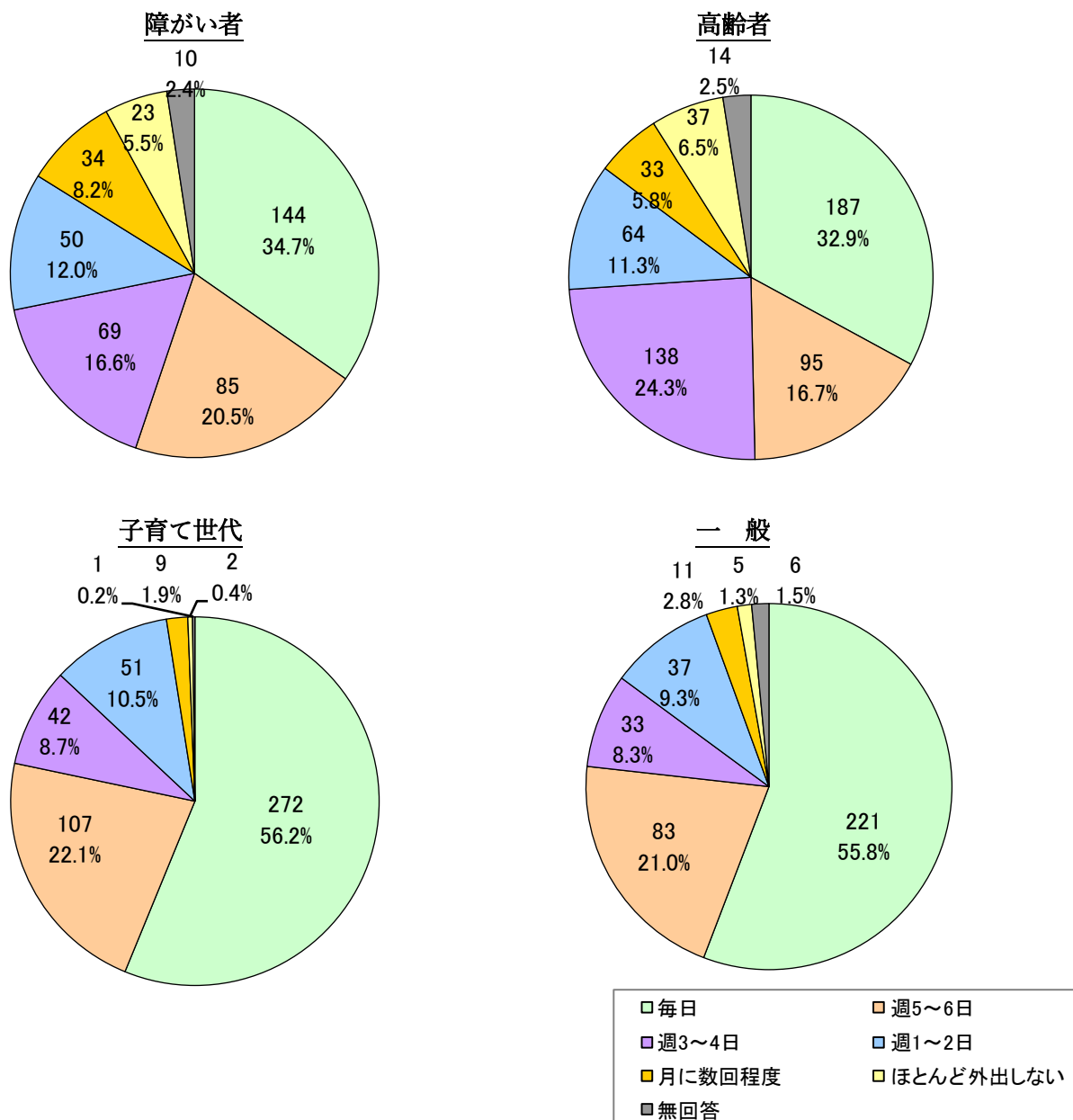
2. 市民アンケート結果

2-1. 普段の外出（過去1年程度）

問 外出の頻度についてお聞きします。（あてはまる番号1つだけ○）

外出頻度は、「毎日」が障がい者の約35%、高齢者の約33%と最も多くなっている。週に1日以上外出する割合は、障がい者は全体の約84%、高齢者は全体の約85%を占めている。

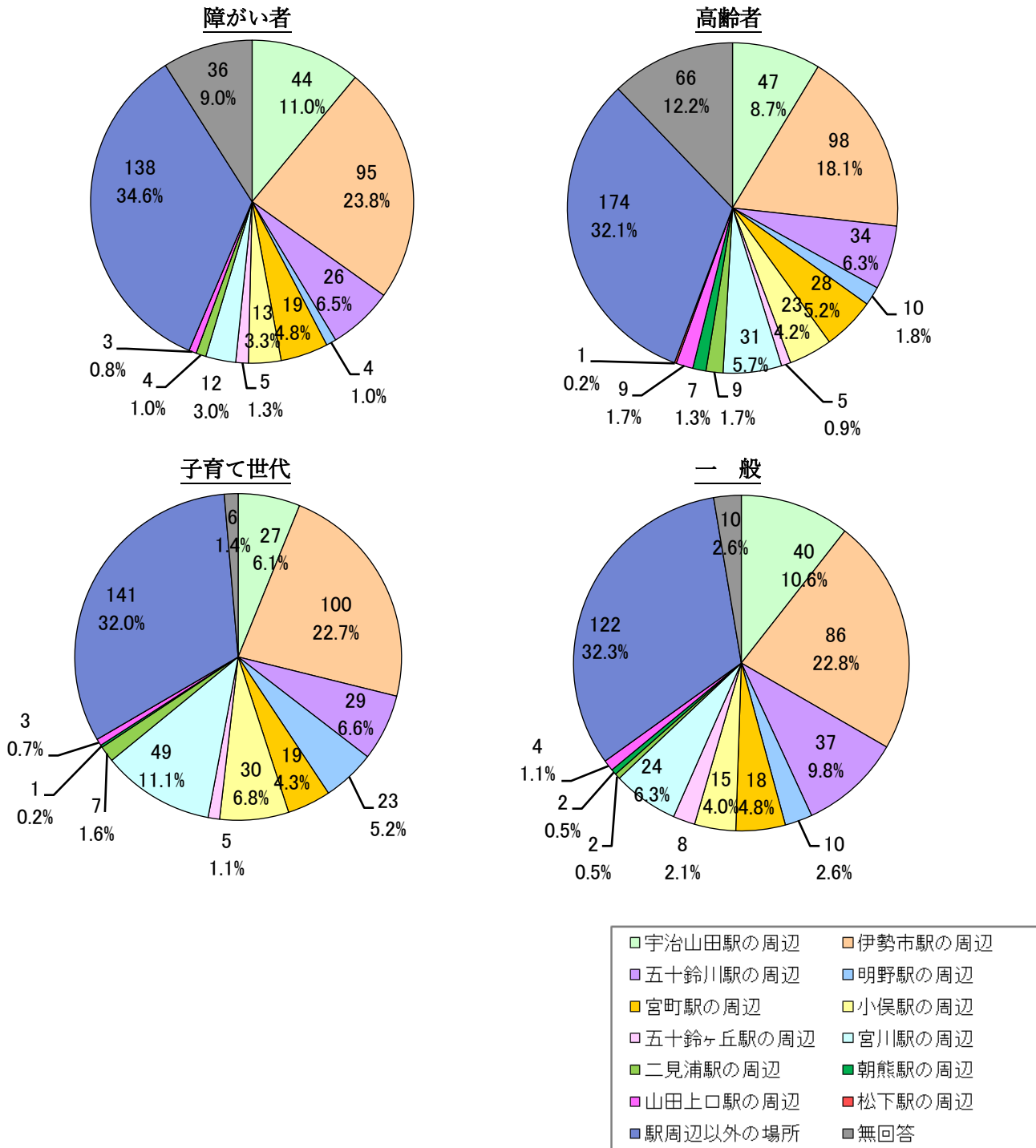
子育て世代および一般については、「毎日」がそれぞれ約56%と最も多く、週に1日以上外出する割合は、子育て世代は全体の約98%、一般は全体の約94%を占め、障がい者や高齢者と比較しても外出頻度が多くなっている。



(1) 駅周辺の地域まで移動する際の行動についてお伺いします。

問 あなたが外出する“市内”の行き先についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先として、共通して「駅周辺以外の場所」を除くと「伊勢市駅の周辺」が最も多く、高齢者は全体の約18%、それ以外は全体の約23~24%となっている。「伊勢市駅の周辺」に次いで多いのは、共通して「宇治山田駅の周辺」「五十鈴川駅の周辺」となっている。



問 あなたが自宅から前問で答えた地域まで移動する際の移動手段についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

よく利用する地域まで移動する際の主な移動手段としては、共通して「自動車(自分で運転)」「自動車(家族などが運転)」が多くなっており、鉄道やバスといった公共交通の利用は少ない傾向にある。

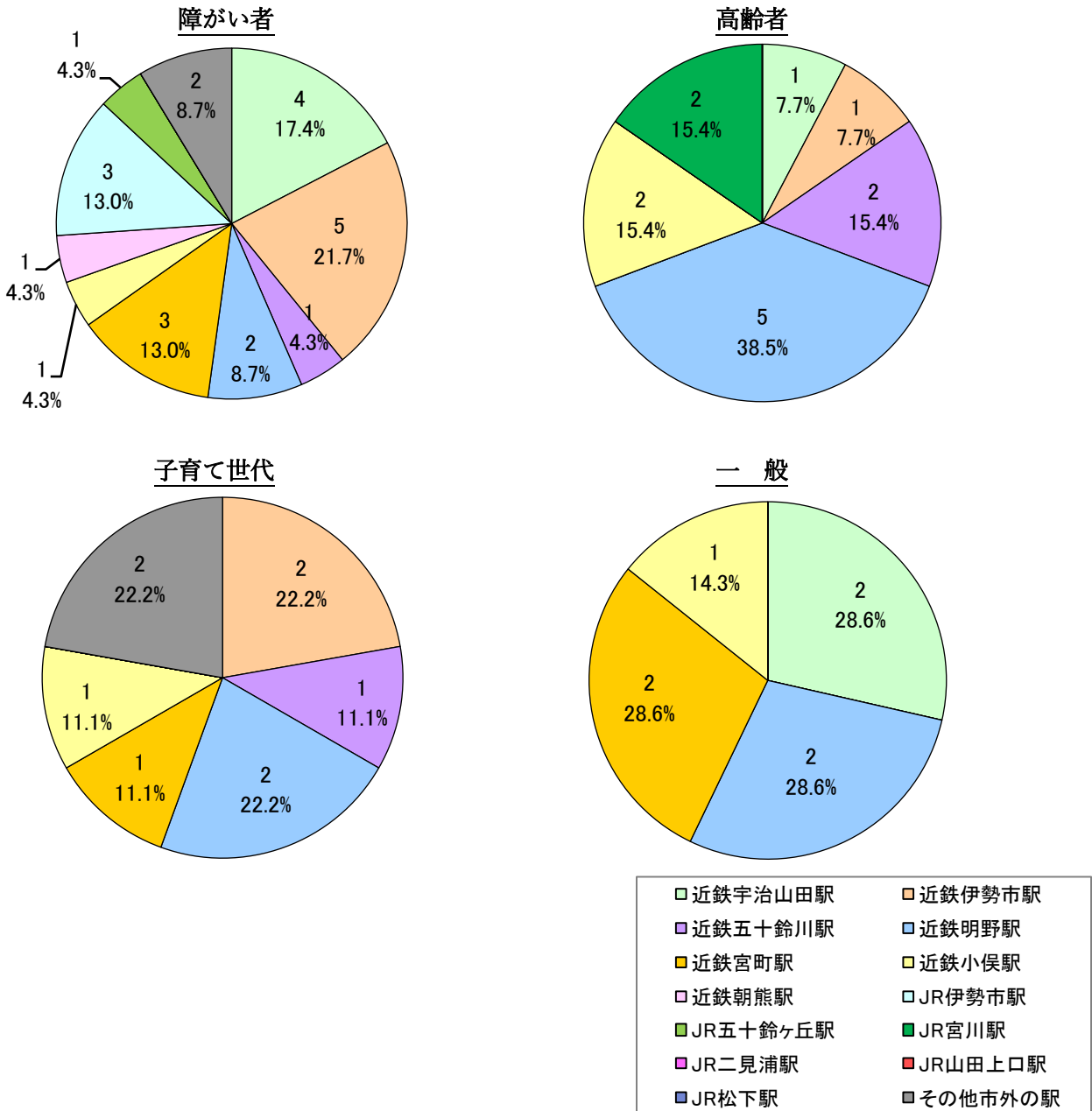
また、障がい者や高齢者、一般については、「徒歩」や「自転車」による移動もそれぞれ、全体の約17～23%程度見られるが、子育て世代はこれらの移動手段について他と比較して少なくなっており、「自動車(自分で運転)」「自動車(家族などが運転)」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 徒歩	障がい者	97	23.4%					
	高齢者	132	23.2%					
	子育て世代	74	15.3%					
	一般	75	18.9%					
2. 徒歩(+歩行支援具)	障がい者	10	2.4%					
	高齢者	23	4.0%					
	子育て世代	55	11.4%					
	一般							
3. 自転車	障がい者	71	17.1%					
	高齢者	126	22.2%					
	子育て世代	43	8.9%					
	一般	69	17.4%					
4. 車いす (電動車いす含む)	障がい者	12	2.9%					
	高齢者	4	0.7%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般							
5. バス	障がい者	59	14.2%					
	高齢者	60	10.6%					
	子育て世代	11	2.3%					
	一般	17	4.3%					
6. タクシー	障がい者	32	7.7%					
	高齢者	29	5.1%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般	6	1.5%					
7. 自動車(自分で運転)	障がい者	135	32.5%					
	高齢者	291	51.2%					
	子育て世代	391	80.8%					
	一般	294	74.2%					
8. 自動車(家族などが運転)	障がい者	159	38.3%					
	高齢者	131	23.1%					
	子育て世代	173	35.7%					
	一般	88	22.2%					
9. バイク	障がい者	10	2.4%					
	高齢者	44	7.7%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般	14	3.5%					
10. 鉄道	障がい者	26	6.3%					
	高齢者	25	4.4%					
	子育て世代	14	2.9%					
	一般	20	5.1%					
11. その他	障がい者	1	0.2%					
	高齢者	0	0.0%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般							
無回答	障がい者	38	9.2%					
	高齢者	52	9.2%					
	子育て世代	5	1.0%					
	一般	10	2.5%					
回答者数	障がい者	415						
	高齢者	568						
	子育て世代	484						
	一般	396						

問 前問で「10. 鉄道」をお答えした方に鉄道を利用する際の主な乗車駅についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先まで鉄道で移動する際の主な乗車駅として、障がい者は「近鉄伊勢市駅」が約 22%と最も多く、次いで「近鉄宇治山田駅」「近鉄宮町駅」「JR 伊勢市駅」が多くなっている。また、近鉄と JR を含めた伊勢市駅全体については約 35%となっている。

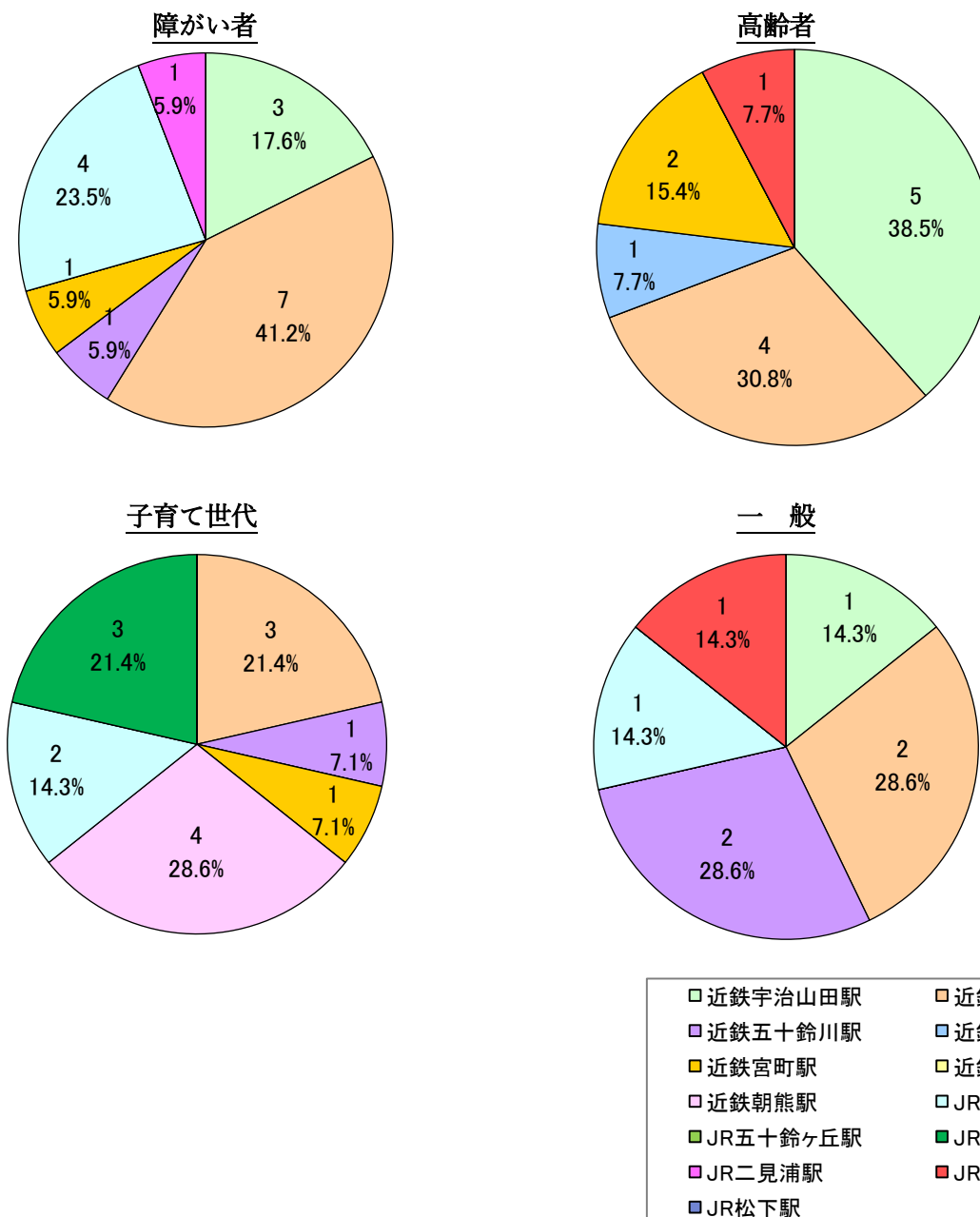
高齢者や子育て世代、一般は、サンプル数が少ないが「近鉄明野駅」「近鉄小俣駅」「近鉄伊勢市駅」「近鉄宇治山田駅」「近鉄五十鈴川駅」「近鉄宮町駅」「JR 宮川駅」等が挙げられている。



問 前々問で「10. 鉄道」をお答えした方に鉄道を利用する際の主な降車駅についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先まで鉄道で移動する際の主な降車駅として、障がい者は「近鉄伊勢市駅」が全体の約41%と最も多く、次いで「JR伊勢市駅」が多くなっている。また、近鉄とJRを含めた伊勢市駅全体については約65%となっている。

高齢者や子育て世代、一般についてはサンプル数が少ないが「近鉄伊勢市駅」「近鉄宇治山田駅」「近鉄朝熊駅」「近鉄五十鈴川駅」「近鉄宮町駅」「JR伊勢市駅」「JR宮川駅」等が挙げられている。



(2) 施設を利用する際の行動についてお伺いします。

問 外出の目的とそのときに訪れた施設についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○をつけ、具体的な施設名をお書きください。)

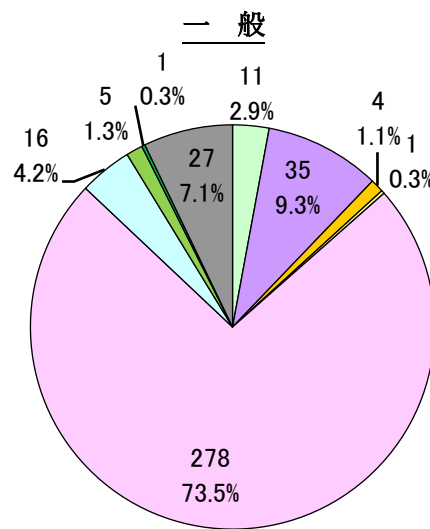
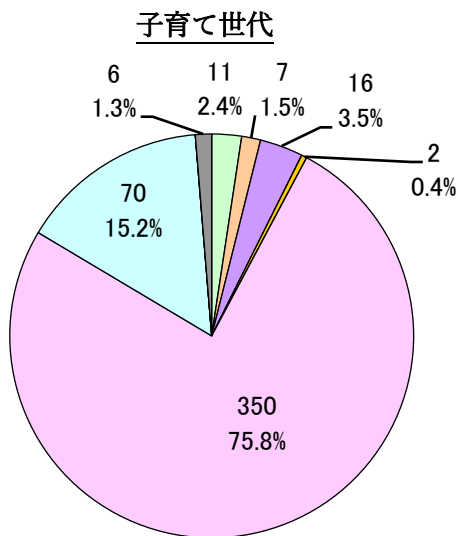
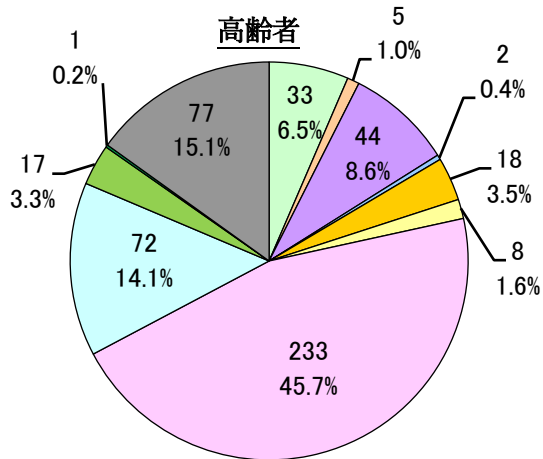
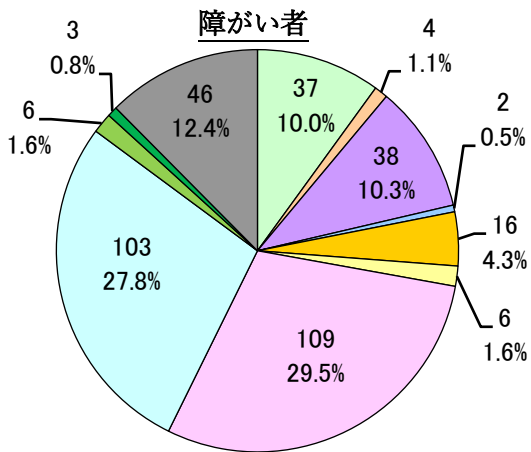
主な外出の目的は、共通して「食料品・日用品の買い物（スーパーやドラッグストアなど）」が約65%～82%と最も多くなっている。次いで、「病院や診療所など医療施設への通院」「銀行や郵便局などへの用事」「非日用品の買い物（ホームセンターや専門店など余暇）」「市役所・支所など公共機関への用事」が多くなっているが、「病院や診療所など医療施設への通院」については、障がい者、高齢者が約55～59%と過半数であるのに対し、子育て世代、一般は約29～34%と割合に差が見られる。

この他に、子育て世代は、「保育園や幼稚園、子育て支援センターなど子育て施設への用事」「図書館や資料館など文化施設への用事」「公園や体育館など運動施設への用事」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 市役所・支所など公共機関への用事	障がい者	136	32.8%					
	高齢者	159	28.0%					
	子育て世代	118	24.4%					
	一般	105	26.5%					
2. 老人福祉センターや福祉健康センターなど社会福祉施設への用事	障がい者	43	10.4%					
	高齢者	59	10.4%					
	子育て世代	25	5.2%					
	一般	18	4.5%					
3. 保育園や幼稚園、子育て支援センターなど子育て施設への用事	障がい者	2	0.5%					
	高齢者	15	2.6%					
	子育て世代	350	72.3%					
	一般	37	9.3%					
4. 公民館やコミュニティセンター、いせトピアなど生涯学習施設への用事	障がい者	20	4.8%					
	高齢者	70	12.3%					
	子育て世代	30	6.2%					
	一般	40	10.1%					
5. 病院や診療所など医療施設への通院	障がい者	230	55.4%					
	高齢者	332	58.5%					
	子育て世代	162	33.5%					
	一般	116	29.3%					
6. 食料品・日用品の買い物(スーパーやドラッグストアなど)	障がい者	270	65.1%					
	高齢者	416	73.2%					
	子育て世代	398	82.2%					
	一般	306	77.3%					
7. 非日用品の買い物(ホームセンターや専門店など余暇)	障がい者	140	33.7%					
	高齢者	207	36.4%					
	子育て世代	184	38.0%					
	一般	171	43.2%					
8. 小学校・中学校など教育機関への用事	障がい者	23	5.5%					
	高齢者	16	2.8%					
	子育て世代	73	15.1%					
	一般	51	12.9%					
9. 神社・仏閣などへの参拝	障がい者	57	13.7%					
	高齢者	97	17.1%					
	子育て世代	47	9.7%					
	一般	62	15.7%					
10. 図書館や資料館など文化施設への用事	障がい者	43	10.4%					
	高齢者	74	13.0%					
	子育て世代	145	30.0%					
	一般	70	17.7%					
11. 銀行や郵便局などへの用事	障がい者	133	32.0%					
	高齢者	293	51.6%					
	子育て世代	185	38.2%					
	一般	177	44.7%					
12. 公園や体育館など運動施設への用事	障がい者	22	5.3%					
	高齢者	56	9.9%					
	子育て世代	142	29.3%					
	一般	41	10.4%					
13. その他	障がい者	70	16.9%					
	高齢者	66	11.6%					
	子育て世代	47	9.7%					
	一般	75	18.9%					
無回答	障がい者	40	9.6%					
	高齢者	60	10.6%					
	子育て世代	3	0.6%					
	一般	13	3.3%					
回答者数	障がい者	415						
	高齢者	568						
	子育て世代	484						
	一般	396						

問 前問で回答した施設の内、最もよく利用する施設までの主な移動手段についてお聞きします。鉄道やバスをご利用の方は、駅やバス停などから施設までの主な移動手段についてお答えください。
(あてはまる番号1つだけ○)

よく利用する施設までの主な移動は、共通して「自動車(自分で運転)」が最も多く、障がい者は約30%、高齢者は約46%、子育て世代と一般は約74~76%となっている。次いで、「自動車(家族などが運転)」
「自転車」「徒歩」が多くなっており、バスなどの公共交通の利用は少ない傾向にある。



- | | |
|--------------|----------------|
| ■ 徒歩 | ■ 徒歩(+歩行支援具) |
| ■ 自転車 | ■ 車いす(電動車いす含む) |
| ■ バス | ■ タクシー |
| ■ 自動車(自分で運転) | ■ 自動車(家族などが運転) |
| ■ バイク | ■ その他 |
| ■ 無回答 | |

問 最もよく利用する施設周辺の道路を徒歩や車いす・歩行支援具などで移動する際または施設を利用する際に不便だと思うことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○。)

最もよく利用する施設周辺の道路を徒歩や車いす・歩行支援具などで移動する際または施設を利用する際に不便だと思うことについて、共通して「通路がせまい」「凸凹や段差がある」「バス停やタクシー乗り場・駐車場までの通路に屋根がない」「ベンチ等の休憩施設が少ない」「多機能トイレがない・少ない」が多くなっている。また、高齢者の約30%は「特に不便はない」と回答している。障がい者および高齢者は、「凸凹や段差がある」が約14~20%と最も多くなっている。子育て世代は、「通路がせまい」が約32%と最も多く、次いで、「凸凹や段差がある」が約22%となっている。

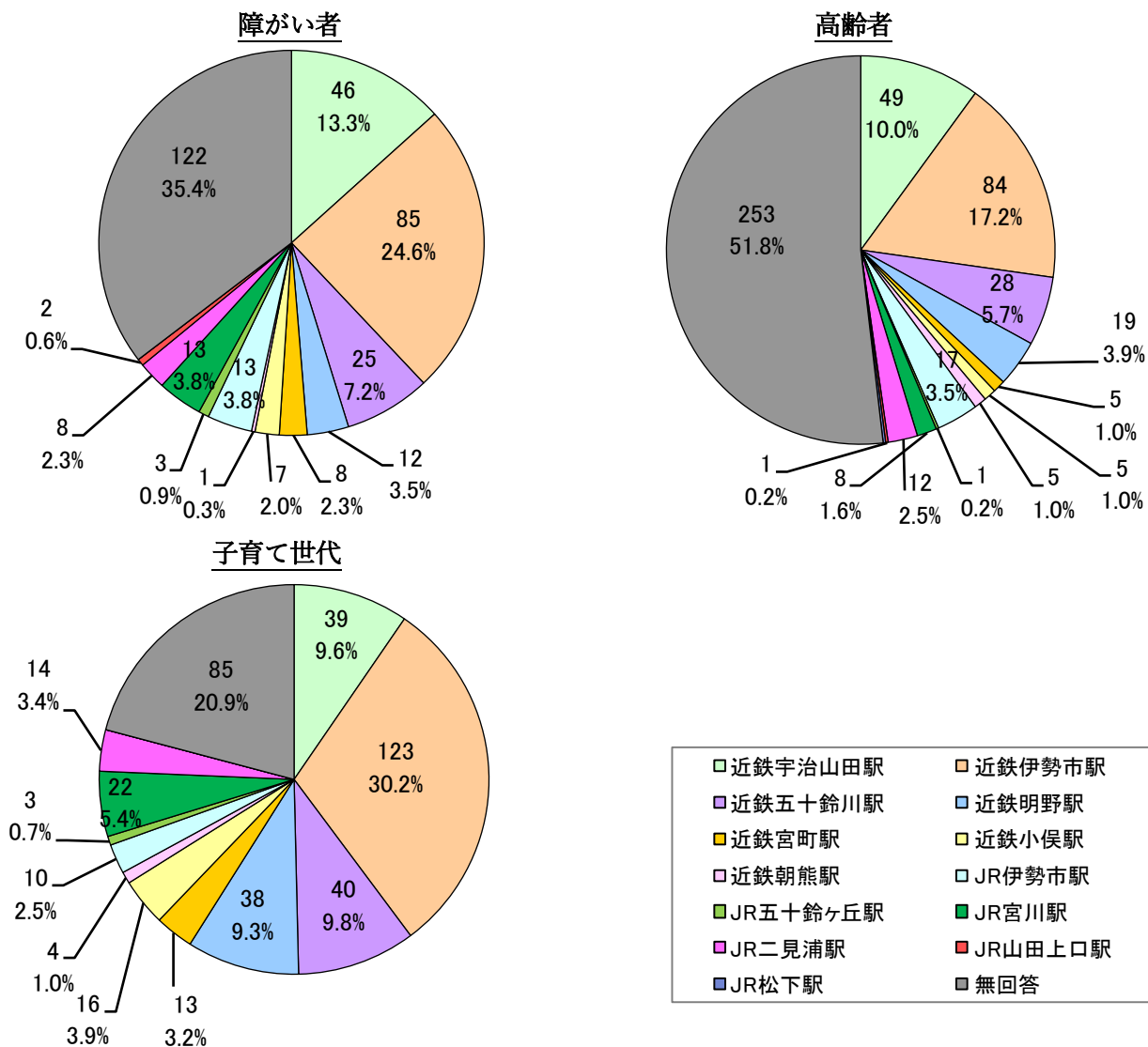
選択肢		属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%
1.	通路がせまい	障がい者	58					
		高齢者	67					
		子育て世代	157					
2.	スロープの傾斜がきつい	障がい者	32					
		高齢者	16					
		子育て世代	13					
3.	音声案内がない・少ない	障がい者	12					
		高齢者	8					
		子育て世代	13					
4.	凸凹や段差がある	障がい者	84					
		高齢者	82					
		子育て世代	108					
5.	案内表示がない・見にくい	障がい者	23					
		高齢者	20					
		子育て世代	19					
6.	路面が滑りやすい	障がい者	30					
		高齢者	17					
		子育て世代	11					
7.	多機能トイレがない・少ない	障がい者	58					
		高齢者	38					
		子育て世代	79					
8.	筆談の用意がない	障がい者	7					
		高齢者	3					
		子育て世代	5					
9.	職員や従業員の対応が不適切	障がい者	23					
		高齢者	7					
		子育て世代	8					
10.	ベンチ等の休憩施設が少ない	障がい者	58					
		高齢者	71					
		子育て世代	54					
11.	多機能トイレに必要な機能がない	障がい者	8					
		高齢者	3					
		子育て世代	18					
12.	点字案内、点字ブロックがない・少ない	障がい者	6					
		高齢者	4					
		子育て世代	16					
13.	エスカレーター・エレベーターの昇り降りがしにくい	障がい者	21					
		高齢者	12					
		子育て世代	17					
14.	バス停やタクシー乗り場・駐車場までの通路に屋根がない	障がい者	63					
		高齢者	54					
		子育て世代	72					
15.	自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	障がい者	32					
		高齢者	25					
		子育て世代	31					
16.	車道と歩道の段差が大きくスロープがない	障がい者	37					
		高齢者	31					
		子育て世代	27					
17.	特に不便はない	障がい者	108					
		高齢者	172					
		子育て世代	100					
18.	その他	障がい者	53					
		高齢者	52					
		子育て世代	67					
無回答		障がい者	95					
		高齢者	176					
		子育て世代	62					
回答者数		障がい者	415					
		高齢者	568					
		子育て世代	484					

2-2. 今後の外出意向

問 あなたがバリアフリー化して欲しいと思う駅についてお聞きます。(あてはまる番号1つだけ)

バリアフリー化して欲しいと思う駅は、「無回答」を除くと、共通して「近鉄伊勢市駅」が約17~30%と最も多く、次いで、「近鉄宇治山田駅」が多くなっている。

子育て世代は、「近鉄五十鈴川駅」「近鉄明野駅」も多くなっている。



問 前問の駅がバリアフリー化された場合、あなたが新たに利用したいと思う“市内”の行き先についてお聞きます。(あてはまる番号すべてに○)

駅がバリアフリー化された際、新たに利用したいと思う市内の行き先は、共通して「伊勢市駅の周辺」が約34～51%と最も多く、次いで、「宇治山田駅の周辺」が多くなっている。

特に、子育て世代は、「伊勢市駅の周辺」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 宇治山田駅の周辺	障がい者	109	26.3%						
	高齢者	126	22.2%						
	子育て世代	129	26.7%						
2. 伊勢市駅の周辺	障がい者	173	41.7%						
	高齢者	191	33.6%						
	子育て世代	247	51.0%						
3. 五十鈴川駅の周辺	障がい者	41	9.9%						
	高齢者	40	7.0%						
	子育て世代	56	11.6%						
4. 明野駅の周辺	障がい者	16	3.9%						
	高齢者	11	1.9%						
	子育て世代	26	5.4%						
5. 宮町駅の周辺	障がい者	24	5.8%						
	高齢者	20	3.5%						
	子育て世代	20	4.1%						
6. 小俣駅の周辺	障がい者	15	3.6%						
	高齢者	20	3.5%						
	子育て世代	24	5.0%						
7. 五十鈴ヶ丘駅の周辺	障がい者	10	2.4%						
	高齢者	9	1.6%						
	子育て世代	12	2.5%						
8. 宮川駅の周辺	障がい者	15	3.6%						
	高齢者	12	2.1%						
	子育て世代	22	4.5%						
9. 二見浦駅の周辺	障がい者	19	4.6%						
	高齢者	14	2.5%						
	子育て世代	25	5.2%						
10. 朝熊駅の周辺	障がい者	4	1.0%						
	高齢者	9	1.6%						
	子育て世代	7	1.4%						
11. 山田上口駅の周辺	障がい者	11	2.7%						
	高齢者	11	1.9%						
	子育て世代	6	1.2%						
12. 松下駅の周辺	障がい者	4	1.0%						
	高齢者	1	0.2%						
	子育て世代	4	0.8%						
無回答	障がい者	156	37.6%						
	高齢者	274	48.2%						
	子育て世代	117	24.2%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							

2-3. バリアフリーのまちづくりに向けた意向

問 普段の外出時に、手助けが必要だと感じたことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

普段外出する際に、手助けが必要だと感じたことは、障がい者は、「見た目では分からない障がいを理解してほしい」が約56%と最も多く、次いで「障がい者の障がい衝動からくる行動（多動、大声、順番を待てない等）を見守ってほしい」が多くなっている。

高齢者は、「手助けが必要だと感じたことはない」が約37%と最も多く、次いで「乗り物などで席を譲ってほしい」「見た目では分からない障がいを理解してほしい」「移動で困っているときに声をかけてほしい」が多くなっている。

子育て世代は、「乳幼児を連れている際には配慮してほしい」が約67%と最も多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%
1. 乗り物などで席を譲ってほしい	障がい者	67	16.1%				
	高齢者	103	18.1%				
	子育て世代	59	12.2%				
2. 荷物を持つのを手伝ってほしい	障がい者	34	8.2%				
	高齢者	46	8.1%				
	子育て世代	50	10.3%				
3. エレベーターを譲ってほしい	障がい者	19	4.6%				
	高齢者	14	2.5%				
	子育て世代	38	7.9%				
4. 扉を開けてほしい	障がい者	30	7.2%				
	高齢者	21	3.7%				
	子育て世代	69	14.3%				
5. 移動で困っているときに声をかけてほしい	障がい者	75	18.1%				
	高齢者	71	12.5%				
	子育て世代	73	15.1%				
6. 5以外の場合でも、手助けが必要かどうか気軽に声をかけてほしい	障がい者	54	13.0%				
	高齢者	52	9.2%				
	子育て世代	39	8.1%				
7. 乳幼児を連れている際には配慮してほしい	障がい者	21	5.1%				
	高齢者	37	6.5%				
	子育て世代	326	67.4%				
8. 障がい者の障がい衝動からくる行動(多動、大声、順番を待てない等)を見守ってほしい	障がい者	92	22.2%				
	高齢者	44	7.7%				
	子育て世代	50	10.3%				
9. 見た目では分からない障がいを理解してほしい	障がい者	231	55.7%				
	高齢者	97	17.1%				
	子育て世代	63	13.0%				
10. 手助けが必要だと感じたことはない	障がい者	75	18.1%				
	高齢者	208	36.6%				
	子育て世代	69	14.3%				
11. その他	障がい者	50	12.0%				
	高齢者	69	12.1%				
	子育て世代	34	7.0%				
無回答	障がい者	34	8.2%				
	高齢者	116	20.4%				
	子育て世代	27	5.6%				
回答者数	障がい者	415					
	高齢者	568					
	子育て世代	484					

問 あなたが実際に実施したことがあるバリアフリーに関する行動についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○) (「一般」のみの質問)

実際に実施したことがあるバリアフリーに関する行動について、「扉を開けるのを手伝う」が約62%と最も多く、次いで「乗り物などで席を譲る」「エレベーターを譲る」が多くなっている。

選択肢	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 乗り物などで席を譲る	233	58.8%					
2. 荷物を持つのを手伝う	56	14.1%					
3. エレベーターを譲る	143	36.1%					
4. 扉を開けるのを手伝う	244	61.6%					
5. 移動で困っているときに声をかける	76	19.2%					
6. 5以外の場合でも、手助けが必要か声をかける	45	11.4%					
7. 特に何もしていない	55	13.9%					
8. その他	18	4.5%					
無回答	11	2.8%					
回答者数	396						

問 バリアフリーのまちづくりのために必要だと思うことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

バリアフリーのまちづくりのために必要だと思うことは、障がい者は、「飲食店や店舗・商店街の意識向上」が約38%と最も多く、次いで「職員や乗務員の対応スキルの向上」「小学校や中学校でのバリアフリー教育」「自転車利用のマナー向上」が多くなっている。

高齢者は、「自転車利用のマナー向上」が約41%と最も多く、次いで「地域での声掛け運動」「飲食店や店舗・商店街の意識向上」「小学校や中学校でのバリアフリー教育」「バリアフリーマップの作成等の情報提供」が多くなっている。

子育て世代と一般は、「小学校や中学校でのバリアフリー教育」が約54~55%と最も多く、次いで「飲食店や店舗・商店街の意識向上」「自転車利用のマナー向上」「職員や乗務員の対応スキルの向上」が多くなっているなど、回答の割合に明確な違いが見られた。

選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 小学校や中学校でのバリアフリー教育	障がい者	136	32.8%						
	高齢者	133	23.4%						
	子育て世代	259	53.5%						
	一般	217	54.8%						
2. 地域での声掛け運動	障がい者	93	22.4%						
	高齢者	167	29.4%						
	子育て世代	99	20.5%						
	一般	115	29.0%						
3. 自転車利用のマナー向上	障がい者	135	32.5%						
	高齢者	233	41.0%						
	子育て世代	205	42.4%						
	一般	182	46.0%						
4. 講演会やパンフレット等での啓発活動	障がい者	57	13.7%						
	高齢者	53	9.3%						
	子育て世代	31	6.4%						
	一般	41	10.4%						
5. 高齢者、障がい者、子育て中の方との交流の機会をつくる	障がい者	96	23.1%						
	高齢者	89	15.7%						
	子育て世代	115	23.8%						
	一般	105	26.5%						
6. 飲食店や店舗・商店街の意識向上	障がい者	158	38.1%						
	高齢者	143	25.2%						
	子育て世代	200	41.3%						
	一般	179	45.2%						
7. 職員や乗務員の対応スキルの向上	障がい者	143	34.5%						
	高齢者	112	19.7%						
	子育て世代	165	34.1%						
	一般	182	46.0%						
8. バリアフリーマップの作成等の情報提供	障がい者	102	24.6%						
	高齢者	119	21.0%						
	子育て世代	110	22.7%						
	一般	115	29.0%						
9. 特に必要ない	障がい者	26	6.3%						
	高齢者	53	9.3%						
	子育て世代	13	2.7%						
	一般	9	2.3%						
10. その他	障がい者	31	7.5%						
	高齢者	41	7.2%						
	子育て世代	38	7.9%						
	一般	46	11.6%						
無回答	障がい者	54	13.0%						
	高齢者	93	16.4%						
	子育て世代	25	5.2%						
	一般	14	3.5%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							
	一般	396							

2-4. 市が実施しているバリアフリーに関する取り組み

問 市が実施しているバリアフリーに関するサポート・支援制度の取り組みのうち、あなたが知っている取り組みについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

知っている市のバリアフリーに関するサポート・支援制度は、高齢者以外については「1 つも知らない」が約 41～55%と最も多く、高齢者も「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」の約 38%に次いで多くなっている。

障がい者は、「障がい者サポーター制度」「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」が約 30%、子育て世代は、「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」「認知症サポーター制度」が約 19%、一般は、「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」が約 36%となっている。

全回答者の約 4 割以上が、市が実施しているバリアフリーに関するサポート・支援制度のうちいずれかを知っているという状況にある。

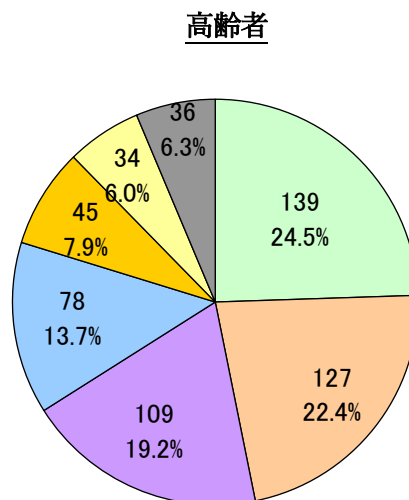
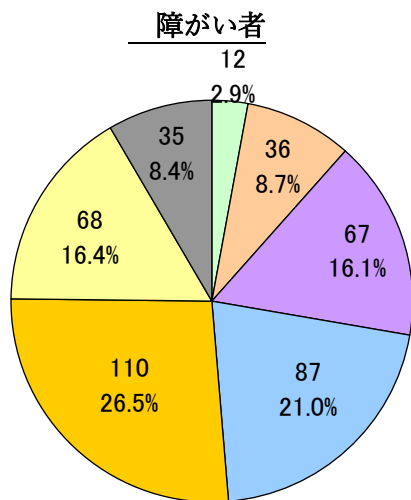
選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート	障がい者	113	27.2%						
	高齢者	218	38.4%						
	子育て世代	94	19.4%						
	一般	144	36.4%						
2. 障がい者サポーター制度	障がい者	126	30.4%						
	高齢者	84	14.8%						
	子育て世代	71	14.7%						
	一般	83	21.0%						
3. 子どもたちとつくる「やさしいまち伊勢」支援事業	障がい者	22	5.3%						
	高齢者	30	5.3%						
	子育て世代	41	8.5%						
	一般	27	6.8%						
4. 認知症サポーター制度	障がい者	46	11.1%						
	高齢者	73	12.9%						
	子育て世代	90	18.6%						
	一般	96	24.2%						
5. 1 つも知らない	障がい者	170	41.0%						
	高齢者	210	37.0%						
	子育て世代	268	55.4%						
	一般	177	44.7%						
無回答	障がい者	51	12.3%						
	高齢者	93	16.4%						
	子育て世代	26	5.4%						
	一般	12	3.0%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							
	一般	396							

2-5. あなたご自身（宛名のご本人）について

問 あなたの年齢についてお聞きします。（あてはまる番号1つだけ○）

障がい者は「50～59歳」、高齢者は「65～69歳」、子育て世代は「35～39歳」、一般は「40～49歳」が最も多く約25～29%となっている。

その他の年代も、障がい者は40代、高齢者は70代、子育て世代は30代、一般は40代、50代の合計が全体のおよそ半分を占めている。

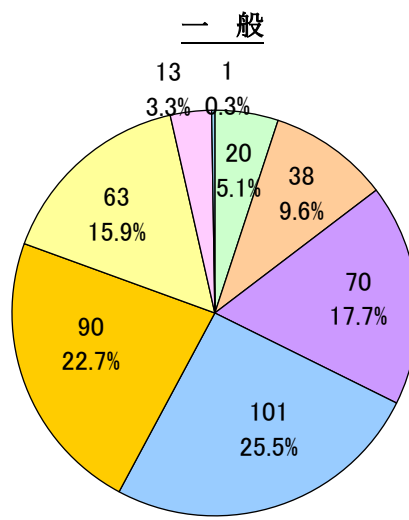
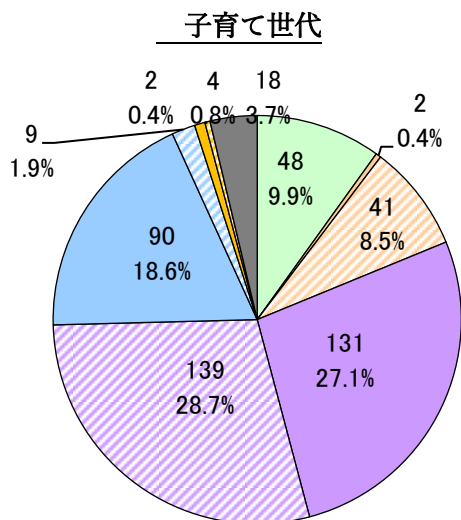


16～19歳
 20～29歳
 30～39歳
 40～49歳

65～69歳
 70～74歳
 75～79歳
 80～84歳

50～59歳
 60～64歳
 無回答

85～89歳
 90歳以上
 無回答



20歳未満
 20～24歳
 25～29歳
 30～34歳

16～19歳
 20～29歳
 30～39歳
 40～49歳

35～39歳
 40～44歳
 45～49歳
 50～59歳

50～59歳
 60～64歳
 無回答

問 お住まいの地区（小学校区）についてお聞きます。（あてはまる番号1つだけ○）

住まいの地区（小学校区）は、市全体から回答を得ており、障がい者は「厚生」が約9%と最も多く、高齢者は「有緝」で約8%、一般は「小俣」で約13%であった。

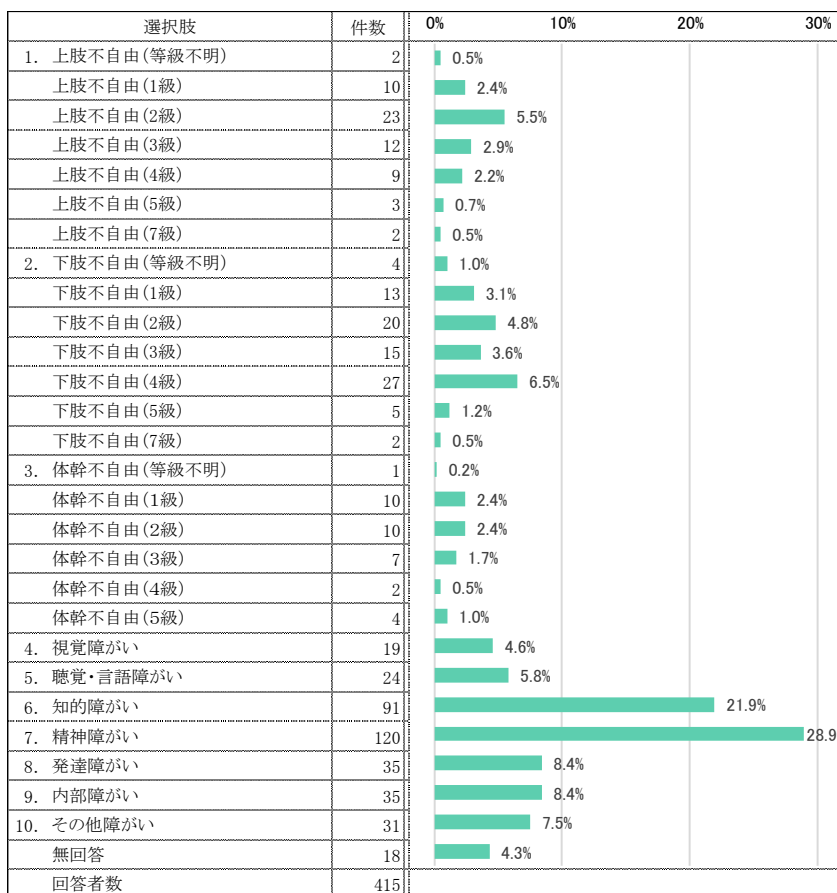
子育て世代は「小俣」で約16%、次いで「明野」が約13%で、この2地区はその他の地域と比較しても割合が高い傾向がある。

選択肢	属性	件数	0%	5%	10%	15%	20%
1. 進修	障がい者	9	2.2%				
	高齢者	17	3.0%				
	子育て世代	8	1.7%				
	一般	7	1.8%				
2. 修道	障がい者	29	7.0%				
	高齢者	31	5.5%				
	子育て世代	19	3.9%				
	一般	32	8.1%				
3. 有緝	障がい者	35	8.4%				
	高齢者	46	8.1%				
	子育て世代	39	8.1%				
	一般	21	5.3%				
4. 早修	障がい者	15	3.6%				
	高齢者	20	3.5%				
	子育て世代	15	3.1%				
	一般	11	2.8%				
5. 中島	障がい者	29	7.0%				
	高齢者	32	5.6%				
	子育て世代	17	3.5%				
	一般	21	5.3%				
6. 明倫	障がい者	19	4.6%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	27	5.6%				
	一般	21	5.3%				
7. 厚生	障がい者	36	8.7%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	27	5.6%				
	一般	24	6.1%				
8. 神社	障がい者	10	2.4%				
	高齢者	16	2.8%				
	子育て世代	25	5.2%				
	一般	24	6.1%				
9. 大湊	障がい者	13	3.1%				
	高齢者	20	3.5%				
	子育て世代	6	1.2%				
	一般	7	1.8%				
10. 佐八	障がい者	2	0.5%				
	高齢者	15	2.6%				
	子育て世代	3	0.6%				
	一般	7	1.8%				
11. 宮山	障がい者	8	1.9%				
	高齢者	7	1.2%				
	子育て世代	21	4.3%				
	一般	18	4.5%				
12. 浜郷	障がい者	28	6.7%				
	高齢者	21	3.7%				
	子育て世代	16	3.3%				
	一般	19	4.8%				

選択肢	属性	件数	0%	5%	10%	15%	20%
13. 四郷	障がい者	12	2.9%				
	高齢者	25	4.4%				
	子育て世代	12	2.5%				
	一般	12	3.0%				
14. 豊浜東	障がい者	3	0.7%				
	高齢者	7	1.2%				
	子育て世代	2	0.4%				
	一般	4	1.0%				
15. 豊浜西	障がい者	11	2.7%				
	高齢者	9	1.6%				
	子育て世代	14	2.9%				
	一般	8	2.0%				
16. 北浜	障がい者	14	3.4%				
	高齢者	18	3.2%				
	子育て世代	8	1.7%				
	一般	8	2.0%				
17. 東大淀	障がい者	8	1.9%				
	高齢者	11	1.9%				
	子育て世代	5	1.0%				
	一般	5	1.3%				
18. 城田	障がい者	14	3.4%				
	高齢者	26	4.6%				
	子育て世代	20	4.1%				
	一般	14	3.5%				
19. 上野	障がい者	5	1.2%				
	高齢者	3	0.5%				
	子育て世代	9	1.9%				
	一般	6	1.5%				
20. 二見浦	障がい者	15	3.6%				
	高齢者	33	5.8%				
	子育て世代	20	4.1%				
	一般	16	4.0%				
21. 小俣	障がい者	24	5.8%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	79	16.3%				
	一般	51	12.9%				
22. 明野	障がい者	10	2.4%				
	高齢者	27	4.8%				
	子育て世代	62	12.8%				
	一般	25	6.3%				
23. 御薊	障がい者	27	6.5%				
	高齢者	29	5.1%				
	子育て世代	26	5.4%				
	一般	33	8.3%				
24. 分からない	障がい者	6	1.4%				
	高齢者	0	0.0%				
	子育て世代	0	0.0%				
	一般	1	0.3%				
無回答	障がい者	33	8.0%				
	高齢者	22	3.9%				
	子育て世代	4	0.8%				
	一般	1	0.3%				
回答者数	障がい者	415					
	高齢者	567					
	子育て世代	484					
	一般	396					

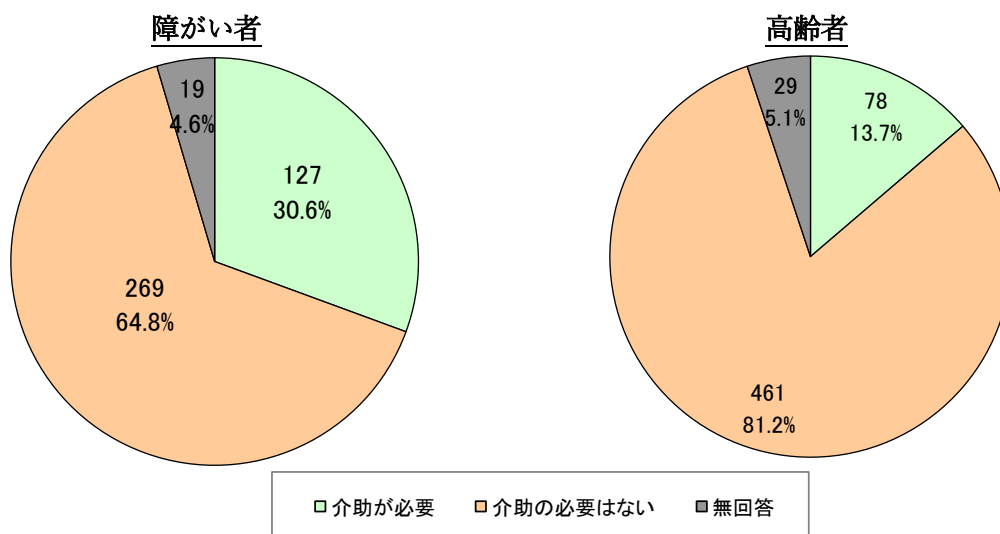
問 あなたの障がいの種類についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)(肢体不自由の方は等級を()にお書きください。)(障がい者のみ)

障がいの種類について、「精神障がい」が約29%と最も多く、次いで「知的障がい」が多くなっている。



問 外出する場合の介助についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)(障がい者・高齢者のみ)

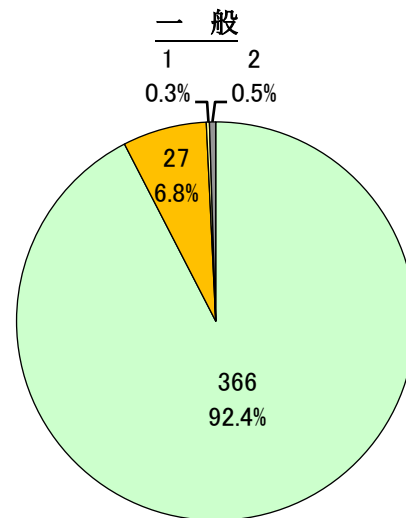
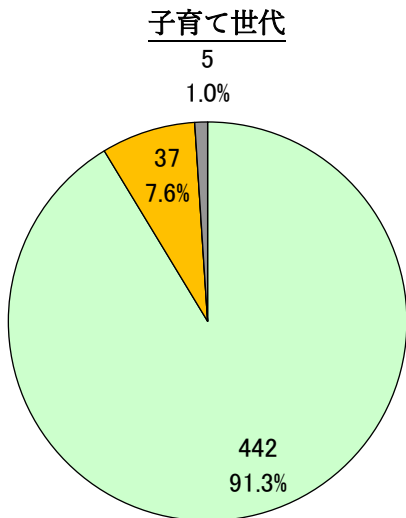
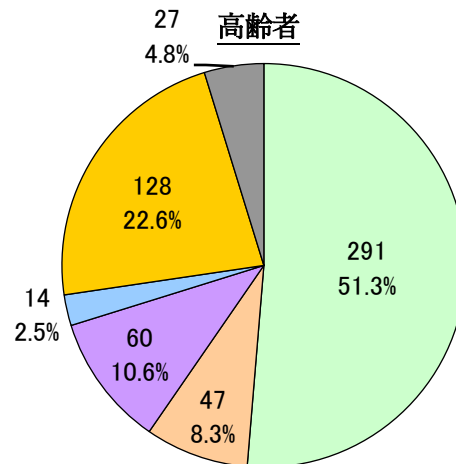
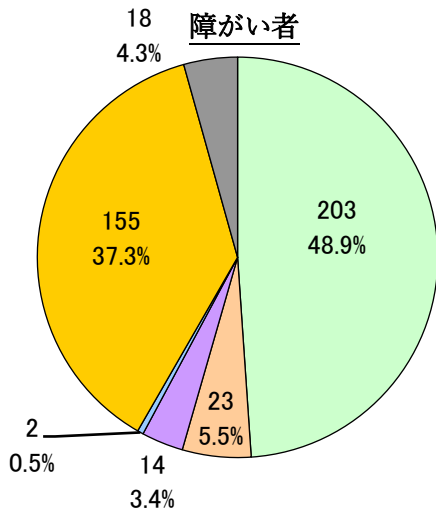
外出する場合の介助について、障がい者は「介助の必要性はない」が約65%、「介助が必要」が約31%となっている。高齢者については、「介助の必要性はない」が約81%、「介助が必要」が約14%となっている。



問 自動車運転免許の有無についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

自動車運転免許の有無は、障がい者と高齢者は「自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない」が約49～51%と最も多く、次いで、「自動車運転免許も自動二輪免許も持っていない」であり、障がい者は37%、高齢者は約23%であった。

子育て世代と一般は「自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない」が最も多く約91～92%となっている。



- 自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない
- 自動車運転免許を返納した
- 自動車運転免許を持っているが、将来的(2～3年以内)に返納する予定
- 自動車運転免許は持っていないが、自動二輪免許を持っている
- 自動車運転免許も自動二輪免許も持っていない
- 無回答

第3編 事業者・関係団体ヒアリング調査

1. 事業者・関係団体ヒアリング調査の概要

移動等円滑化促進方針の策定にあたり、鉄道事業者やバス事業者、タクシー協会などの関係事業者に対して、本市における各交通手段のバリアフリー化対応状況や、交通事業者としての取り組みなどについてヒアリング調査を実施した。

あわせて、市内の高齢者・障がい者団体およびNPO法人を対象に、普段の移動や公共交通を利用する際に不便だと思うことなどについてヒアリング調査を実施した。

表 ヒアリング調査の概要

	対象	日時	主なヒアリング項目
交通事業者	近畿日本鉄道株式会社	2019.8.19(月)	車両などのバリアフリー対応状況 事業者としての取り組み 今後のバリアフリー関連事業の予定など
	東海旅客鉄道株式会社	2019.8.26(月)	
	三重交通株式会社	2019.8.26(月)	
	三重県タクシー協会 伊勢志摩支部※	2019.8.20(火)	
関係団体	伊勢身体障害者協和会	2019.8.27(火)	公共施設の利用で不便だと感じたこと これまでの団体の活動や今後の取り組みなど
	小俣町身体障害者協会	2019.9.20(金)	
	二見身体障害者福祉会	2019.8.27(火)	
	伊勢市視覚障害者福祉会	2019.8.27(火)	
	伊勢市聴覚障害者福祉協会	2019.9.20(金)	
	伊勢市手をつなぐ親の会	2019.8.27(火)	
	伊勢市肢体不自由児・者父母の会	2019.9.20(金)	
	伊勢市老人クラブ連合会	2019.8.27(火)	
NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	2019.8.19(月)	観光地で不便だと感じたこと これまでの団体の活動や今後の取り組みなど	

※「株式会社三交タクシー」へヒアリング

2. 事業者ヒアリング

2-1. 鉄道事業者ヒアリング（近鉄）

市内における近鉄線各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅では公共交通移動等円滑化基準省令に基づく全ての機能や施設がバリアフリー化対応されている。また、宇治山田駅は一部スロープの勾配が基準に対応していないが、それ以外のトイレやエレベーターなどはバリアフリー基準に対応している。その他の駅は無人駅や乗降客数の少ない駅が多く、一部バリアフリーに対応していない駅がある。五十鈴川駅については、2019年度（令和元年度）から2020年度（令和2年度）にかけてバリアフリー化工事を行っている。

事業者独自の取り組みとして、車いす利用者や視覚障がい者への声掛けや誘導、駅係員への教育などを実施している。一方、事業を進める上での課題として、エレベーター等の維持管理費や更新費、整備費用面（労務費や材料費等の高騰）など金銭的な課題や整備困難駅（用地問題、自治体の支援が受けられないなど）がある。

表 鉄道事業者としての取り組み状況（近鉄：令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・車いす利用者や視覚障がい者への声掛け、誘導・駅係員への教育・ホーム内方線は、1日あたりの平均乗降客数3,000人未満の駅についても駅の状況に応じて整備を検討
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none">・2019～2020年度（令和元～2年度）に五十鈴川駅のバリアフリー化工事実施
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none">・エレベーター等の維持管理費、更新費など・整備費用面（労務費や材料費等の高騰）・整備困難駅（用地問題、自治体の支援が受けられないなど）
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none">・段差解消に関する要望が多数・エレベーターだけでなく、エスカレーターやスロープ設置に関する要望が多数・誘導チャイムやホーム柵の設置などに関する要望・鉄道車両における車いすスペースの設置に関する要望
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none">・2020年度（令和2年度）までに1日あたりの平均乗降客数3,000人以上の駅のバリアフリー化を進めているが、その他3,000人未満の駅についても自治体等からの要望があれば検討を行う

※市内の各駅におけるバリアフリー対応状況については、1-33ページに記載。

2-2. 鉄道事業者ヒアリング（JR）

市内における JR 線各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅は公共交通移動等円滑化基準省令に基づく全ての機能や施設がバリアフリー化対応されている。この他、山田上り駅でも移動等円滑化された経路が確保されているが、その他の駅は無人駅や乗降客数の少ない駅が多く、バリアフリーに対応していない駅もある。

また、事業者独自の取り組みとして、車両の各箇所に手すりや点字表示、音声案内装置などを設置しており、乗降口付近の段差や優先席などは視認性の確保を実施している。事業を進める上での課題として、整備費用や維持更新に関する費用の増加が挙げられる。

表 鉄道事業者としての取り組み状況（JR：令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅係員への教育 ・ 車両においても各箇所に手すりや点字表示、音声案内装置などを設置 ・ 乗降口付近の段差や優先席の視認性の確保
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリー法に基づいた設備の整備や改良を実施
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備費用や維持更新に関する費用
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物をした際の駅員対応に関するお礼 ・ 大雨でダイヤが乱れている際の駅員対応に関するお礼 ・ エレベーターのない駅での、駅員による対応に関するお礼
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日あたりの乗降客数 3,000 人以上の駅を対象に順次バリアフリー化を実施している ・ 視覚障害者誘導用ブロック、内方線ブロックは伊勢市内を含む全ての駅で整備完了

※市内の各駅におけるバリアフリー対応状況については、1-33 ページに記載。

2-3. バス事業者

伊勢営業所管轄内におけるバス車両のバリアフリー対応状況として、公共交通移動等円滑化基準省令に適合した車両を 60 両有しており、全車両（96 両）の内、約 3 分の 2 がバリアフリー基準に適合している。この内、ノンステップバスは 32 両、ワンステップは 25 両である。一方、公共交通移動等円滑化基準省令に適合していない車両は 36 両であり、基準適用除外認定車両が 2 両、その他車両は 34 両である。

事業者独自の取り組みとしては、運転手による補助の実施や視覚障がい者を見かけた際のアナウンス等の実施、障がい者や高齢者の対応マニュアルを用意している。一方、事業を進める上での課題として、全てのバスがノンステップバスやバリアフリーに対応しているわけではないので、時間や路線によってはバリアフリーに対応していないバスになることがある。

表 車両のバリアフリー対応状況（令和元年 8 月時点）

公共交通移動等円滑化基準省令に適合した車両	
合計	60 両
ノンステップバス	32 両
ワンステップバス	25 両
その他の車両（車種：リエッセ）	3 両
公共交通移動等円滑化基準省令に適合していない車両	
合計	36 両
基準適用除外認定車両	2 両
その他車両	34 両

表 バス事業者としての取り組み状況（令和元年 8 月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手による補助を実施 ・視覚障がい者を見かけた際にはアナウンス等を実施 ・障がい者、高齢者の対応マニュアルを用意
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度（令和元年度）にノンステップバスを 3 台導入予定（伊勢営業所管内）
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのバスがノンステップバスやバリアフリーに対応しているわけではないので、時間や路線によってはバリアフリーに対応していないバスになることがある ・乗り場の改善は道路との兼ね合いもあるので、利用者の声が出てからの対応・検討になってしまう
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時に車いす利用者のために、車いす対応バスを素早く用意できたことに対するお礼
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none"> ・バス車両と乗り場の改善を優先的に進めていく

2-4. タクシー協会（三交タクシー）

タクシー事業者の福祉対応車両の状況として、三交タクシーでは計32台（普通車両：24台、ジャンボタクシー：8台）の車両を有しているが、福祉対応は行われていないとのことである。（ヒアリング時点）

事業者独自の取り組みとして、問い合わせに応じて車いすの貸出を行っており、車いす利用者に対しては運転手が車いすの格納の補助や障がい者、高齢者の介助を実施している。

また、タクシー事業者およびタクシー協会として、バリアフリー化に向けた取り組みは特になく状況である。（ヒアリング時点）

表 タクシー事業者およびタクシー協会としての取り組み（令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
福祉対応車両の状況	・なし（普通車両：24台、ジャンボタクシー：8台）
事業者独自の取り組み	・車いすを2台保有しており問い合わせに応じて貸出 ・車いす利用者は運転手が車いすの格納や障がい者、高齢者の介助を実施
バリアフリー化に向けた取り組み	・特になし

3. 関係団体ヒアリング

市内の障がい者および高齢者団体および NPO 法人を対象に、普段の移動や公共交通を利用する際に不便だと思うことなどについてヒアリング調査を実施し、その結果を以下の表にまとめた。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (1/3)

	項目	まとめ
肢体・身体障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの位置案内や手すりの有無・位置、駐車場からの経路など移動経路に関する点や、トイレなどの設備面など。 ・電車とホームの段差や隙間など(つまづくなど危険を感じる)。 ・車両内の車いす用スペースのそばに介助者の席がないことや、せまい通路の車いすでの移動など。 ・駅へ向かう際の踏切の隙間が大きく、車いすや杖が溝にはまる。 ・電車の乗車待ちをしている際に一般の人からジロジロ見られる、ホーム上で転んでも誰も声をかけてくれないなどの一般利用者の気遣い・マナー。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・上屋やベンチがないため、バス待ち時が不便なこと。 ・車いす対応のバスにいつ乗れるかが分からないこと。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー乗車時や車内のコミュニケーション(目的地の伝達など)を行う際に、時折、対応の悪いドライバーの人がいる。 ・夜間の配車待ち時間が長い。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の凸凹や段差が大きい、また通路幅がせまいので歩きにくい。 ・歩道や誘導用ブロック上に違法駐車があるなど一般利用者の駐車マナーが悪い。
視覚障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・移動経路の分かりづらさ、タッチ式・センサー式のトイレや券売機(障がいの種別によっては利用が難しい)など。 ・誘導用ブロックによる案内の分かりづらさ、普段と乗車位置が異なる電車での乗り降りが難しい。 ・多機能トイレを休憩室代わりに使う人がいるなどマナーに関する問題など。 ・転落防止に関する対策が不十分である。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・駅からバス停へ向かう所に誘導用ブロックがない場所があること、誘導用ブロックによる乗降位置の分かりにくさなどがある。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーが利用できる時間に合わせて行動しないといけない。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導用ブロックの整備が途中で終わっている箇所や、車道よりも歩道が高くなっているマウントアップの歩道が多く、勾配になっている箇所が多い。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (2/3)

項目		まとめ
聴覚障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・切符を買うために駅員を呼びだす必要があることや、エレベーターにモニターがないため、緊急時のコミュニケーションが取れない。 ・電車が遅れた際の情報提供や伝達手段、車内での情報を入手する手段がない。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停やバス車両内で情報を得る手段がないため、遅延情報や今どこを走っているかなどの情報が分からない。 ・雨風をしのぐための上屋などがバス停にない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手相手にコミュニケーションをとることに苦労する。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を知っている人、できる人が少ない点、コンビニなどにサインボードを作って配布したが、利用しているコンビニが少ないなど。
知的障がい者父母の会	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの有無や、エレベーターの場所の分かりやすさなど移動上の問題や、トイレ・時刻表や運賃表の高さなどの施設面など。 ・トイレの中に車いす用のトイレがあると、他の人と一緒に並ぶ必要がある。 ・改札口の幅や混雑時に知的障がい者が利用しやすい専用レーン整備の有無、乗降位置の明示など。 ・車両内の車いす用のスペースに、車いすをロックするような装置がほしい。 ・駅員等に気軽に相談できる方法や環境が少ない。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停で、バスの時間や乗り継ぎ、乗り換えの手段、時間などが分かりにくいこと、バス停周辺は安全に待機できるスペースが少ない。 ・車いす対応のバスにいつ乗れるかが分からない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の配車が少なく、車いす対応のタクシーが少ない。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の街灯や植え込みなど歩道上の障害物、車が乗り入れるために傾斜になっているなど。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (3/3)

項目		まとめ
高齢者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの有無や階段の幅・間隔など。 ・無人駅での乗車券の対応や、誘導用ブロックの歩きづらさ、階段の幅など。 ・電車とホームの段差や隙間、目的地への最短ルートなどに関する情報提供手段など。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の分かりやすさや上屋の有無、バス運行に関する情報提供が少ない。 ・バス車両に乗る際の段差、目的地までの情報提供が少ない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・市内バスがない夜間などにタクシーが使えず、利用できたとしても時間がかかる。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで観光に来た高齢者でも分かりやすいような案内が必要である。 ・レンガで整備された歩道は、木の根や老朽化の凸凹で転倒しやすい。また、杖がレンガの溝に挟まりやすい。
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	市内の主要な観光地や観光施設	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレは複数の障がいに対応できるよう機能が備わっているが、設置数が少ないため、異なった障がいを持った複数の方が一度に利用できない。 (例：高齢者の方が多機能トイレを使用中はオストメイトを利用したい方は利用できない、など) ・異性介助の視覚障がい者と LGBT 用のトイレも必要になってくる（多機能トイレを男女どちらでも利用できるようにすることが必要）。 ・思いやり駐車場や車いす対応駐車場がキャパオーバーになってきている。 ・以前に整備した箇所の補修や現行の法令基準の引き上げ改修などの対応が曖昧になっている。
	観光地周辺の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・案内が分かりにくい上、距離が分からないためどの程度進む必要があるのかが分かりにくい。 ・道路を整備しても違法駐車や店舗の入り口の段差など依然としてバリアが存在している。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・悪天候などで当初の予定がダメになった場合の代替案の提供（リロード）が不足している。 ・トイレや駐車場が利用できなかった場合にどこを利用すればいいのかなどの情報提供・伝達手段が重要である。

第4編 移動等円滑化促進地区の抽出

1. 移動等円滑化促進地区の要件

1-1. 伊勢市の移動等円滑化促進地区の選定基準

(1) 基本的な考え方

移動等円滑化促進地区（案）の選定においては、市内の鉄道駅周辺地区を対象に評価を実施した。これは、バリアフリーマスタープランが、生活関連施設相互間を通常徒歩で移動することを前提としたものであり、市内に立地している大規模店舗や総合病院等で、駅から離れた位置に立地している施設については、その施設から他の生活関連施設への徒歩による移動が見込まれないため、今回は評価対象外とした。

(2) 評価指標の設定

移動等円滑化促進地区の選定にあたり設定した、バリアフリー法に基づく3要件それぞれに対する評価指標と、各評価指標における移動等円滑化促進地区として抽出するための基準値およびその考え方は表1のとおりである。

また、各評価指標における評価点は、表2のとおりである。

表1 評価指標ごとの基準値の考え方

評価指標	基準値	基準値の考え方	基本方針での位置づけ ※3
(ア) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域	障がいのある人などが主に利用する割合が 1.5% 以上※2	移動等円滑化促進地区を抽出するにあたり、ある一定数の市民が駅周辺地域を利用しているかどうかを判断する（2,000人※1以上の市民が駅周辺を利用するかどうか）	① （法第二条第一項第二十号の二イ）
(イ) 生活関連施設	生活関連施設の数が 3箇所 以上	移動等円滑化の促進に関する基本方針を参考に、生活関連施設が3箇所以上なければ特別特定建築物も3箇所以上所在しないため	
(ウ) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数	1日あたりの鉄道駅の平均乗降客数が 2,000人/日 以上	交通バリアフリー基本構想時の旅客施設の抽出基準	② （法第二条第一項第二十号の二ロ）
(エ) バス停の1日あたりの平均乗降客数	1日あたりのバス停の平均乗降客数が 30人/日 以上	市内全バス停の平均値より（平均値：32.7人/日）	
(オ) 都市マスタープランの位置づけ	拠点 としての位置づけ	—	③ （法第二条第一項第二十号の二ハ）
(カ) 観光客入込数	徒歩圏内に 観光施設 が存在	—	

※1：生活関連施設（旅客施設）の抽出基準で、駅周辺を2,000人以上が利用していなければ、少なくとも駅やバス停の利用状況は低いと想定

※2：2,000人/130,000人（平成27年国勢調査の人口）＝約1.5%を基に設定

※3：①～③は「移動等円滑化の促進に関する基本方針（平成31年4月1日時点）」の該当要件（ ）内は高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律における該当要件

表2 評価指標ごとの評価点

評価指標	評価点		
(ア) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(イ) 生活関連施設※	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(ウ) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(エ) バス停の1日あたりの平均乗降客数	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(オ) 都市マスタープランの位置づけ	都市交流拠点：3点 地域交流拠点：2点 その他交流拠点：1点		
(カ) 観光客入込数	1位：3点	2位：2点	3位：1点

※評価対象の駅に評価対象以外の旅客施設が含まれている場合は、候補数から除く。
(評価対象の駅とその周辺の生活関連施設の立地状況で評価するため)

2. 評価指標による評価

2-1. 生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区（要件1）

(1) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域

2019年9月に実施した市民アンケートの結果を踏まえ、主によく利用する駅周辺地域を整理した結果、伊勢市駅が21.5%と最も多く、次いで宇治山田駅の9.0%、宮川駅の6.6%となっており、宮町駅、小俣駅、明野駅などが約3~5%であった。

評価基準に基づき、障がいのある人など^{※1}が主に利用する駅周辺地域として評価を行った結果、最も利用率が高い伊勢市駅を「3」点、次いで多い宇治山田駅を「2」点、3番目に多い宮川駅を「1」点とした。

表 駅周辺の利用率と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	○	×	×	×
割合 (%)	1.3	6.6	1.3	1.1	0.1
点数	—	1	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	○	○	×
割合 (%)	21.5	9.0	2.7	4.8	4.6	0.6
点数	3	2	—	—	—	—

※1：2019年9月実施の市民アンケート結果（障がい者、高齢者、子育て世代、一般）

※2：上記回答の他、駅周辺以外（32.7%）、無回答（6.7%）含む

(2) 生活関連施設

評価基準に基づき、駅から徒歩圏内（駅起点に半径1.4kmの円内）における生活関連施設[※]を整理した結果、最も多い59施設の伊勢市駅を「3」点、次いで多い54施設の宇治山田駅を「2」点、3番目に多い30施設の宮町駅を「1」点とした。

また、この他には、二見浦駅、山田上口駅などでも約20施設が駅周辺に立地している。

表 生活関連施設候補数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	○	○	○	○
施設数	6	8	21	19	3
点数	—	—	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	○	○	×
施設数	59	54	7	30	7	2
点数	3	2	—	1	—	—

※評価対象の駅に評価対象以外の旅客施設が含まれている場合は、候補数から除く

2-2. 生活関連施設および生活関連経路についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区（要件 2）

(1) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数

評価基準に基づき、1日あたりの平均乗降客数を整理した結果、約10,200人/日[※]と最も多い伊勢市駅を「3」点、次いで約8,700人/日の宇治山田駅を「2」点、約2,100人/日の明野駅を「1」点とした。
 （※JRと近鉄両駅の合計）

表 鉄道駅1日あたりの平均乗降客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	×	×	×	×
乗降客数 (人/日)	536	530	496	218	60
点数	—	—	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	×	×	×
乗降客数 (人/日)	10,187	8,650	2,061	1,227	746	132
点数	3	2	1	—	—	—

資料：JR 東海、近畿日本鉄道
 JR：提供資料の1日平均乗降客数を2倍して算出
 近鉄：交通量調査（平成30.11.13）

(2) バス停の1日あたりの平均乗降客数

評価基準に基づき、駅から移動可能な高齢者徒歩圏[※]（駅起点に半径500m）におけるバス停の1日あたりの平均乗降客数を整理した結果、約1,800人/日と最も多い宇治山田駅前バス停を「3」点、次いで約220人/日の二見浦表参道バス停を「1」点とした。

表 バス停1日あたりの平均乗降客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	×	○	○	×
バス停名	山商口	小俣総合支所前	二見浦表参道	宮町	松下広場
乗降客数 (人/日)	40.6	14.1	220.3	98.0	2.3
点数	—	—	1	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	○	×	×
バス停名	宇治山田駅前	宇治山田駅前	近鉄明野駅前	宮町	下小俣公民館	朝熊町
乗降客数 (人/日)	1846.8	1846.8	12.4	98.0	1.8	7.7
点数	3	3	—	—	—	—

※国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」参照

2-3. バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区 (要件3)

(1) 都市マスタープランの位置づけ

評価基準に基づき、都市マスタープランの位置づけを整理した結果、都市交流拠点に位置づけている宇治山田駅と伊勢市駅を「3」点、地域交流拠点に位置づけている小俣駅と宮川駅、二見浦駅を「2」点、市民交流拠点に位置づけている五十鈴ヶ丘駅を「1」点とした。

表 都市マスタープランの位置づけと評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	○	○	×	×
拠点	市民交流 拠点	地域交流 拠点	地域交流 拠点	—	—
点数	1	2	2	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	×	○	×
拠点	都市交流 拠点	都市交流 拠点	—	—	地域交流 拠点	—
点数	3	3	—	—	2	—

(2) 観光客入込数

評価基準に基づき、駅周辺に位置する観光客入込数を整理した結果、最も多い神宮（外宮）のアクセス駅である宇治山田駅と伊勢市駅を「3」点、次いで二見興玉神社のアクセス駅である二見浦駅を「1」点とした。

表 観光入込客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	×	○	×	○
アクセス駅	—	—	二見興玉神社	—	民話の駅 蘇民
点数	—	—	1	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	×	×	×
アクセス駅	神宮 (外宮)	神宮 (外宮)	—	—	—	—
点数	3	3	—	—	—	—

※宮町駅は駅から徒歩圏内（駅起点に半径1.4kmの円内）に神宮（外宮）を有するが、神宮公式ホームページおよび伊勢市観光協会ホームページでは、外宮のアクセス駅として「宇治山田駅」「伊勢市駅」を表記しているため、アクセス駅として評価対象外とした。

3. 評価の整理と移動等円滑化促進地区（案）の抽出

3-1. 基準値の整理

各評価指標での結果を踏まえ、移動等円滑化促進地区（案）として抽出するための基準を満たしているかどうかの判断を行った結果は、以下の表のとおりであり、要件1～3全てを満たしている駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」「二見浦駅」であった。

【要件の評価基準】

- ◎：各要件の評価指標の内、2つ基準値を満たしている
- ：各要件の評価指標の内、1つでも基準値を満たしている
- ×：各要件の評価指標の内、1つも基準値を満たしていない

表 各要件の評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上り駅	松下駅
要件1	○	◎	○	○	○
評価指標（ア）	×	○	×	×	×
評価指標（イ）	○	○	○	○	○
要件2	○	×	○	○	×
評価指標（ウ）	×	×	×	×	×
評価指標（エ）	○	×	○	○	×
要件3	○	○	◎	×	○
評価指標（オ）	○	○	○	×	×
評価指標（カ）	×	×	○	×	○

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
要件1	◎	◎	◎	◎	◎	×
評価指標（ア）	○	○	○	○	○	×
評価指標（イ）	○	○	○	○	○	×
要件2	◎	◎	○	○	×	×
評価指標（ウ）	○	○	○	×	×	×
評価指標（エ）	○	○	×	○	×	×
要件3	◎	◎	×	×	○	×
評価指標（オ）	○	○	×	×	○	×
評価指標（カ）	○	○	×	×	×	×

3-2. 移動等円滑化促進地区の選定

評価指標に基づく評価を行った結果は、以下の表のとおりであった。

表 移動等円滑化促進地区（案）の選定結果

	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上り口駅	松下駅	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
【要件1】 生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区（基準値を達成した評価指標の数）	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	0
評価指標（ア）の評価点	—	1	—	—	—	3	2	—	—	—	—
評価指標（イ）の評価点	—	—	—	—	—	3	2	—	1	—	—
【要件2】 生活関連施設および生活関連経路についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区（要件を達成した〇の数）	1	0	1	1	0	2	2	1	1	0	0
評価指標（ウ）の評価点	—	—	—	—	—	3	2	1	—	—	—
評価指標（エ）の評価点	—	—	1	—	—	3	3	—	—	—	—
【要件3】 バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区（要件を達成した〇の数）	1	1	2	0	1	2	2	0	0	1	0
評価指標（オ）の評価点	1	2	2	—	—	3	3	—	—	2	—
評価指標（カ）の評価点	—	—	1	—	—	3	3	—	—	—	—
基準値を達成した評価指標数	3	3	4	2	2	6	6	3	3	3	0
評価点の合計	1	3	4	0	0	18	15	1	1	2	0
総合順位	6位	4位	3位	9位	9位	1位	2位	6位	6位	5位	11位

第5編 まち歩き（現地確認）の実施

1. まち歩き（現地確認）の実施

1-1. まち歩き（現地確認）の概要

本マスタープランの「2. 移動等円滑化促進地区の抽出」において選定した「伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区」、「二見浦駅周辺地区」について、現地確認を行うためにまち歩きを実施した。まち歩きには、本マスタープラン策定協議会の委員、アドバイザー（市職員）、事務局、随行者が参加し、まち歩きをする中で『移動が不便だと思ふ』『移動する際に危険だ』と思ふ箇所について確認を行った。

また、まち歩きでは駅周辺の道路の他、伊勢市駅、宇治山田駅および二見浦駅についても、鉄道事業者立ち合いのもと現地確認を行った。

表 まち歩き（現地確認）の実施概要

伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区	
日時	12月19日（木） 9:30～
参加者	合計：32名 （策定協議会メンバー：14名、随行者：4名、アドバイザー：2名、事務局：10名）
場所	ルート 1-1：伊勢市駅周辺 ルート 1-2：宇治山田駅周辺
確認項目	『移動が不便だと思ふ』 『移動する際に危険だ』と思ふ箇所

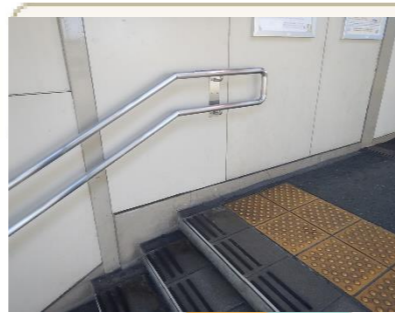
二見浦駅周辺地区	
日時	12月23日（月） 13:30～
参加者	合計：31名 （策定協議会メンバー：14名、随行者：5名、アドバイザー：2名、事務局：11名）
場所	ルート 2-1：二見浦駅周辺 ルート 2-2：二見興玉神社周辺
確認項目	『移動が不便だと思ふ』 『移動する際に危険だ』と思ふ箇所

表 主要な確認事項

項目		チェックポイント
歩道	舗装	ひび割れ、凹凸、勾配など
	幅員	
	段差	車いすが利用しにくい段差の有無
	視覚障害者 誘導用ブロック	誘導用ブロックの有無
	排水施設	側溝のフタの有無、グレーチングの目の細かさ、隙間やがたつき
	その他	駐車場出入口の安全性、 障害物の有無（駐車車両、駐輪、看板、花壇、植栽、車止めなど）
交通安全 施設	信号機	音響式信号機の有無
	横断歩道	横断歩道前後の段差や勾配
	その他	

伊勢市駅

1F・2F



ホーム → JR線ホーム 3分
社線の最寄駅改札口までの標準時分を表示しています。



B 班ゴール
(→南口まで移動)

【階段】
・階段の終点手前から手すりがあり、使い勝手が良い

・通路が長い（歩きたくなる工夫が欲しい）

スタート

【エレベーター】
・エレベーターの表記を JR と同じく 1F、2F の表記で統一させるべき（現在：連絡通路とホーム）

【トイレ】
・トイレの位置が奥まわっていて気づきにくい

近鉄名古屋・京都・大阪難波方面

・通路の矢印が小さくて薄い

【階段】
・手すりに点字がある
・両端の段端にシール有（中央部にはない）

・内方線がない
・ホームの傾斜が大きい



【エレベーター】
・エレベーターの位置が裏手で分かりにくい

【トイレ】
・多機能トイレのドアにビニールカーテンなどがあると助かる（視覚障がい者などは開け閉めが大変）
・男性トイレの手すりが手前に欲しい



【料金表】
・券売機が車いすからみえづらい（高さ、角度の問題）

A 班ゴール



(2) 宇治山田駅周辺【ルート1-2】

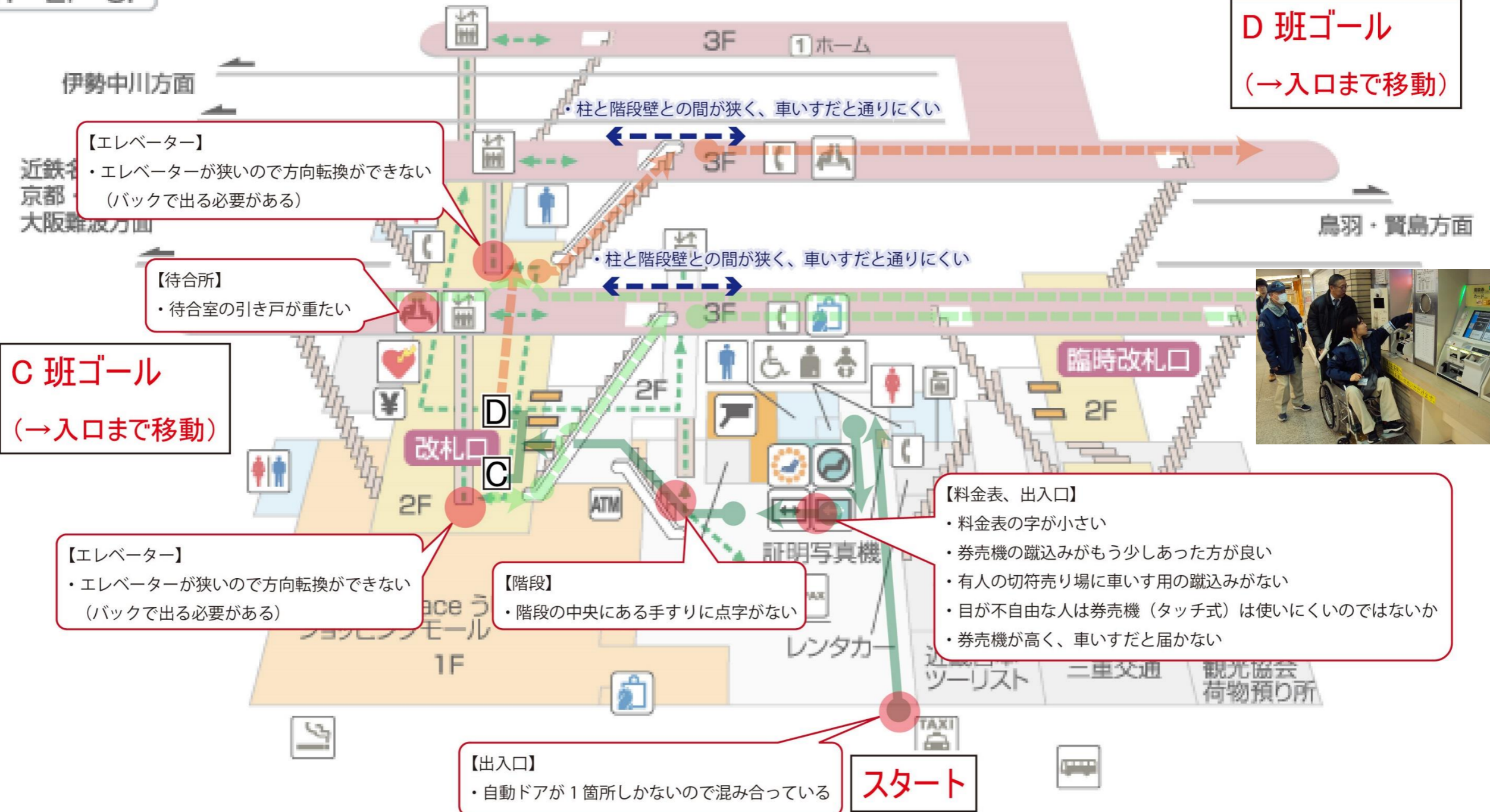
宇治山田駅周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月19日時点



宇治山田駅

1F・2F・3F



(3) 意見まとめ（伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区）

表 伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区のまち歩き（現地確認）における意見まとめ

項目		まとめ
伊勢市駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から市役所などの公共施設、外宮などの主要な観光施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上に店舗の看板や路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや、歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 公共交通を利用する際に、駅までの経路やバス停の位置などが煩雑になっており分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の長い交差点であって延長ボタンがない箇所や横断歩道の線が消えている箇所、エスコートゾーンのない交差点が多いなど、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通移動等円滑化基準省令に基づきバリアフリー化されている駅ではあるが、障がい者や車いす利用者などにとって一部使用しづらい箇所が散見される。
宇治山田駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から市役所などの公共施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されているが、色や形が混在し、また、歩道上に店舗の看板や路上駐車が多いため、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ グレーチングの目や電柱、歩道橋、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上のバス停で位置表示の誘導用ブロックがないバス停が多く、駅前広場ではバス停の位置が複雑になっているなど、公共交通に関する情報が分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の線が薄い箇所や歩行者横断を示す音が小さい箇所、エスコートゾーンのない交差点が多いなど、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通移動等円滑化基準省令に基づきバリアフリー化されている駅ではあるが、障がい者や車いす利用者などにとって一部使用しづらい箇所が散見される。

2-2. 二見浦駅周辺地区

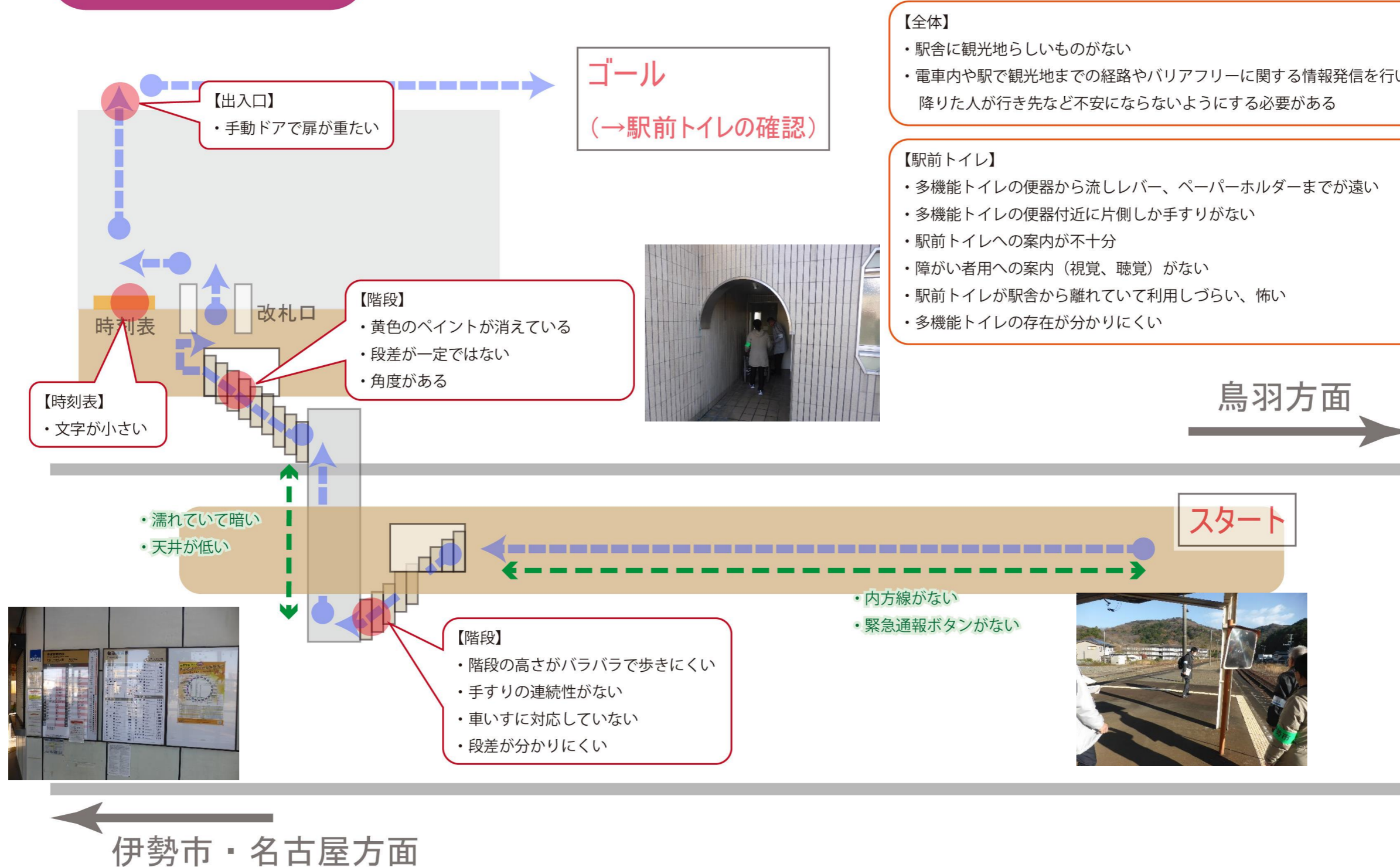
(1) 二見浦駅周辺【ルート2-1】

二見浦駅周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月23日時点



二見浦駅



【全体】

- ・駅舎に観光地らしいものがない
- ・電車内や駅で観光地までの経路やバリアフリーに関する情報発信を行い、降りた人が行き先など不安にならないようにする必要がある

【駅前トイレ】

- ・多機能トイレの便器から流しレバー、ペーパーホルダーまでが遠い
- ・多機能トイレの便器付近に片側しか手すりがない
- ・駅前トイレへの案内が不十分
- ・障がい者用への案内（視覚、聴覚）がない
- ・駅前トイレが駅舎から離れていて利用しづらい、怖い
- ・多機能トイレの存在が分かりにくい

(2) 二見興玉神社周辺【ルート2-2】

二見興玉神社周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月23日時点



(3) 意見まとめ（二見浦駅周辺地区）

表 二見浦駅周辺地区のまち歩き（現地確認）における意見まとめ

項目		まとめ
二見浦駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から総合支所などの公共施設、二見浦公園などの主要な観光施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上の路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 公共交通を利用する際に、駅までの経路（歩行者動線）やバス停の位置などが分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の線が薄い箇所や一時停止線がない交差点など、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅舎やトイレが十分にバリアフリー化されておらず、障がい者や車いすの方の利用が困難な状況である。 ・ 駅から観光地までの経路など、観光地としてのバリアフリーに関する情報提供が不足している。
二見興玉神社周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光施設同士を結ぶ経路や総合支所までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上に店舗の看板や路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 歩行者の通行空間と自動車の通行空間が混在しており、歩行者が安心して通行できる歩行者空間の確保が十分ではない状況である。 ・ 市内でも主要な観光施設である二見興玉神社は、玉砂利のため車いすでの移動が困難であり、それに関するバリアフリー情報や移動ルートの提供などが不足している。
	総合支所	<ul style="list-style-type: none"> ・ エレベーターの位置が分からない。 ・ 総合庁舎の出入口の音声案内装置がない。

第6編 移動等円滑化促進地区の選定

1. 促進地区の区域および生活関連施設に関する考え方

1-1. 促進地区の区域

(1) 伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区

「都市構造の評価に関するハンドブック（国交省）」において、一般的な徒歩圏はおおむね800mと示されている。また、伊勢市立地適正化計画において、伊勢市駅・宇治山田駅周辺は、将来的にわたり様々な都市機能を集め、維持していく方針としているエリアである「都市機能誘導区域」として設定している。これらのことから、伊勢市駅と宇治山田駅をそれぞれ中心とした徒歩圏800mの円と都市機能誘導区域が重なる範囲で、官公庁やホテルなど、主要な生活関連施設を含む範囲を、伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区における移動等円滑化促進地区の区域として設定した。

なお、ミタス伊勢や赤十字病院、伊勢図書館や福祉健康センターなどについては徒歩圏外であり、移動はバスが中心になると考えられることから、促進地区からは除外している。また、伊勢郵便局（本局）や明倫こども園については、徒歩圏内に位置しているが、都市機能誘導区域からは外れているため、促進地区からは除外している。

(2) 二見浦駅周辺地区

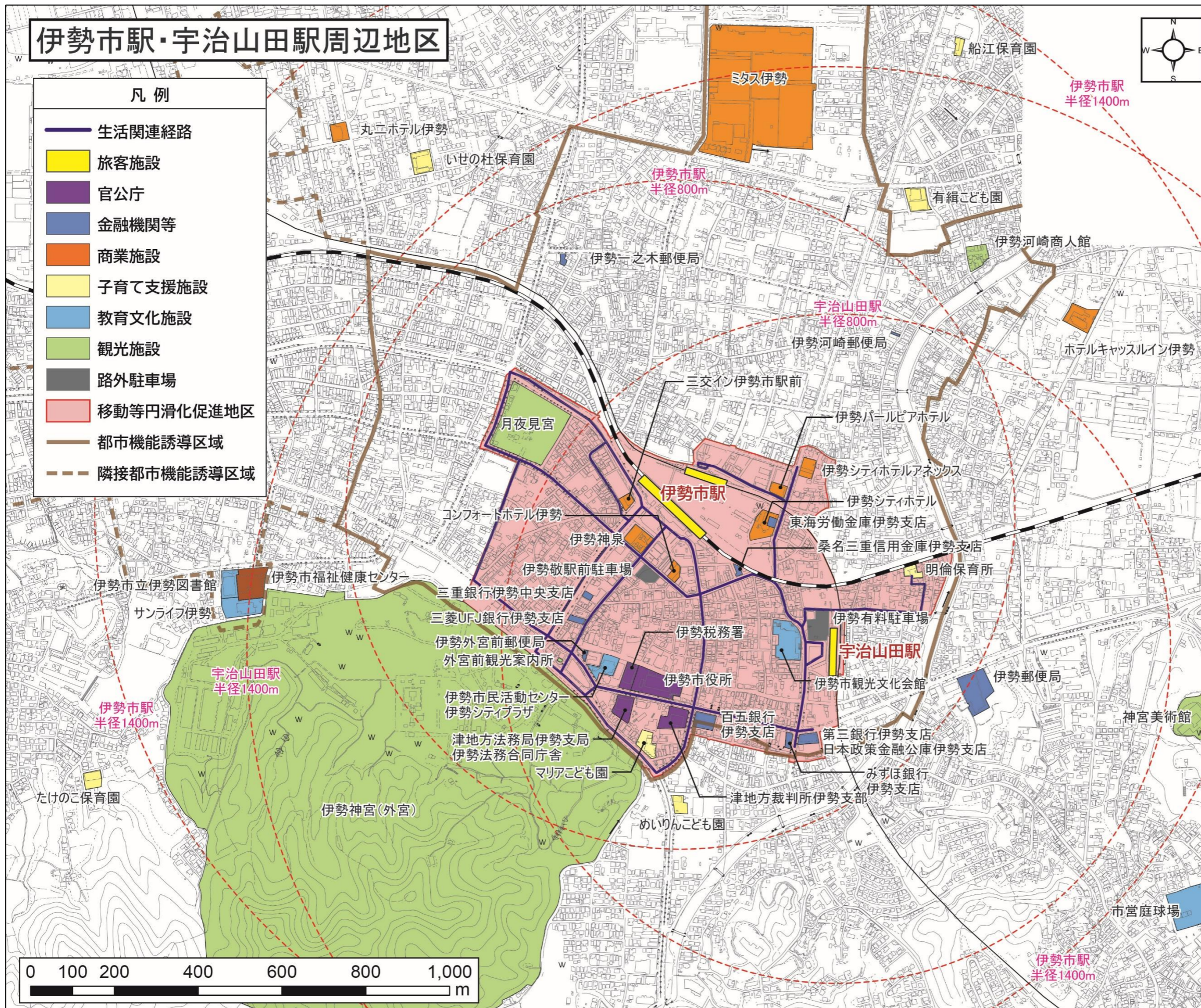
二見浦駅周辺地区においては、伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区と同様に、二見浦駅を中心とした徒歩圏800mの円で示す範囲を基本とし、円内およびその周辺における生活関連施設になりうる施設を含むような形で移動等円滑化促進地区を設定した。

なお、二見興玉神社入口は駅から800mの範囲外であるが、当該地区の主要な観光施設であることから、駅から神社入口までを移動等円滑化促進地区に設定している。また、二見浦駅の南側に立地している伊勢忍者キングダムについては、直線距離としては800m範囲内に含まれているが、施設入口までの経路は駅から約1.5kmあり、徒歩で移動する施設としては遠く、また駅の南側に他の生活関連施設になりうる施設がないことから、移動等円滑化促進地区の範囲は駅の北側のみとした。

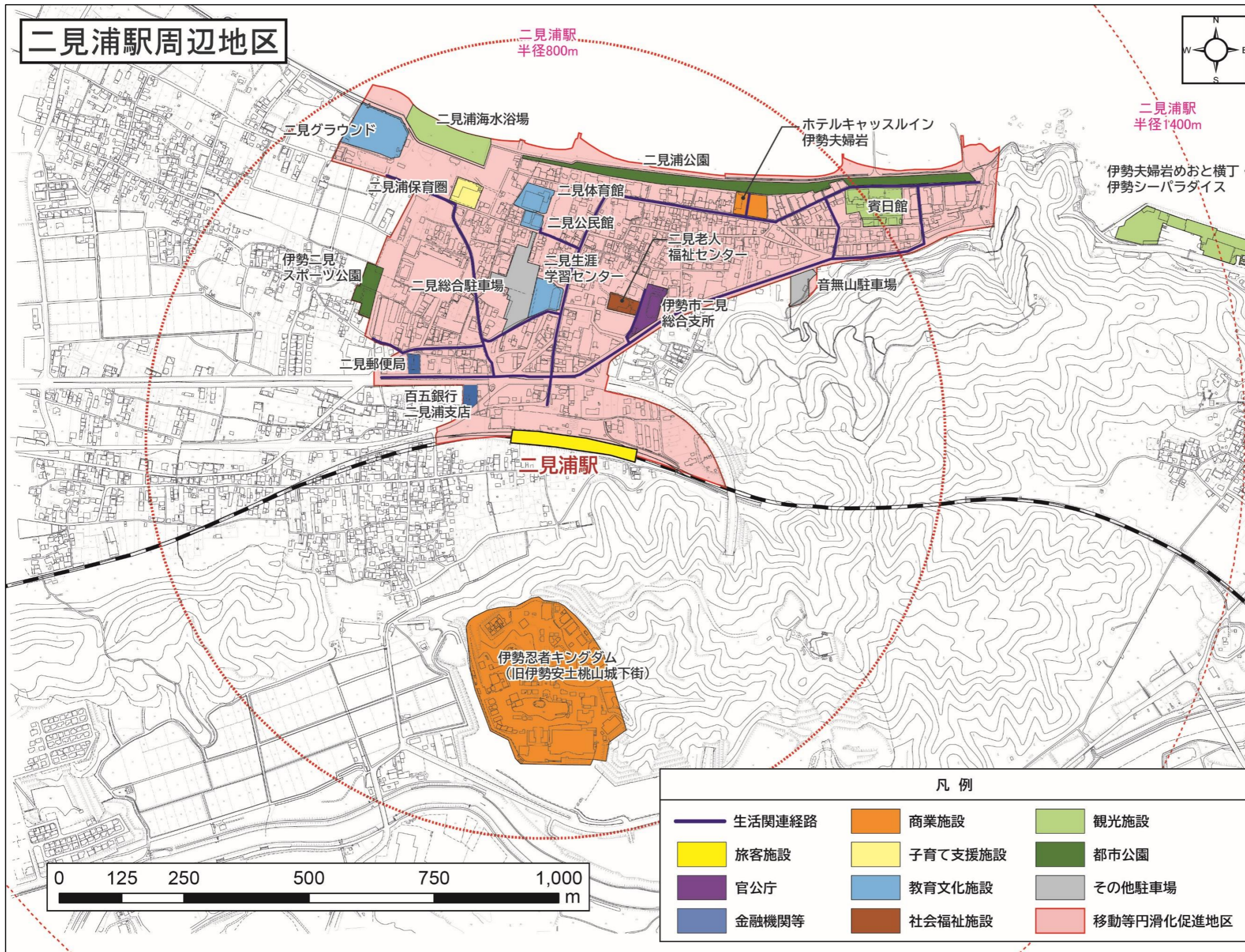
(3) 五十鈴川駅周辺地区

五十鈴川駅周辺地区は、神宮（内宮）に近く、来訪者が多数訪れるとともに、市立伊勢総合病院や三重交通Gスポーツの杜 伊勢（県営総合競技場）、大規模店舗など、多くの高齢者・障がい者等が利用する施設が立地している。このため、市内における重点的・一体的なバリアフリー化の効果が高い地区として、平成28年度（2016年度）に策定した「伊勢市交通バリアフリー基本構想」において五十鈴川駅周辺重点整備地区として指定しており、各施設設置管理者等によるバリアフリー化事業が進められている。

このことから、本マスタープランでは「伊勢市交通バリアフリー基本構想」に位置づけられた五十鈴川駅周辺重点整備地区の区域を移動等円滑化促進地区として位置づけ、生活関連経路および生活関連施設についても新たに設定していない。



※「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、徒歩圏内の地域として、地区全体の面積が概ね400ha未満の地区とされている。2km×2kmの正方形に外接する円の半径は1.4kmであることから、半径1.4kmの円を促進地区検討段階での徒歩圏と設定し、2km×2kmの正方形の内接する円で示される範囲（半径1kmの円内）の周辺地域における施設の立地状況についても分析を行った。（なお、促進地区設定の歳は、半径800mの円内を徒歩圏として設定している。）



※「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、徒歩圏内の地域として、地区全体の面積が概ね400ha未満の地区とされている。2km×2kmの正方形に外接する円の半径は1.4kmであることから、半径1.4kmの円を促進地区検討段階での徒歩圏と設定し、2km×2kmの正方形の内接する円で示される範囲(半径1kmの円内)の周辺地域における施設の立地状況についても分析を行った。(なお、促進地区設定の歳は、半径800mの円内を徒歩圏として設定している。)

1-2. 生活関連施設

生活関連施設については、2016年度（平成28年度）に策定した伊勢市交通バリアフリー基本構想における生活関連施設の考え方を踏まえつつ、以下に示す点を考慮した上で設定することとする。

表 本マスタープランにおける生活関連施設の考え方

生活関連施設	
金融機関等	銀行、郵便局などで、生活関連施設である鉄道駅から最も近い店舗を生活関連施設として設定している。
医療施設 商業施設	バリアフリー法により、床面積が2000㎡以上の特定建築物（不特定多数が利用、又は主として高齢者・障がい者等が利用する建築物。病院、店舗、ホテル、美術館など）を建築する際には、国のバリアフリー基準への適合が義務付けされている。このことから、本マスタープランにおいても、用途面積2,000㎡以上の店舗や病院について、生活関連施設として設定する。（病院については伊勢病院のみ。小原産婦人科は、用途面積が2000㎡未満）
子育て支援施設	バリアフリーマスタープランにおいてバリアフリー化を検討するのは、生活関連施設間の移動経路となっており、幼稚園、小中学校などへの移動については、各自宅から施設までとなるため、高齢者・障がい者等が多数利用する施設というバリアフリー法による要件から考え、当市では生活関連施設として位置づけないこととしている。また、妊産婦等が相当数利用する施設として保育所、認定こども園などを生活関連施設として設定しているが、幼稚園については3歳以上の利用が中心となりベビーカーの利用は多数ではないと考え、生活関連施設としては設定しないこととする。
社会福祉施設	生活関連施設として設定するのは、老人福祉センター、身体障害者福祉センターなど、公共施設であるものとしている。 バリアフリーマスタープランは施設間の経路のバリアフリー化を図る計画であり、老人ホームについては施設内での生活・活動が中心となり、地域での移動は少ないと考えたため、生活関連施設として設定しないこととする。 また、民間運営の小規模な福祉施設については、バリアフリー法による生活関連施設の要件である「相当数の高齢者・障がい者等が利用する施設」に該当しないと考えられるため、生活関連施設として設定しないこととする。

第7編 協議会・庁内検討会

1. 伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会

1-1. 策定経緯

令和元年度		
第1回	令和元年6月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介および会長・副会長の選出 ・伊勢市バリアフリーマスタープランについて
第2回	令和元年11月6日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・現況整理およびアンケート等の結果と、移動等円滑化促進地区の候補地区について ・まち歩き(現地確認)について
第3回	令和2年2月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩き(現地確認)の結果について ・バリアフリーマスタープラン基本方針について
令和2年度		
第4回	令和2年7月21日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・移動等円滑化促進地区および移動等円滑化促進に関する事項の設定 ・行為の届出等に関する事項(素案) ・バリアフリーに関する取り組みのヒアリングおよび今後のスケジュールについて
第5回	令和2年8月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・移動等円滑化促進地区等および行為の届出等について ・情報の収集、整理および提供について ・心のバリアフリーおよびその他の移動等円滑化の促進について ・移動等円滑化促進方針の評価について ・今年度のスケジュールについて
第6回	令和2年10月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市バリアフリーマスタープラン(案)について ・パブリックコメント実施事前説明 ・今年度のスケジュールについて
第7回	令和3年1月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果について ・伊勢市バリアフリーマスタープラン(案)について ・伊勢市バリアフリーマスタープラン資料編(案)について ・伊勢市交通バリアフリー基本構想の進捗状況について ・国補助金評価報告について

1-2. 委員名簿

伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会委員名簿（令和元年度）

敬称略

区分	氏名	所属・役職	備考
学識経験者	笠原 正嗣	皇學館大学現代日本社会学部教授	会長
施設設置管理者	池田 泰幸	国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所総括保全対策官	
	高山 勲	三重県伊勢建設事務所保全室保全課長	
	梶田 直樹	東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部 管理部総務課（企画）課長代理	
	高松 靖司	近畿日本鉄道株式会社 鉄道本部名古屋統括部施設部工務課長	
	三村 和也	三重交通株式会社 伊勢営業所長	
三重県公安委員会	三尾 啓輔	三重県公安委員会 （代理：三重県伊勢警察署交通第一課長）	
高齢者・障がい者団体 代表	中森 忠司	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会 総務事業推進課長	
	廣 政男	伊勢市障害者団体連合会 会長	
	勢力 潤	伊勢市視覚障害者福祉会 副会長	
	前島 賢	伊勢市老人クラブ連合会 会長	
市民代表	山本 誠	総連合自治会 会長	
	河之口 学	弁護士	
商工・観光関係団体 代表	野口 あゆみ	NPO 法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター事務局長	副会長
	西村 純一	公益社団法人 伊勢市観光協会専務理事	
	森 修	伊勢商工会議所 交通円滑化推進委員会委員長	
	村井 正明	伊勢商工会議所 商業部会 副部会長	
国土交通省	小野田 勝巖	国土交通省中部運輸局 交通政策部消費者行政・情報課長	
三重県	上田 雅章	三重県子ども・福祉部地域福祉課主幹	
伊勢市	鳥堂 昌洋	伊勢市健康福祉部長	
	須崎 充博	伊勢市産業観光部長	
	森田 一成	伊勢市都市整備部長	
	植村 法文	伊勢市教育委員会学校教育部長	

伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会委員名簿（令和2年度）

敬称略

区分	氏名	所属・役職	備考
学識経験者	笠原 正嗣	皇學館大学現代日本社会学部教授	会長
施設設置管理者	安部 伊折	国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所総括保全対策官	
	高山 勲	三重県伊勢建設事務所保全室保全課長	
	安達 英矩	東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部 管理部企画課係長	
	高松 靖司	近畿日本鉄道株式会社 鉄道本部名古屋統括部施設部工務課長	
	三村 和也	三重交通株式会社 伊勢営業所長	
三重県公安委員会	外谷 照孝	三重県公安委員会 (代理：三重県伊勢警察署交通官)	
高齢者・障がい者団体 代表	中森 忠司	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会 総務事業推進課長	
	酒徳 和之	伊勢市障害者団体連合会 監事	
	勢力 潤	伊勢市視覚障害者福祉会 副会長	
	前島 賢	伊勢市老人クラブ連合会 会長	
市民代表	前田 定夫	総連合自治会 副会長	
	河之口 学	弁護士	
商工・観光関係団体 代表	野口 あゆみ	NPO 法人 伊勢志摩バリアフリースーツアールセンター事務局長	副会長
	西村 純一	公益社団法人 伊勢市観光協会専務理事	
	中村 哲也	伊勢商工会議所 建設業部会 部会長	
	村井 正明	伊勢商工会議所 商業部会 副部会長	
国土交通省	小野田 勝巖	国土交通省中部運輸局 交通政策部消費者行政・情報課長	
三重県	吉岡 篤	三重県子ども・福祉部地域福祉課主幹	
伊勢市	大井戸 清人	伊勢市健康福祉部次長	
	須崎 充博	伊勢市産業観光部長	
	荒木 一彦	伊勢市都市整備部次長	
	植村 法文	伊勢市教育委員会学校教育部長	

1-3. 設置要綱

伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会要綱

(設置)

第1条 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年法律第91号。以下「法」という。）第24条の2第1項に規定する移動等円滑化促進方針の作成に関する協議を行うため、法第24条の4第1項に基づき伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会（以下「協議会」という。）を組織する。

(組織)

第2条 協議会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 伊勢市
- (2) 法第2条第3号に規定する施設設置管理者
- (3) 三重県公安委員会
- (4) 高齢者又は障害者の関係団体
- (5) 商工又は観光の関係団体
- (6) 学識経験者
- (7) 関係行政機関
- (8) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(庶務)

第3条 協議会の庶務は、伊勢市都市整備部都市計画課において処理する。

(その他)

第4条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

2. 庁内検討会

伊勢市バリアフリーマスタープラン庁内検討会（令和元年度）

部 名	課 名	役 職	氏 名
健康福祉部	福祉総務課	課長	大桑 和秀
〃	障がい福祉課	課長	濱口 基久
〃	高齢者支援課	課長	小林 記子
産業観光部	観光振興課	課長	富岡 由紀
〃	商工労政課	課長	東世古 幸久
都市整備部	都市計画課	課長	荒木 一彦
〃	交通政策課	課長	小林 和生
〃	基盤整備課	課長	倉野 隆宏
〃	維持課	課長	上田 淳一
教育委員会事務局	学校教育課	課長	西岡 幸一



事務局：都市計画課


伊勢市バリアフリーマスタープラン庁内検討会（令和2年度）

部 名	課 名	役 職	氏 名
健康福祉部	福祉総務課	課長	大桑 和秀
〃	障がい福祉課	課長	濱口 基久
〃	高齢者支援課	課長	小林 記子
産業観光部	観光振興課	課長	小林 進
〃	商工労政課	課長	東世古 幸久
都市整備部	都市計画課	課長	中村 哲也
〃	交通政策課	課長	小林 和生
〃	基盤整備課	課長	倉野 隆宏
〃	維持課	課長	上田 淳一
教育委員会事務局	学校教育課	課長	大島 充代


事務局：都市計画課

第8編 用語集

あ行	
移動等円滑化	高齢者・障がい者等の移動又は施設の利用に係る身体・精神等の負担を軽減することにより、その移動上又は施設の利用上の利便性及び安全性を向上すること。
移動円滑化促進地区	生活関連施設が集積し、その間の移動が通常徒歩で行われる地区のことであり、移動等円滑化促進方針（バリアフリーマスタープラン）においては、生活関連施設および生活関連経路の移動等円滑化に係る方針を示す。なお、移動等円滑化促進地区において具体的なバリアフリー化整備事業を行う際には、基本構想を策定し、重点整備地区を位置づけることを検討する。
移動等円滑化の促進に関する基本方針	「バリアフリー法」に基づき制定した国の移動等円滑化の促進に関する基本方針（平成18年（平成30年改正））で、移動等円滑化の意義及び目標、施設設置管理者が講ずべき措置、基本構想の指針、移動等円滑化施策に関する基本的事項などを定めている。
か行	
グレーチング	<p>金属製の溝蓋のことで、杖やベビーカーの車輪が落ちないようにするために網目が小さくなっているグレーチングは主に歩行者通行部に、網目の大きなグレーチングは車両通行部に設置されることが多い。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>網目の小さな グレーチング</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>網目の大きな グレーチング</p> </div> </div>
心のバリアフリー	高齢者や障がい者などの多様な人々が安心して日常生活や社会生活を送ることができるように、差別や偏見、無理解等による意識上の障壁（バリア）をなくすこと。また、高齢者や障がい者などが抱える困難を自らの問題として認識し、相互に理解を深め、必要な配慮や支援を行うこと。
さ行	
視覚障害者誘導用ブロック	<p>視覚障がい者が足裏の触覚で認識できるよう、突起を表面につけたもので、視覚障がい者を安全に誘導するために地面や床面に敷設されているブロック（プレート）のこと。</p> <p>進行方向を示す線状の誘導ブロックと、危険箇所や誘導対象施設等の位置を示す点状の警告ブロックがある。</p>
重点整備地区	<p>旅客施設を中心とする地区や、高齢者、障害者等が利用する施設が集積する地区において、面的・一体的なバリアフリー化を推進する地区であり、移動等円滑化促進方針（バリアフリーマスタープラン）における「移動等円滑化促進地区」のうち、基本構想において以下のような地区において具体事業の調整が可能な地区等が「重点整備地区」と設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区 ・生活関連施設及び生活関連経路について、バリアフリー化事業が特に必要な地区 ・バリアフリー化の事業を重点的・一体的に行うことが総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区 <p>伊勢市では、平成28年度に策定された伊勢市交通バリアフリー基本構想において五十鈴川駅周辺で定められています。</p>

身体障害者手帳	身体障害者福祉法で定められている障がいの範囲に該当される方に対して、いろいろな援助を受けやすくするために交付される。障がいの程度により1級から6級までの区分があり、等級により福祉制度の適用範囲が異なる。
スロープ	 車いすやベビーカーなどが、通路や廊下などの床の高低差を通り易いように、緩やかな勾配で整備した傾斜路のこと。
生活関連経路	生活関連施設を結び、主に徒歩で移動が行われる主要な経路のうち、重点的にバリアフリー化を図る道路のこと。
生活関連施設	「鉄道駅などの旅客施設やその周辺に立地する、官公庁施設、福祉施設、病院、文化・社会施設、商業施設、公園などで、多くの高齢者や障がい者、子ども連れの方などが徒歩または車いすにより利用すると考えられる施設」のこと。
その他の事業	生活関連施設や生活関連経路など、重点整備地区におけるバリアフリー化事業のうち、特定事業に該当しないもの。
ソフト(面)	人材や意識、情報など、非物理的な要素のこと。

た行

多機能トイレ	 車いす対応設備やオストメイト(人口肛門や人口膀胱の保持者)対応設備、乳幼児対応設備など、様々なニーズに対応できるように複数の機能が整備されたトイレのこと。
特定事業	バリアフリー法第2条で定める移動等円滑化に係る6つの事業(公共交通特定事業、道路特定事業、路外駐車場特定事業、都市公園特定事業、建築物特定事業、交通安全特定事業)のことで、基本構想において特定事業に位置づけられた施設について、事業を実施する者には、特定事業計画の作成とこれに基づく事業実施の義務が課せられる。

は行

ハード(面)	施設や設備、器具など物理的要素のこと。
パブリックコメント	行政機関などが政策立案に当たり、広く住民に計画案を公表し、それに対して出された意見、情報、改善案(=コメント)を求める手続きのことで、その結果を考慮し、必要に応じて反映することで最終的な計画を策定することになる。
バリアフリー	高齢者・障がい者等にとって障壁(バリア)となるものを取り除く(フリー)こと。物理的障壁の除去だけでなく、障がい者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いられる。
バリアフリー基本構想	「移動等円滑化基本方針」に基づき、当該市町村の区域内の重点整備地区について、移動等円滑化に係る事業の重点的かつ一体的な推進に関し市町村が策定する基本的な構想のこと。
バリアフリー法	正式名称は「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」であり、平成18年(2006年)に、一体的・連続的なバリアフリー化を促進するために、建築物のバリアフリーに関するハートビル法と道路や公共交通に関する交通バリアフリー法とを一体化し、さらに拡充された法制度(平成30年(2018年)一部改正)。
PDCAサイクル	Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4段階を繰り返す(サイクルさせる)ことにより、継続的に改善すること。

や行	
ユニバーサルデザイン	あらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方のこと。

ら行	
路外駐車場	道路の路面外に設置される自動車(自動二輪車を含む)のための駐車場で、駐車場管理者が定める管理規程に基づく営業時間内において、一般不特定多数の者が自由にこれを使用できる状態にある駐車場のこと(月極駐車場や従業員専用駐車場のよう特定の者以外の利用が禁じられている駐車場は該当しない)。

伊勢市バリアフリーマスタープラン
資料編

令和3年2月策定

伊勢市都市整備部都市計画課【事務局（窓口）】

伊勢市岩渕1丁目7番29号

TEL：0596-21-5591 FAX：050-1704-1924